

8.4 動物

8.4.1 現況調査方法等

1) 調査内容

調査内容を表 8.4-1 に示す。

表 8.4-1 調査内容（動物）

項目	調査内容
①動物相及び注目すべき種	・構成種 ・注目すべき種等の分布、繁殖状況、行動圏、土地利用等 ・注目すべき種の生息環境
②注目すべき種の生息環境	・地形・地質、水象、気象、植生、食草の分布等
③注目すべき生息地	・動物群集の生息地として注目される場所の位置、環境条件、生息種等

2) 調査方法

既存資料調査の方法を表 8.4-2、現地調査の方法を表 8.4-3～表 8.4-6 に示す。

現地調査の対象は、哺乳類、鳥類、両生類・爬虫類、昆虫類とする。

表 8.4-2 既存資料調査方法（動物）

①動物相及び注目すべき種	下記の文献その他の資料を整理した。 ・「環境省レッドリスト 2020」※
②注目すべき種の生息環境	・「宮城県の希少な野生動植物-宮城県レッドリスト 2021 年版」※
③注目すべき生息地	・「令和 3 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（令和 4 年 2 月、仙台市）※における、保全上重要な種（哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、魚類、昆虫類） ・「令和元年度 東北地方太平洋沿岸地域重点地区調査業務調査報告書」（環境省自然環境局生物多様性センター、令和 2 年 3 月）

※ 「令和 3 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」では、参照資料として「環境省レッドリスト 2020」及び「宮城県の希少な野生動植物-宮城県レッドリスト 2021 年版」が言及されている。

表 8.4-3 現地調査方法（哺乳類）

任意観察法	・調査地域内を踏査し、動物を目視および鳴き声等の確認により生息種を把握した。
フィールドサイン法	・調査地域内を踏査し、糞、足跡、食痕、巣、爪痕、掘り返し等のフィールドサインにより、生息種を把握した。
自動撮影法	・センサーカメラを設置し撮影を行った。

表 8.4-4 現地調査方法（鳥類）

任意観察法	・他綱の調査*時や計画地付近を移動中にシギ・チドリ類及び重要種が確認された場合は、適宜記録を行った。
ラインセンサス法	・予め設定したセンサスルート（図 8.4-1 の L1～L3）上を歩き、一定範囲内に出現する鳥類を姿や鳴き声により識別して、種別の個体数をカウントした。
定点調査法	・調査対象地域を広範囲に見渡せる場所に調査地点を設定し、出現する渡り鳥及び希少猛禽類を含む鳥類全般を観察・記録した。観察された鳥類は、種別個体数をカウントすると共に、計画地に関わる飛翔があれば飛翔経路を記録した。

※ 「他綱の調査」とは哺乳類・爬虫類・両生類・昆虫類の調査をいう。

表 8.4-5 現地調査方法（爬虫類、両生類）

任意観察法	・調査地域内を踏査し、成体、卵、幼生の目視又は捕獲により、生息種を把握した。
-------	--

表 8.4-6 現地調査方法（昆虫類）

任意観察法	・調査地域内を踏査し、成体、卵、幼生の目視又は捕獲により、生息種を把握した。
スウィーピング法	・捕虫網を水平に振り草本、地上の昆虫類をすくい取り、生息種を把握した。
ライトトラップ法	・夜間、ボックス式ライトトラップを設置し、誘引される夜行性昆虫を把握した。
ベイトトラップ法	・糖蜜や腐肉などの誘引餌（ベイト）を入れたトラップを埋設して、落ち込んだ昆虫を採集し、生息種を確認した。

3) 調査地域等

既存資料調査の調査地域は、「第6章 地域の概況」の調査範囲とした。

現地調査については、計画地内及び計画地周辺 200m の範囲とした。哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類については、上記の範囲に加え、蒲生干潟及び七北田川も対象とした。

設定した調査地点を表 8.4-7 及び図 8.4-1 に示す。

表 8.4-7 調査地点（動物）

区分	No.	環境の概要
地点	P1	蒲生干潟及び七北田川と対象区域を行き来する鳥類及び、区画内で行動する鳥類の動きを把握するための地点
	P2	計画地内で行動する鳥類の動きを把握するための地点
	P3	計画地内の土地利用であり、昆虫類調査のためにライトトラップを実施する地点
	P4	計画地内の土地利用であり、昆虫類調査のためにベイトトラップを実施する地点
	P5	計画地内の土地利用であり、動物撮影用のセンサーカメラを設置する地点
	P6	計画地内の土地利用であり、動物撮影用のセンサーカメラを設置する地点
	P7	計画地外の土地利用であり、計画地から 200m 範囲内でライトトラップを実施する地点
	P8	計画地外の土地利用であり、計画地から 200m 範囲内でベイトトラップを実施する地点
区画	A1	蒲生干潟、計画地と共に干潮時のシギ・チドリ類等利用状況を把握する区画
	A2	七北田川、計画地と共に鳥類および哺乳類の利用状況を把握する区画
ライン	L1	計画地内の土地利用であり、哺乳類、鳥類、昆虫の踏査調査ライン
	L2	計画地外周から 200m 以内土地利用であり、哺乳類、鳥類、昆虫の踏査調査ライン
	L3	計画地の外周の土地利用であり、哺乳類、鳥類、昆虫の踏査調査ライン

※1 計画地から離れている蒲生干潟（A1）及び七北田川（A2）内の状況については、補足的に調査した。

※2 七北田川（A2）において、哺乳類については、計画地に影響の大きい左岸の状況を確認し、鳥類については、視認できる範囲で確認した。

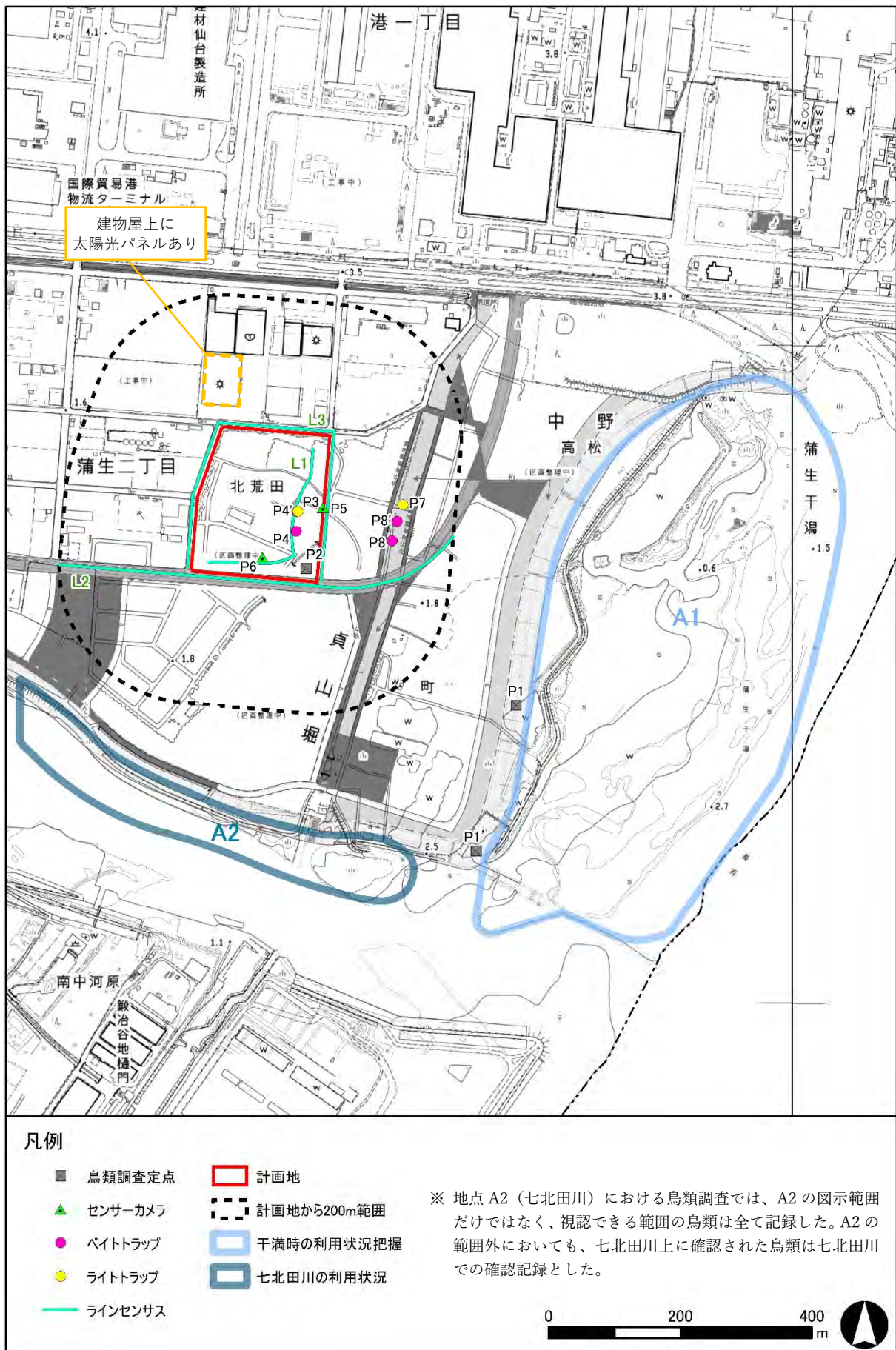


図 8.4-1 調査地点 (動物)

4) 調査期間等

既存資料調査については、入手可能な最新情報とした。

現地調査の調査期間を表 8.4-8 に示す。

表 8.4-8 調査方法と実施時期（哺乳類）

調査方法	調査期日
任意踏査	夏季：令和3年8月8日・9日 秋季：令和3年10月11日・12日 冬季：令和3年12月20日・21日 春季：令和4年5月23日・24日 夏季（補足調査※）：令和4年7月4日・5日
フィールドサイン法	夏季：令和3年8月8日・9日 秋季：令和3年10月11日・12日 冬季：令和3年12月20日・21日 春季：令和4年5月23日・24日 夏季（補足調査※）：令和4年7月4日・5日
自動撮影法	各季調査の合間の期間に自動撮影機能をもつセンサーカメラを設置した。 撮影期間1（夏季～秋季）：令和3年8月8日～同10月11日 撮影期間2（秋季～冬季）：令和3年10月12日～同12月20日 撮影期間3（冬季～春季）：令和3年12月21日～令和4年4月29日 撮影期間4（春季～夏季補足）：令和4年4月30日～同7月4日

※ 令和4年夏季に鳥類の補足調査を行うことになったこと、また、令和3年夏季調査では哺乳類が確認されなかったため、調査結果の妥当性の確認も兼ねて、補足的に調査を行った。

表 8.4-9 調査方法と実施時期（鳥類）

調査方法	調査期日
任意踏査	夏季：令和3年8月8日・9日 秋季：令和3年10月11日・12日・21日 冬季：令和3年12月20日・21日 春季：令和4年4月29日・30日 夏季（補足調査※）：令和4年7月4日・5日
ラインセンサス調査	夏季：令和3年8月9日 秋季：令和3年10月21日 冬季：令和3年12月20日 春季：令和4年4月30日 夏季（補足調査※）：令和4年7月5日
定点調査	夏季：令和3年8月8日・9日 秋季：令和3年10月21日 冬季：令和3年12月20日・21日 春季：令和4年4月29日・30日 夏季（補足調査※）：令和4年7月4日・5日

※ 仙台市環境影響評価審査会の指摘を踏まえ、秋季以降、調査範囲を一部追加したため、令和4年夏季に変更後の調査範囲で補足調査を行った。

表 8.4-10 調査方法と実施時期（爬虫類・両生類）

調査方法	調査期日
任意踏査	夏季：令和3年8月8日・9日 秋季：令和3年10月11日・12日 春季：令和4年5月23日・24日 夏季（補足調査※）：令和4年7月4日・5日

※ 鳥類の補足調査で現地に入ることから、同調査中に可能な範囲で、爬虫類・両生類についても補足的に調査を行った。

表 8.4-11 調査方法と実施時期（昆虫類）

調査方法	調査期日※
任意観察法	夏季：令和3年8月8日・9日 秋季：令和3年10月11日・12日 春季：令和4年5月23日・24日
スウィーピング法	夏季：令和3年8月8日・9日 秋季：令和3年10月11日・12日 春季：令和4年5月23日・24日
ライトトラップ調査	夏季：令和3年8月8日設置～8月9日回収 秋季：令和3年10月11日設置～10月12日回収 春季：令和4年5月23日設置～5月24日回収
ベイトトラップ調査	夏季：令和3年8月8日設置～8月9日回収 秋季：令和3年10月11日設置～10月12日回収 春季：令和4年5月23日設置～5月24日回収

※ 昆虫類については、調査範囲の変更等はなく、令和3年夏季調査で必要な調査結果が得られたため、補足調査は行っていない。

8.4.2 調査結果の概要

1) 既存資料調査

既存資料調査による動物相、注目すべき種、動物生息地として重要な地域の確認結果は、「第6章 地域の概況 / 6.1 自然的状況 / 6.1.4 生物環境 / 2) 動物」に示すとおりである。

2) 現地調査

(1) 哺乳類

哺乳類の調査結果を表 8.4-12 に示す。

夏季調査（1回目）では哺乳類は確認されず、秋季調査では1目1科2種、冬季調査では1目1科2種、春季調査では1目1科2種、夏季調査（2回目補足）では1目1科1種、合計1目1科2種の哺乳類が確認された。

計画地内を含む広範囲でホンダタヌキおよびアカギツネの糞が確認され、特に蒲生干潟、七北田川の堤防上にはホンダタヌキのため糞が複数確認された。また計画地内に設置したセンサーカメラでは、ホンダタヌキが撮影された。

(2) 鳥類

鳥類の調査結果を表 8.4-13 に示す。夏季調査（1回目）では7目18科28種、秋季調査では11目25科49種、冬季調査では11目21科47種、春季は10目22科41種、夏季調査（2回目補足）では8目21科34種、合計11目27科79種の鳥類が確認された。

計画地内ではハシブトガラス、ツバメ、スズメといった市街地でも見られる機会の多い種の他、草地や丘陵地等で見られるヒバリや、猛禽類であるトビやノスリの飛翔が確認された。

計画地周辺200mの範囲では、計画地内で確認された種に加え、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロといった、主に草地や林縁等において見られる種が確認された。

蒲生干潟・七北田川では、国指定の天然記念物で海辺の環境を生息の場とするコクガンの群れや、猛禽類のミサゴ、ハイタカ、オオタカ、ノスリ、チョウゲンボウ、ハヤブサの飛翔が確認された。また、その他にヒドリガモ、キンクロハジロ、ダイサギ、オオバン、ダイゼン、アオアシシギ、オオセグロカモメ、カワセミ等の水辺において見られる種が確認された他、干潟の後背および七北田川左岸河川敷にあるヨシ原ではアオジ、オオジュリン等が確認された。

(3) 爬虫類・両生類

爬虫類・両生類の調査結果を表 8.4-14 に示す。

爬虫類は全季を通じて確認されなかった。

両生類は、春季調査においてニホンアマガエル1種のみが確認された。ニホンアマガエルは、計画地周辺200mの範囲に含まれる貞山堀西側の草地において鳴き声が確認された。

(4) 昆虫類

昆虫類の調査結果を表 8.4-15 に示す。

夏季調査では 8 目 32 科 67 種、秋季調査では 9 目 35 科 51 種、春季調査では 11 目 38 科 67 種、合計 11 目 60 科 135 種の昆虫が確認された。

計画地内ではオオハサミムシ、エンマコオロギ、ショウリョウバッタ、モンキチョウ、セアカヒラタゴミムシ、トビイロシワアリ等、荒地や公園等において見られる種が確認された。

計画地周辺 200m の範囲では特に貞山堀の草地において、上記の種に加えてベニシジミやキタテハ、ヒメコガネ、フタモンアシナガバチなど、草地において見られる種が多く確認された。

(5) 動物生息地として重要な地域

既存資料調査を踏まえた現地調査の結果、計画地の東～南にかけて分布する蒲生干潟、七北田川で確認された種が多く、これらのエリアが動物、特に鳥類の生息地として重要な地域であることが確認された。

表 8.4-12 確認種の一覧（哺乳類）

目名	科名	種名※3	夏季※1※2					秋季※1※2					冬季※1※2					春季※1※2					夏季（補足）※1※2									
			①計画地内	②計画地周辺	③蒲生干潟	④七北田川	⑤その他	全体	①計画地内	②計画地周辺	③蒲生干潟	④七北田川	⑤その他	全体	①計画地内	②計画地周辺	③蒲生干潟	④七北田川	⑤その他	全体	①計画地内	②計画地周辺	③蒲生干潟	④七北田川	⑤その他	全体						
ネコ(食肉)	イヌ	ホンドタヌキ	-	-	-	-	-	-	○	○	-	○	○	●	○	○	○	○	○	●	-	-	○	○	○	●	-	-	○	○	○	●
		アカギツネ	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	●	○	○	-	-	○	●	-	-	-	-	○	●	-	-	-	-	-	-
1目	1科	2種	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	2	2	2	2	1	1	2	2	0	0	1	1	2	2	0	0	1	1	1	1

※1 「○/●」は確認（○…場所別/●…全体）、「-」は未確認である。

※2 「②計画地周辺」は、計画地周辺 200m の範囲内。「③蒲生干潟」と「④七北田川」は調査地点図（図 8.4-1）で示した範囲に対応。「⑤左記以外」は、①～④のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である。

※3 種名は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト令和3年度生物リスト」（国土交通省、令和3年度）に準拠した。

表 8.4-13 確認種の一覧（鳥類）

目名	科名	種名※3	夏季※1※2					秋季※1※2					冬季※1※2					春季※1※2					夏季（補足）※1※2									
			①計画地内	②計画地周辺	③蒲生干潟	④七北田川	⑤その他	全体	①計画地内	②計画地周辺	③蒲生干潟	④七北田川	⑤その他	全体	①計画地内	②計画地周辺	③蒲生干潟	④七北田川	⑤その他	全体	①計画地内	②計画地周辺	③蒲生干潟	④七北田川	⑤その他	全体						
カモ	カモ	コクガン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		オカヨシガモ	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	●	-	-	-	○	-	●	-	-	○	-	-	●	-	-	-	-	-	-
		ヒドリガモ	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	●	-	-	○	○	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		マガモ	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	●	-	-	○	○	-	●	-	-	○	-	-	●	-	-	-	-	-	-
		カルガモ	○	○	○	○	-	●	-	-	○	○	-	●	-	○	○	○	-	●	-	○	○	○	-	●	-	○	○	○	-	●
		ハシビロガモ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	●	-	-	○	-	-	●	-	-	-	-	-	-
		オナガガモ	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	●	-	-	○	○	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		シマアジ	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	●	-	-	○	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		コガモ	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	●	-	-	○	○	-	●	-	-	○	-	-	●	-	-	-	-	-	-
		ホシハジロ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		キンクロハジロ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	●	-	-	○	○	-	●	-	-	-	-	-	-
		スズガモ	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	●	-	-	○	○	-	●	-	-	-	○	-	●	-	-	-	-	-	-
		ホオジロガモ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		ウミアイサ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	●	-	-	○	○	-	●	-	-	○	-	-	●	-	-	-	-
カンムリカイツブリ	-			-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	●	-	-	-	○	-	●	-	-	-	○	-	●	-	-	-	-	-	-
ハト	ハト	カワラバト(ドバト)	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	●	-	-	-	○	-	●	○	○	-	○	-	●	○	○	-	○	-	●
		キジバト	-	-	○	-	-	●	-	-	○	-	-	●	-	-	-	○	-	●	○	○	○	○	-	●	○	○	○	○	-	●
カツオドリ	ウ	カワウ	-	-	○	-	-	●	○	○	○	○	-	●	-	○	○	○	-	●	○	○	○	○	-	●	○	○	○	○	-	●
		ウミウ	-	○	○	○	-	●	-	-	○	○	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(次ページへ続く)

(前ページより続く)

目名	科名	種名※3	夏季※1※2					秋季※1※2					冬季※1※2					春季※1※2					夏季(補足)※1※2									
			① 計画 地内	② 計画 地周 辺	③ 蒲生 干潟	④ 七北 田川	⑤ その 他	全体	① 計画 地内	② 計画 地周 辺	③ 蒲生 干潟	④ 七北 田川	⑤ その 他	全体	① 計画 地内	② 計画 地周 辺	③ 蒲生 干潟	④ 七北 田川	⑤ その 他	全体	① 計画 地内	② 計画 地周 辺	③ 蒲生 干潟	④ 七北 田川	⑤ その 他	全体						
ペリカン	サギ	ゴイサギ	-	-	○	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		ササゴイ	-	-	○	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	●	○	○	○	○	-	●
		アオサギ	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	●	-	○	○	○	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	●
		ダイサギ	○	○	○	-	-	●	-	-	○	○	-	●	-	○	○	○	-	●	-	○	○	○	-	●	-	○	○	○	-	●
		チュウサギ	-	-	○	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	●
		コサギ	-	-	○	-	-	●	-	-	○	○	-	●	-	-	○	○	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		カラシラサギ	-	-	○	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ツル	クイナ	オオバン	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	●	-	-	○	-	○	●	-	-	○	-	-	●	-	-	-	-	-	-
チドリ	チドリ	ムナグロ	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		ダイゼン	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		イカルチドリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	●	-	-	○	○	-	●
		コチドリ	-	-	○	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	○	●	○	○	○	○	-	●
		シロチドリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	●
		メダイチドリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	●	-	-	-	-	-	-
		シギ	チュウシャクシギ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	●	-	-	-	-	-
ツルシギ	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
アオアシシギ	-	-	○	-	-	●	-	-	○	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
キアシシギ	-	-	○	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	●	-	-	-	-	-	-		
イソシギ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
ミユビシギ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
トウネン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	●	-	-	-	-	-	-		

(次ページへ続く)

(前ページより続く)

目名	科名	種名※3	夏季※1※2					秋季※1※2					冬季※1※2					春季※1※2					夏季(補足)※1※2									
			① 計画 地内	② 計画 地周 辺	③ 蒲生 干潟	④ 七北 田川	⑤ その他	全体	① 計画 地内	② 計画 地周 辺	③ 蒲生 干潟	④ 七北 田川	⑤ その他	全体	① 計画 地内	② 計画 地周 辺	③ 蒲生 干潟	④ 七北 田川	⑤ その他	全体	① 計画 地内	② 計画 地周 辺	③ 蒲生 干潟	④ 七北 田川	⑤ その他	全体						
チドリ	カモメ	ウミネコ	-	-	○	-	-	●	-	-	○	○	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	●	-	-	○	○	○	●
		セグロカモメ	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		オオセグロカモメ	-	-	○	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	●	-	-	○	○	○	●	○	○	○	○	○	●
		コアジサシ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	●
タカ	ミサゴ	ミサゴ	○	○	○	-	-	●	○	○	○	○	-	●	○	○	○	○	-	●	-	○	○	○	○	●	○	○	-	-	-	●
	タカ	トビ	○	○	○	-	-	●	○	○	○	○	-	●	○	○	○	○	○	●	○	○	-	○	○	●	○	○	○	○	○	●
		ハイタカ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	●	-	-	-	○	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		オオタカ	-	-	○	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		ノスリ	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	●	○	○	○	○	○	●	○	○	-	○	○	●	-	-	-	-	○	●
ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	●	-	-	-	○	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	●	-	○	-	○	○	●	-	-	○	-	-	●	○	○	○	-	○	●
		ハヤブサ	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	-	●	-	-	○	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
スズメ	モズ	モズ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	●	-	-	-	○	-	●	-	-	○	-	-	●	-	-	○	-	○	●
	カラス	オナガ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		ハシボソガラス	○	○	○	-	-	●	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	●	○	○	○	-	-	●	○	○	○	○	○	●
		ハシブトガラス	○	○	-	-	-	●	-	-	-	○	-	●	○	○	○	○	-	●	○	○	○	○	○	●	-	○	-	-	-	●
	ヒバリ	ヒバリ	○	○	○	-	-	●	○	○	○	○	-	●	-	-	-	○	-	●	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	●
	ツバメ	ショウドウツバメ	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		ツバメ	○	○	○	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	●	○	○	○	○	○	●
ヒヨドリ	ヒヨドリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	○	○	●	-	-	-	-	-	-	

(次ページへ続く)

(前ページより続く)

目名	科名	種名※3	夏季※1※2					秋季※1※2					冬季※1※2					春季※1※2					夏季(補足)※1※2									
			① 計画 地内	② 計画 地周 辺	③ 蒲生 干潟	④ 七北 田川	⑤ その 他	全 体	① 計画 地内	② 計画 地周 辺	③ 蒲生 干潟	④ 七北 田川	⑤ その 他	全 体	① 計画 地内	② 計画 地周 辺	③ 蒲生 干潟	④ 七北 田川	⑤ その 他	全 体	① 計画 地内	② 計画 地周 辺	③ 蒲生 干潟	④ 七北 田川	⑤ その 他	全 体	① 計画 地内	② 計画 地周 辺	③ 蒲生 干潟	④ 七北 田川	⑤ その 他	全 体
スズメ	ウグイス	ウグイス	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	●	-	-	○	○	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	●
	ヨシキリ	オオヨシキリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	-	●
		コヨシキリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	●
	セッカ	セッカ	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	●
	ムクドリ	ムクドリ	-	○	-	-	-	●	○	○	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	-	-	●
		ツグミ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-
	ヒタキ	ジョウビタキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		ノビタキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		イソヒヨドリ	-	○	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	スズメ	スズメ	○	○	○	-	-	●	○	○	○	○	-	●	-	-	○	○	○	●	○	○	○	○	-	●	○	○	○	○	○	●
	セキレイ	ハクセキレイ	○	○	○	○	-	●	○	○	○	○	-	●	○	○	○	○	-	●	○	○	○	○	-	●	○	○	○	○	-	●
		セグロセキレイ	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	●
		タヒバリ	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	アトリ	カワラヒワ	○	○	○	-	-	●	○	○	○	○	-	●	-	○	○	○	○	●	○	○	○	○	-	●	○	○	○	○	-	●
	ホオジロ	ホオジロ	-	○	○	-	-	●	-	-	○	-	-	●	-	-	○	○	-	●	-	-	○	-	-	●	-	○	○	○	○	●
		ホオアカ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	●	-	-	-	-	○	●	-	-	○	-	-	●	-	-	-	-	-	-
アオジ		-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	●	-	-	○	-	-	●	-	○	○	○	-	●	-	-	○	○	-	●	
オオジュリン		-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	●	-	-	○	○	-	●	-	○	○	-	-	●	-	-	-	-	-	-	
11 目	27 科	79 種	11	15	25	3	0	28	12	15	39	25	3	49	6	12	32	38	8	47	14	19	32	22	9	41	16	21	26	25	11	34

※1 「○/●」は確認 (○…場所別/●…全体)、「-」は未確認である。

※2 「②計画地周辺」は、計画地周辺 200m の範囲内。「③蒲生干潟」と「④七北田川」は調査地点図(図 8.4-1)で示した範囲に対応。「⑤左記以外」は、①~④のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である。

※3 種名は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト令和3年度生物リスト」(国土交通省、令和3年度)に準拠したが、一部については図鑑等の文献を参考にした。

表 8.4-14 確認種の一覧（爬虫類・両生類）

目名	科名	種名 ^{※3}	夏季 ^{※1※2}						秋季 ^{※1※2}						春季 ^{※1※2}						夏季（補足） ^{※1※2}					
			①計画地内	②計画地周辺	③蒲生干潟	④七北田川	⑤その他	全体	①計画地内	②計画地周辺	③蒲生干潟	④七北田川	⑤その他	全体	①計画地内	②計画地周辺	③蒲生干潟	④七北田川	⑤その他	全体	①計画地内	②計画地周辺	③蒲生干潟	④七北田川	⑤その他	全体
無尾	アマガエル	ニホンアマガエル	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-
1目	1科	1種	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0

※1 「○/●」は確認（○…場所別/●…全体）、「-」は未確認である。爬虫類は確認なし。

※2 「②計画地周辺」は、計画地周辺 200m の範囲内。「③蒲生干潟」と「④七北田川」は調査地点図（図 8.4-1）で示した範囲に対応。「⑤左記以外」は、①～④のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である。

※3 種名は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト令和3年度生物リスト」（国土交通省、令和3年度）に準拠した。

表 8.4-15 確認種の一覧 (昆虫類)

目名	科名	種名 ^{※3}	夏季 ^{※1※2}			秋季 ^{※1※2}			春季 ^{※1※2}		
			計画地内	計画地周辺 [※]	全体	計画地内	計画地周辺 [※]	全体	計画地内	計画地周辺 [※]	全体
トンボ (蜻蛉)	アオイトトンボ	オツネントンボ	-	-	-	-	-	-	-	○	●
	イトトンボ	アオモンイトトンボ	-	○	●	-	-	-	-	-	-
		ムスジイトトンボ	○	○	●	-	-	-	-	-	-
	ヤンマ	ギンヤンマ	-	-	-	○	-	●	-	-	-
	トンボ	シオカラトンボ	○	-	●	-	-	-	-	-	-
		ウスバキトンボ	-	○	●	-	-	-	-	-	-
アキアカネ		○	-	●	○	○	●	-	-	-	
カマキリ (螳螂)	カマキリ	-	-	-	-	○	●	-	○	●	
シロアリ	ミゾガシラシロアリ	-	-	-	-	-	-	-	○	●	
ハサミムシ (革翅)	オオハサミムシ	オオハサミムシ	○	○	●	○	-	●	○	-	●
	—	ハサミムシ目の一種	○	○	●	-	-	-	-	-	-
バッタ (直翅)	ツユムシ	ツユムシ	-	○	●	-	○	●	-	-	-
	キリギリス	ウスイロササキリ	-	-	-	○	-	●	-	-	-
	マツムシ	カンタン	-	-	-	-	○	●	-	-	-
	コオロギ	ハラオカメコオロギ	-	○	●	○	○	●	-	-	-
		エンマコオロギ	○	○	●	-	○	●	-	-	-
	ヒバリモドキ	マダラスズ	○	-	●	○	○	●	-	-	-
		シバスズ	○	-	●	○	○	●	-	-	-
	バッタ	ショウリョウバッタ	○	○	●	○	○	●	-	-	-
		マダラバッタ	○	○	●	-	-	-	-	-	-
	オンブバッタ	オンブバッタ	○	-	●	-	-	-	-	-	-
	ヒシバッタ	ハラヒシバッタ	○	-	●	○	○	●	○	○	●
	ノミバッタ	ノミバッタ	-	○	●	-	-	-	-	○	●
	カメムシ (半翅)	アブラムシ	ヒゲナガアブラムシ属の一種	-	-	-	-	-	-	-	○
サシガメ		ヨコヅナサシガメ	-	-	-	-	-	-	-	○	●
		ヤニサシガメ	-	-	-	-	-	-	-	○	●
グンバイムシ		アワダチソウグンバイ	-	-	-	-	○	●	-	-	-
カスミカメムシ		ナカグロカスミカメ	-	○	●	○	○	●	-	-	-
		ツマグロアオカスミカメ	-	-	-	-	-	-	-	○	●
		シラゲヨモギカスミカメ	-	-	-	-	-	-	-	○	●
		ヒョウタンカスミカメ	-	-	-	-	-	-	-	○	●
		アカスジカスミカメ	-	-	-	○	○	●	-	-	-
マキバサシガメ		ハネナガマキバサシガメ	○	-	●	-	-	-	-	○	●
ホシカメムシ		クロホシカメムシ	○	○	●	-	-	-	-	-	-
へりカメムシ		へりカメムシ科の一種	○	-	●	-	-	-	-	-	-
ナガカメムシ		ウスイロヒラタナガカメムシ	-	-	-	-	-	-	○	-	●
		セスジヒメナガカメムシ	-	-	-	-	○	●	-	-	-
		ヒメナガカメムシ	-	-	-	-	○	●	○	-	●
ツチカメムシ		ヒメツチカメムシ	-	-	-	-	-	-	-	○	●
カメムシ		ブチヒゲカメムシ	○	○	●	-	○	●	-	-	-
		ナガメ	-	-	-	-	-	-	-	○	●
		トゲシラホシカメムシ	-	-	-	-	-	-	-	○	●
		シラホシカメムシ	-	-	-	○	-	●	-	-	-
		アカスジカメムシ	-	○	●	-	○	●	-	-	-
		カメムシ科の一種	-	-	-	-	-	-	○	-	●
		アメンボ	ヒメアメンボ	-	-	-	-	-	-	-	○
ミズムシ	ハラグロコミズムシ	-	○	●	-	-	-	-	-	-	
アミメカゲロウ (脈翅)	クサカゲロウ	-	-	-	-	-	-	-	○	●	

(次ページに続く)

(前ページより続く)

目名	科名	種名 ^{※3}	夏季 ^{※1※2}			秋季 ^{※1※2}			春季 ^{※1※2}		
			計画地内	計画地周辺 [※]	全体	計画地内	計画地周辺 [※]	全体	計画地内	計画地周辺 [※]	全体
チョウ (鱗翅)	ハマキガ	アカスジキイロハマキ	-	-	-	-	-	-	-	○	●
		チャノコカクモンハマキ	-	-	-	-	○	●	-	-	-
	セセリチョウ	イチモンジセセリ	-	-	-	○	○	●	-	○	●
	シジミチョウ	ツバメシジミ	○	○	●	-	-	-	○	○	●
		ベニシジミ	-	○	●	○	○	●	-	○	●
	タテハチョウ	キタテハ	-	-	-	-	○	●	-	-	-
	シロチョウ	モンキチョウ	○	○	●	○	○	●	○	○	●
		キタキチョウ	-	-	-	○	-	●	-	-	-
	ツトガ	ニカメイガ	-	-	-	○	-	●	-	-	-
		ツトガ科の一種	-	-	-	-	-	-	○	-	●
	メイガ	キンモントガリメイガ	-	○	●	-	-	-	-	-	-
		アカマダラメイガ	-	○	●	○	○	●	-	-	-
	シャクガ	ウスオエダシャク	-	○	●	-	○	●	○	-	●
		ヒメシャク亜科の一種	-	-	-	-	-	-	○	-	●
		エダシャク亜科の一種	-	-	-	-	-	-	○	-	●
		シャクガ科の一種	○	-	●	-	-	-	-	-	-
	ヤガ	アカフヤガ	-	-	-	-	○	●	-	-	-
		ツメクサガ	-	○	●	-	-	-	○	○	●
		クロクモヤガ	-	-	-	-	○	●	-	-	-
		オオシラナミアツバ	-	-	-	-	○	●	-	-	-
		ヨモギガ	-	○	●	-	-	-	○	-	●
		スジキリヨトウ	-	-	-	-	-	-	○	-	●
		キリガ亜科の一種	-	-	-	-	-	-	○	-	●
ヤガ科の一種		○	○	●	-	-	-	-	-	-	
—	小型蛾類	-	○	●	-	-	-	-	-	-	
—	不明蛾類	○	○	●	-	-	-	-	-	-	
ハエ (双翅)	ヒメガガンボ	ヒメガガンボ科の一種	-	-	-	-	-	-	○	-	●
	ガガンボ	ガガンボ亜科の一種	-	-	-	-	-	-	-	○	●
	ユスリカ	ユスリカ科の一種	-	-	-	-	-	-	○	-	●
	ムシヒキアブ	アオメアブ	○	-	●	-	-	-	-	-	-
	アシナガバエ	アシナガバエ科の一種	-	-	-	-	-	-	○	○	●
	ハナアブ	ナミホシヒラタアブ	-	-	-	-	-	-	-	○	●
		ホソツヤヒラタアブ	-	-	-	-	-	-	○	-	●
		ミナミヒメヒラタアブ	-	-	-	-	-	-	-	○	●
	ヒロクチバエ	ダイズコンリュウバエ	-	-	-	-	-	-	○	○	●
	クロバエ	ツマグロキンバエ	-	-	-	○	-	●	-	-	-
	イエバエ	イエバエ科の一種	○	-	●	○	-	●	-	-	-
	ニクバエ	ニクバエ科の一種	-	-	-	○	-	●	-	○	●
	—	ハエ亜目の一種	-	○	●	-	-	-	○	○	●
コウチュウ (鞘翅)	オサムシ	コアオマルガタゴミムシ	-	-	-	-	-	-	-	○	●
		ニセマルガタゴミムシ	-	-	-	-	-	-	○	○	●
		オオアトボシアオゴミムシ	-	○	●	-	-	-	-	-	-
		アトボシアオゴミムシ	-	○	●	-	-	-	-	-	-
		セアカヒラタゴミムシ	○	○	●	○	○	●	-	-	-
		ウスアカクロゴモクムシ	-	-	-	○	○	●	-	-	-
		キンナガゴミムシ	○	○	●	-	-	-	-	○	●
		ツヤマメゴモクムシ	-	-	-	-	-	-	○	○	●
		ヨツモンコミズギワゴミムシ	-	○	●	-	-	-	-	-	-
		ヒメツヤゴモクムシ	-	-	-	-	-	-	-	○	●

(次ページに続く)

(前ページより続く)

目名	科名	種名 ^{※3}	夏季 ^{※1※2}			秋季 ^{※1※2}			春季 ^{※1※2}			
			計画地内	計画地周辺 [※]	全体	計画地内	計画地周辺 [※]	全体	計画地内	計画地周辺 [※]	全体	
コウチュウ (鞘翅)	ハネカクシ	クロズトガリハネカクシ	-	○	●	-	-	-	-	-	-	
		コガシラハネカクシの一種	○	○	●	-	-	-	-	-	-	
		ヒメキノコハネカクシの一種		○	●	-	-	-	-	-	-	
		ハネカクシ科の一種		○	●	-	-	-	-	-	-	
	コガネムシ	アオドウガネ		○	●	-	-	-	-	-	-	
		ドウガネブイブイ	○	○	●	-	-	-	-	-	-	
		ヒメコガネ		○	●	-	-	-	-	-	-	
		クロコガネ	○		●	-	-	-	-	-	-	
		アカビロウドコガネ	○	○	●	-	-	-	-	-	-	
		マメコガネ	○	-	●	-	-	-	-	-	-	
		コメツキムシ	サビキコリ	-	○	●	○	-	●	○	-	●
	コガタヒメサビキコリ	○	-	●	○	-	●	-	-	-		
	ヨツモンミズギワコメツキ	-	-	-	-	-	-	○	-	●		
	クロクシコメツキ	-	-	-	-	-	-	○	-	●		
	テントウムシ	ナナホシテントウ	-	-	-	-	○	●	○	○	●	
		ナミテントウ	-	-	-	-	-	-	○	○	●	
		ヒメカメノコテントウ	-	-	-	-	○	●	○	○	●	
	ハムシ	アカバナカミナリハムシ	-	-	-	-	-	-	-	○	●	
		ヨモギハムシ	-	-	-	-	○	●	-	-	-	
		フタスジヒメハムシ	○	-	●	-	-	-	-	-	-	
		ブタクサハムシ	-	-	-	-	○	●	-	-	-	
		マルキバネサルハムシ	-	-	-	-	-	-	-	○	●	
	ゾウムシ	オオタコゾウムシ	-	-	-	-	○	●	-	-	-	
		サビヒョウタンゾウムシ		○	●		○	●	-	○	●	
ハチ (膜翅)	ヒメバチ	ヒメバチ科の一種	-	-	-	-	-	-	-	○	●	
		アリ	-	○	●	-	○	●	-	○	●	
	スズメバチ	クロヤマアリ	○	○	●	-	○	●	○	○	●	
		カワラケアリ	-	-	-	-	-	-	○	○	●	
		アメイロアリ	-	-	-	-	-	-	-	○	●	
		トビイロシワアリ	○	○	●	○	○	●	○	○	●	
		ミカドドロバチ本土亜種	-	○	●	-	-	-	-	-	-	
	スズバチ	○	-	●	-	-	-	-	-	-		
	フタモンアシナガバチ本土亜種	○	○	●	-	-	-	-	○	●		
	コアシナガバチ	-	○	●	-	-	-	-	○	●		
	クロスズメバチ	-	-	-	-	○	●	-	-	-		
	アナバチ	サトジガバチ	-	○	●	-	-	-	-	○	●	
		アナバチ科の一種	○	-	●	-	-	-	-	-	-	
	ハキリバチ	ハキリバチ科の一種	-	-	-	-	○	●	-	-	-	
	11 目	60 科	135 種	37	50	67	26	40	51	33	50	67

※1 「○/●」は確認 (○…場所別/●…全体)、「-」は未確認である。

※2 「計画地周辺」は計画地周辺 200m の範囲を示す。

※3 種名は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト令和3年度生物リスト」(国土交通省、令和3年度)に準拠したが一部については図鑑等の文献を参考にした。

(6) 注目すべき種の確認状況

現地調査で確認された種を対象に、「第6章 地域の概況 / 6.1 自然的状況 / 6.1.4 生物環境の状況 / 2 動物」の表 6.1-63 に示す選定基準に基づいて、注目すべき種を抽出した。

抽出された注目すべき種の確認状況を、表 8.4-16 (哺乳類)、表 8.4-17 (鳥類)、表 8.4-18 (両生類)、表 8.4-19 (昆虫類) に示す。また、注目すべき種の確認位置を図 8.4-2 (哺乳類)、図 8.4-3 (鳥類)、図 8.4-4 (両生類)、図 8.4-5 (昆虫類) に示す。

抽出の結果、哺乳類 1 種 (タヌキ)、鳥類 28 種 (コクガン、カイツブリ、チュウサギ、コサギ、カラシラサギ、イカルチドリ、シロチドリ、ツルシギ、オオセグロカモメ、コアジサシ、ミサゴ、ハイタカ、オオタカ、ノスリ、カワセミ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、モズ、ヒバリ、ツバメ、ウグイス、オオヨシキリ、コヨシキリ、セッカ、セグロセキレイ、ホオジロ、ホオアカ、アオジ)、両生類 1 種 (ニホンアマガエル)、昆虫類 1 種 (アキアカネ) の注目すべき種が確認された。

表 8.4-16 哺乳類の注目すべき種の確認状況

No.	目名	科名	種名	現地調査での確認状況 ^{※1}					選定基準等 ^{※2}										
				夏季	秋季	冬季	春季	夏季(補足)	学術上重要種	仙台市における保全上重要な種					レッドデータ等			蒲生地域での確認希少種	
										山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜	環境指標種	国 RL(2020)	県 RL(2021)		天記・種保存
1	ネコ (食肉)	イヌ	ホンダタヌキ	-	○	○	○	○	-	+	+	・	+	・	○	-	-	-	-
計	1 目	1 科	1 種	0	1	1	1	1	0	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0

※1 「現地調査での確認状況」で「○」は確認あり、「-」は確認なし。

※2 選定基準の記号は表 6.1.63 (第6章) を参照。

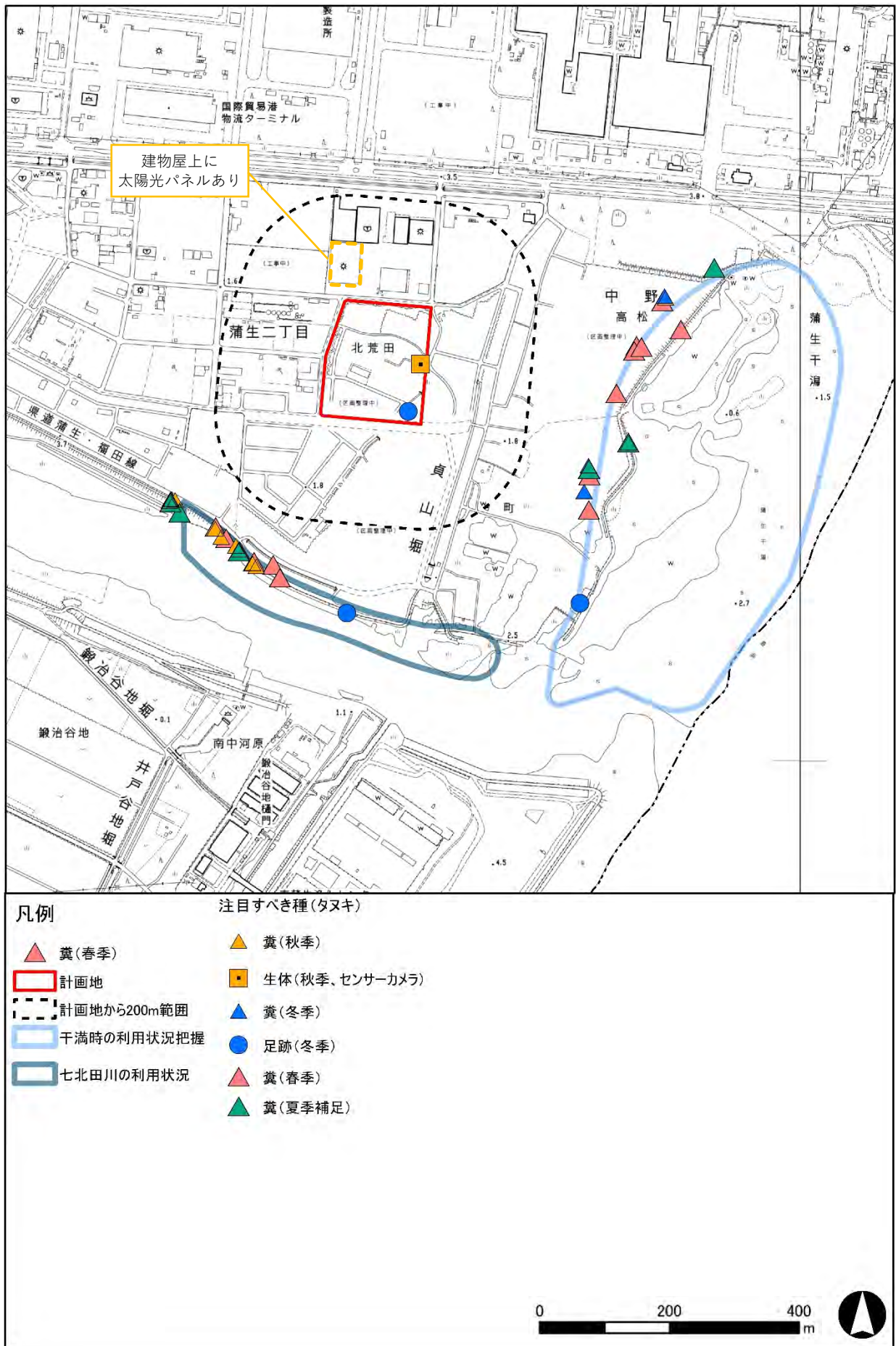


図 8.4-2 哺乳類の注目すべき種の確認位置全調査 (夏季・秋季・冬季・春季・夏季補足)

表 8.4-17 鳥類の注目すべき種の確認状況

No.	目名	科名	種名	現地調査での確認状況※1					選定基準等※2											
				夏季	秋季	冬季	春季	夏季(補足)	学術上重要種	仙台市における保全上重要な種					レッドデータ等			蒲生地域での確認希少種		
										山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜	環境指標種	国RL(2020)	県RL(2021)		天記・種保存	
1	カモ	カモ	コクガン	-	-	○	-	-	1,2,4	/	/	/	/	B	-	VU	VU	国天	-	
2	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	-	○	○	○	-	-	・	C	B	C	C	○	-	-	-	-	
3	ペリカン	サギ	チュウサギ	○	-	-	-	○	1,2,4	・	C	C	C	C	-	NT	-	-	○	
4			コサギ	○	○	○	-	-	-	/	C	B	C	C	○	-	NT	-	○	
5			カラシラサギ	○	-	-	-	-	1	/	/	/	・	C	-	NT	NT	-	○	
6	チドリ	チドリ	イカルチドリ	-	-	-	○	○	1,4	C	C	B	B	・	○	NT	-	-	-	
7			シロチドリ	-	-	-	-	○	1,4	/	/	/	・	B	○	VU	NT	-	○	
8	カモメ	シギ	ツルシギ	-	○	-	-	-	1,4	/	/	・	C	C	-	VU	NT	-	-	
9			オオセグロカモメ	○	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	NT	-	-	-	
10			コアジサシ	-	-	-	-	○	1,2,4	/	/	A	B	B	-	VU	VU	国際	-	
11	タカ	ミサゴ	ミサゴ	○	○	○	○	○	1,4	・	+	+	+	+	○	NT	-	-	○	
12		タカ	ハイタカ	-	○	○	-	-	1,4	C	C	C	C	C	-	NT	NT	-	-	
13			オオタカ	○	-	-	-	-	1,4	C	C	B	B	B	○	NT	NT	-	○	
14			ノスリ	-	○	○	○	○	-	+	+	+	+	+	○	-	-	-	-	
15	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	-	○	○	-	-	1,4	・	C	C	C	・	○	-	-	-	-	
16	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	-	○	○	○	○	1,4	/	C	B	C	B	-	-	-	-	○	
17			ハヤブサ	-	○	○	-	-	1,4	C	B	B	C	C	-	VU	NT	国内	-	
18	スズメ	モズ	モズ	-	○	○	○	○	1	+	+	B	+	+	○	-	-	-	-	
19		ヒバリ	ヒバリ	○	○	○	○	○	-	・	C	B	C	C	○	-	-	-	○	
20		ツバメ	ツバメ	○	-	-	○	○	-	・	C	C	C	・	○	-	-	-	-	
21		ウグイス	ウグイス	-	○	○	-	○	1,4	+	+	C	C	C	○	-	-	-	-	
22		ヨシキリ	ヨシキリ	オオヨシキリ	-	-	-	-	○	1,4	・	C	B	C	C	○	-	-	-	-
23				コヨシキリ	-	-	-	-	○	1,4	・	C	A	B	B	○	-	-	-	-
24		セッカ	セッカ	-	○	-	-	○	1,4	・	C	B	C	C	○	-	-	-	○	
25		セキレイ	セグロセキレイ	-	○	-	-	○	4	C	C	C	C	・	○	-	-	-	-	
26		ホオジロ	ホオジロ	ホオジロ	○	○	○	○	○	-	+	+	B	C	C	○	-	-	-	-
27				ホオアカ	-	○	○	○	-	-	-	B	C	A	C	B	○	-	-	-
28	アオジ			-	○	○	○	○	-	-	C	C	C	C	C	-	-	-	-	-
計	8目	18科	28種	9	17	16	12	18	19	11	22	23	24	23	18	12	9	3	9	

※1 「現地調査結果」で「○」は確認あり、「-」は確認なし。

※2 選定基準の記号は表 6.1.63 (第 6 章) を参照。

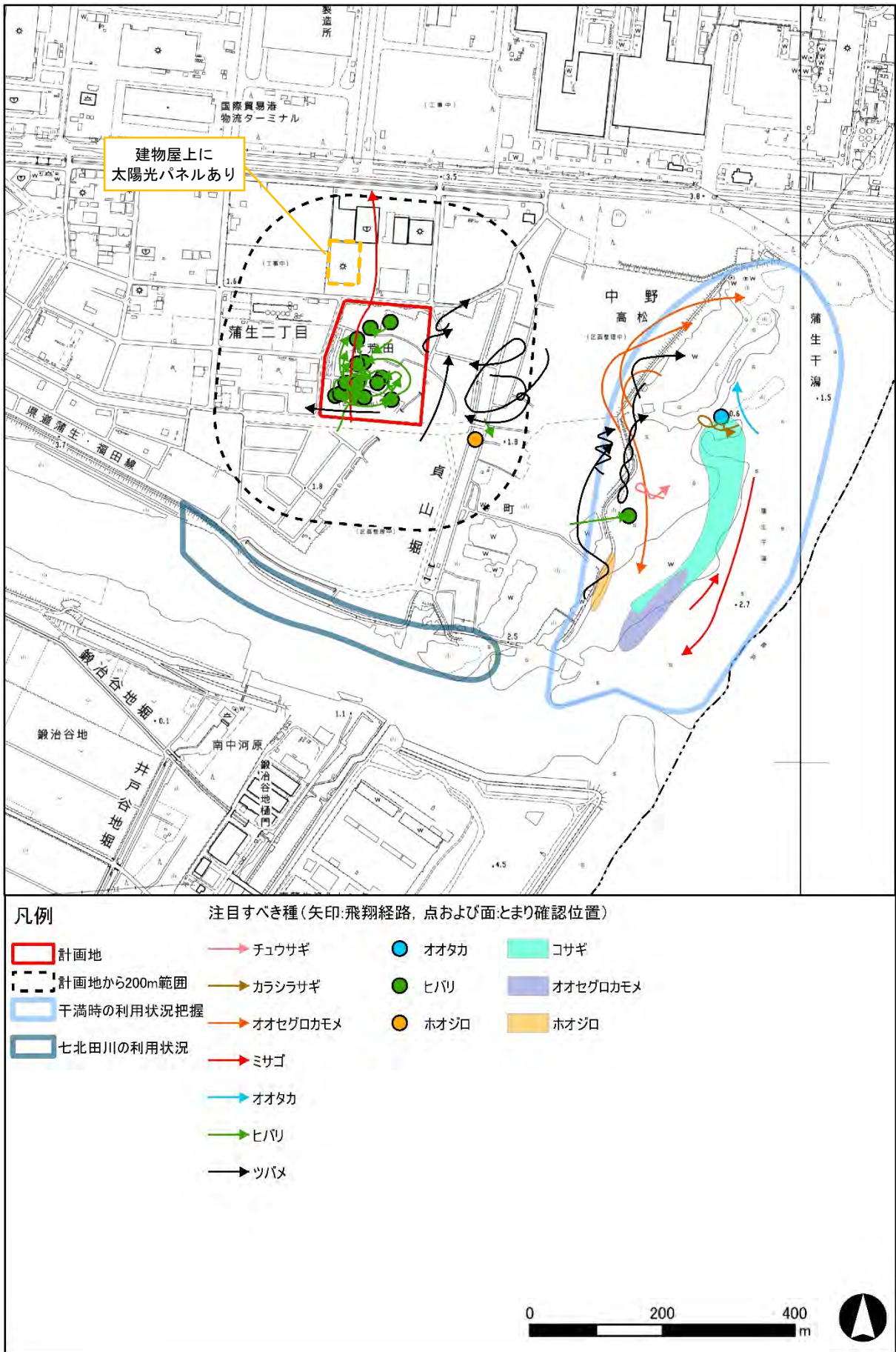


図 8.4-3 (1) 鳥類の注目すべき種の確認位置 (夏季)

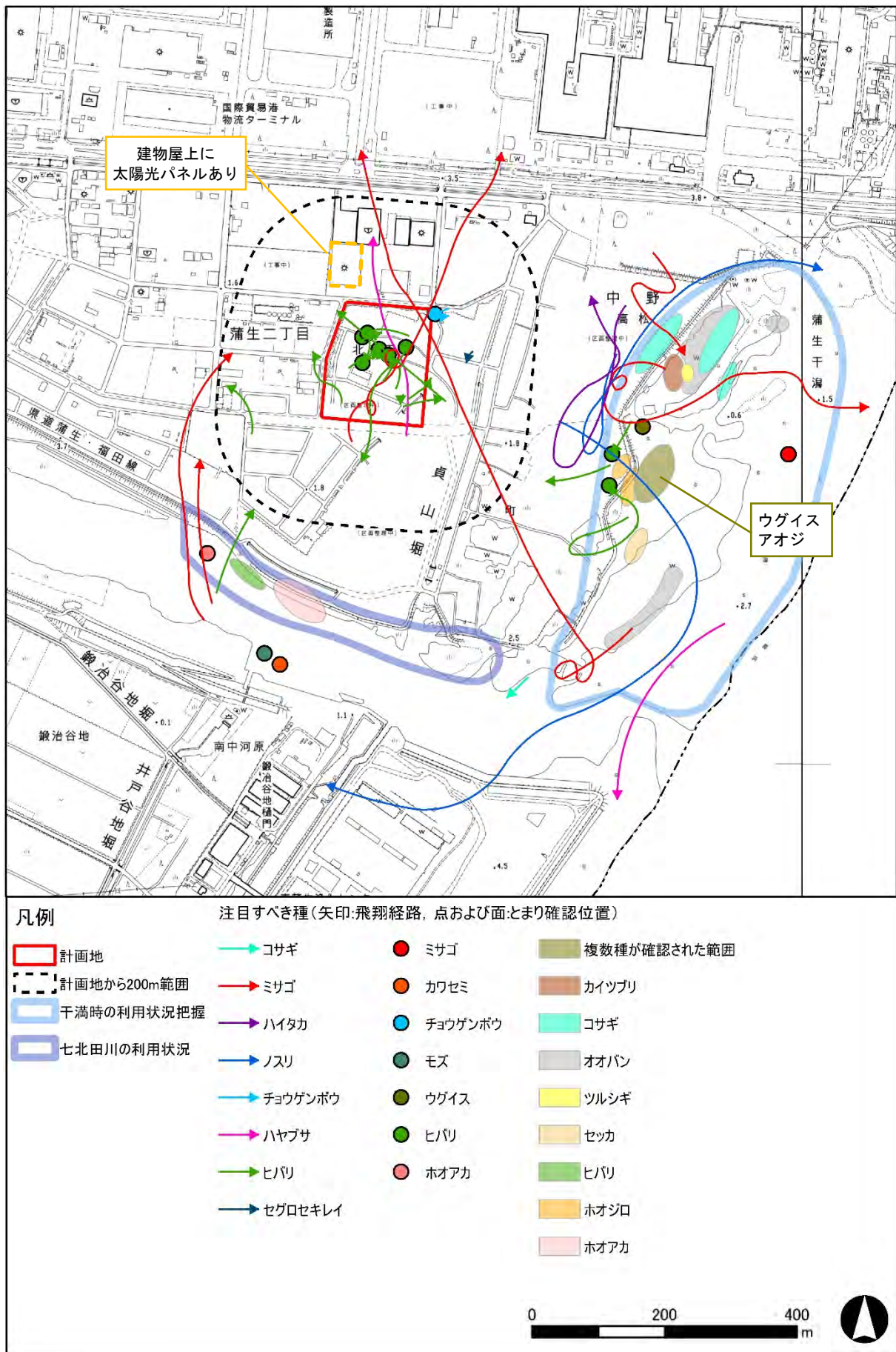


図 8.4-3 (2) 鳥類の注目すべき種の確認位置 (秋季)

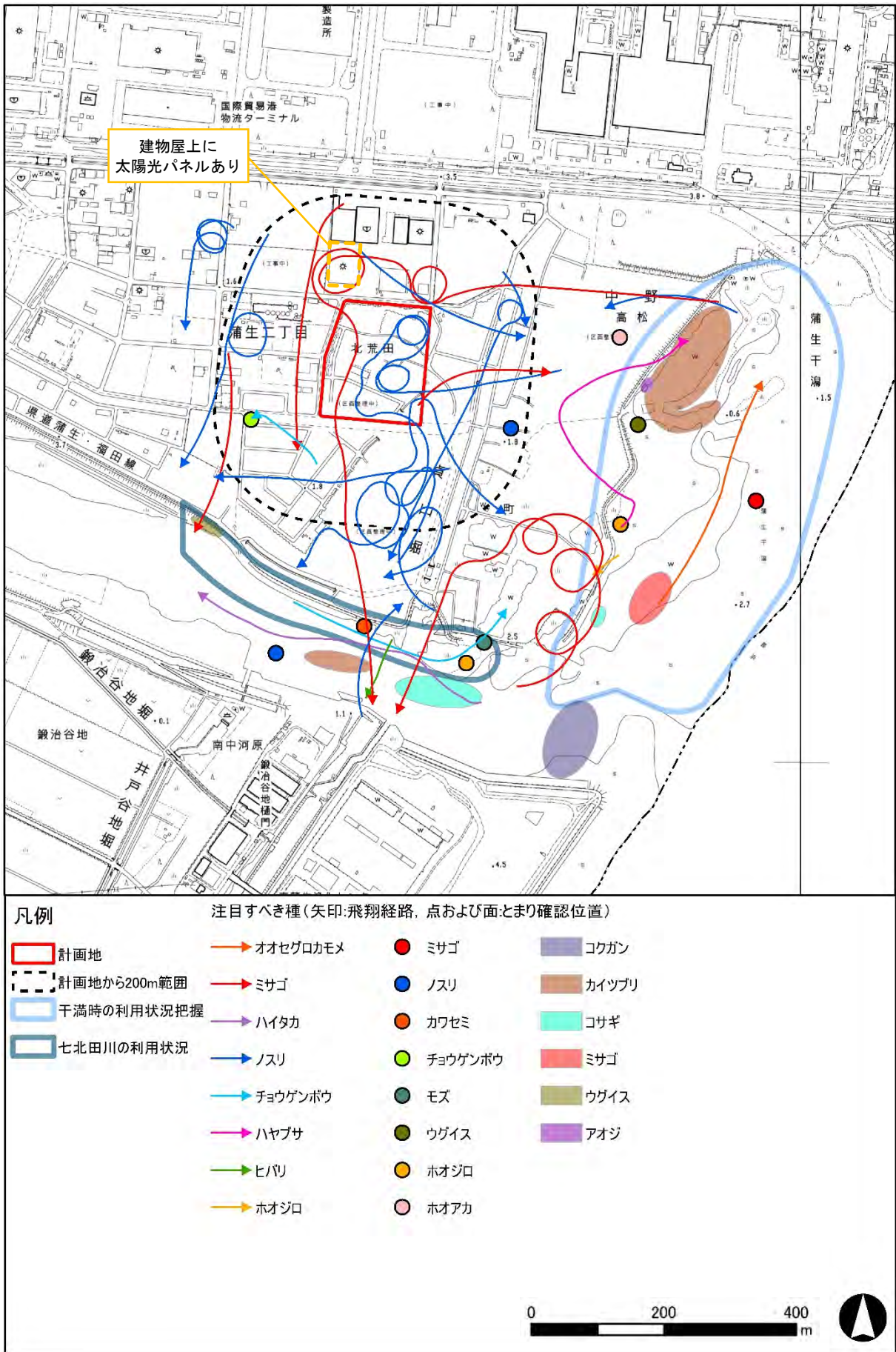


図 8.4-3 (3) 鳥類の注目すべき種の確認位置 (冬季)

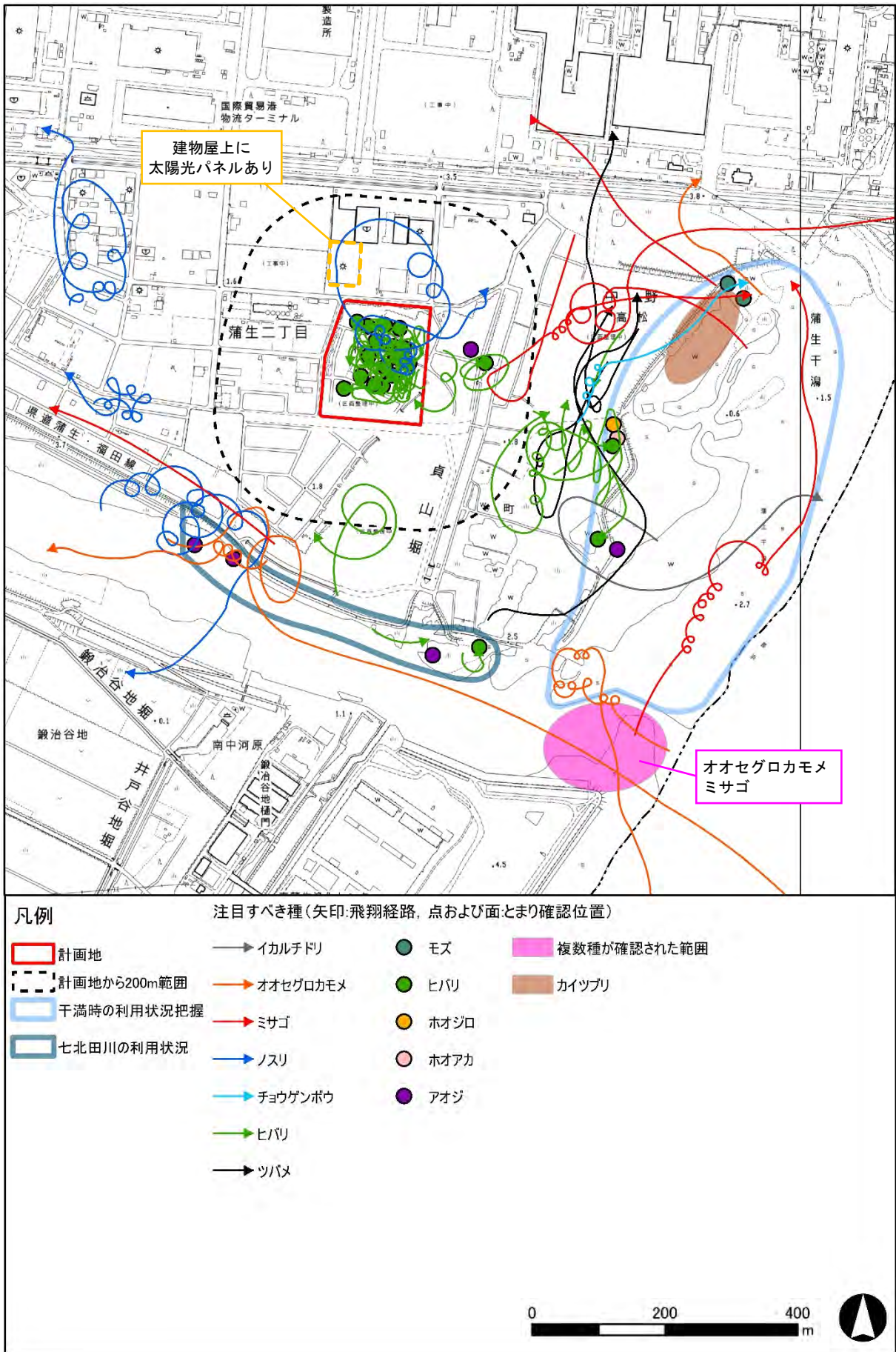


図 8.4-3 (4) 鳥類の注目すべき種の確認位置 (春季)

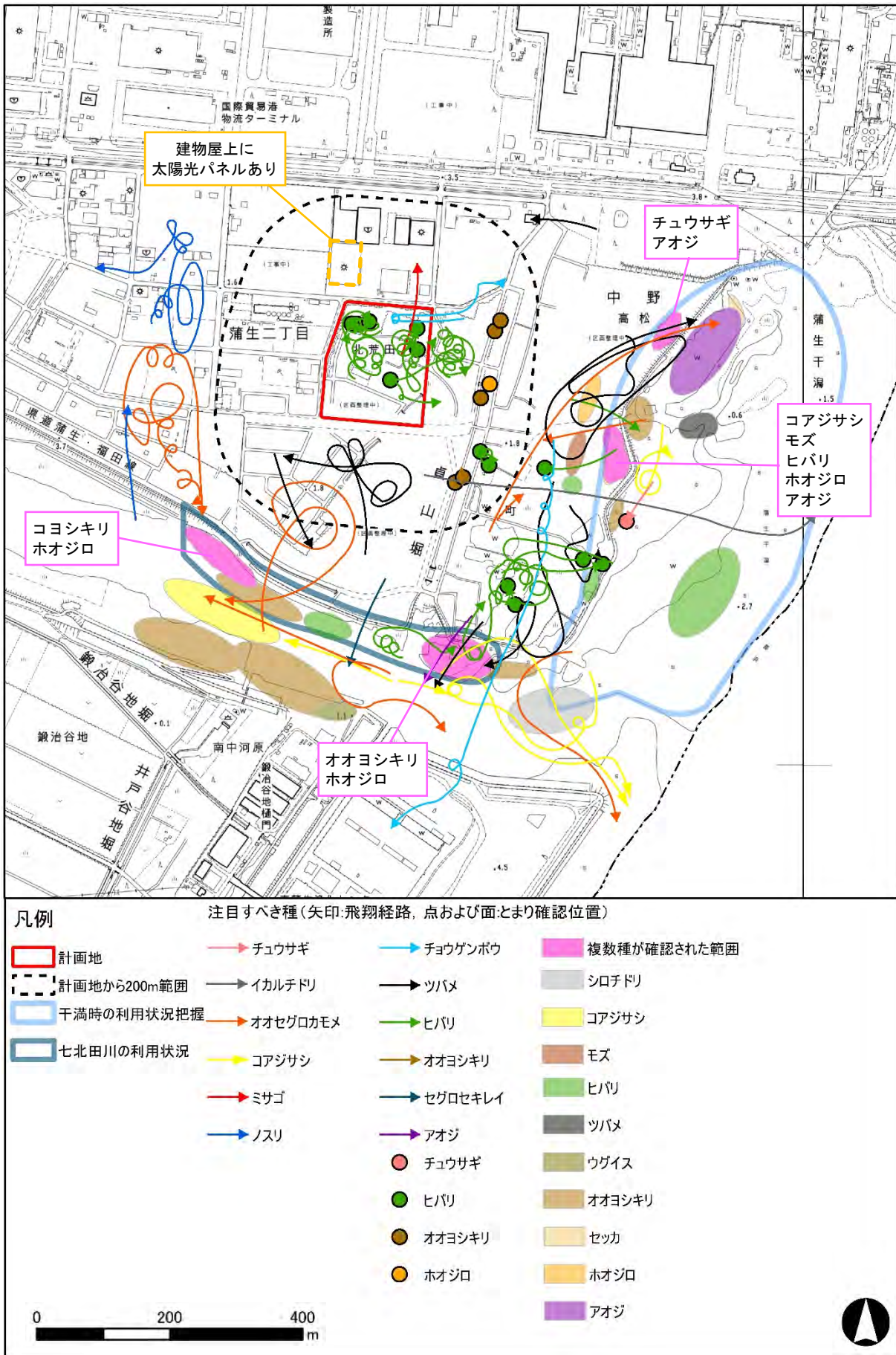


図 8.4-3 (5) 鳥類の注目すべき種の確認位置 (夏季補足)

表 8.4-18 両生類の注目すべき種の確認状況

No.	目名	科名	種名	現地調査での 確認状況※1				選定基準等※2										
								仙台市における 保全上重要な種					レッド データ等			蒲生 地域での 確認希少種		
				夏季	秋季	春季	夏季 (補足)	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	国 RL(2020)		県 RL(2021)	天記・種 保存
				山地	西部 丘陵地・ 田園	市街地	東部 田園		海浜									
1	無尾	アマガエル	ニホンアマガエル	-	○	○	-	-	+	+	+	+	+	○	-	-	-	-
計	1目	1科	1種	0	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0

※1 「現地調査結果」で「○」は確認あり、「-」は確認なし。

※2 選定基準の記号は表 6.1.63 (第 6 章) を参照。

表 8.4-19 昆虫類の注目すべき種の確認状況

No.	目名	科名	種名	現地調査での 確認状況※1				選定基準等※2									
								仙台市における 保全上重要な種					レッド データ等			蒲生 地域での 確認希少種	
				夏季	秋季	春季	夏季 (補足)	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	国 RL(2020)		県 RL(2021)
				山地	西部 丘陵地・ 田園	市街地	東部 田園		海浜								
1	トンボ (蜻蛉)	トンボ	アキアカネ	○	○	-	-	+	+	+	+	+	○	-	-	-	-
計	1目	1科	1種	1	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0

※1 「現地調査結果」で「○」は確認あり、「-」は確認なし。

※2 選定基準の記号は表 6.1.63 (第 6 章) を参照。

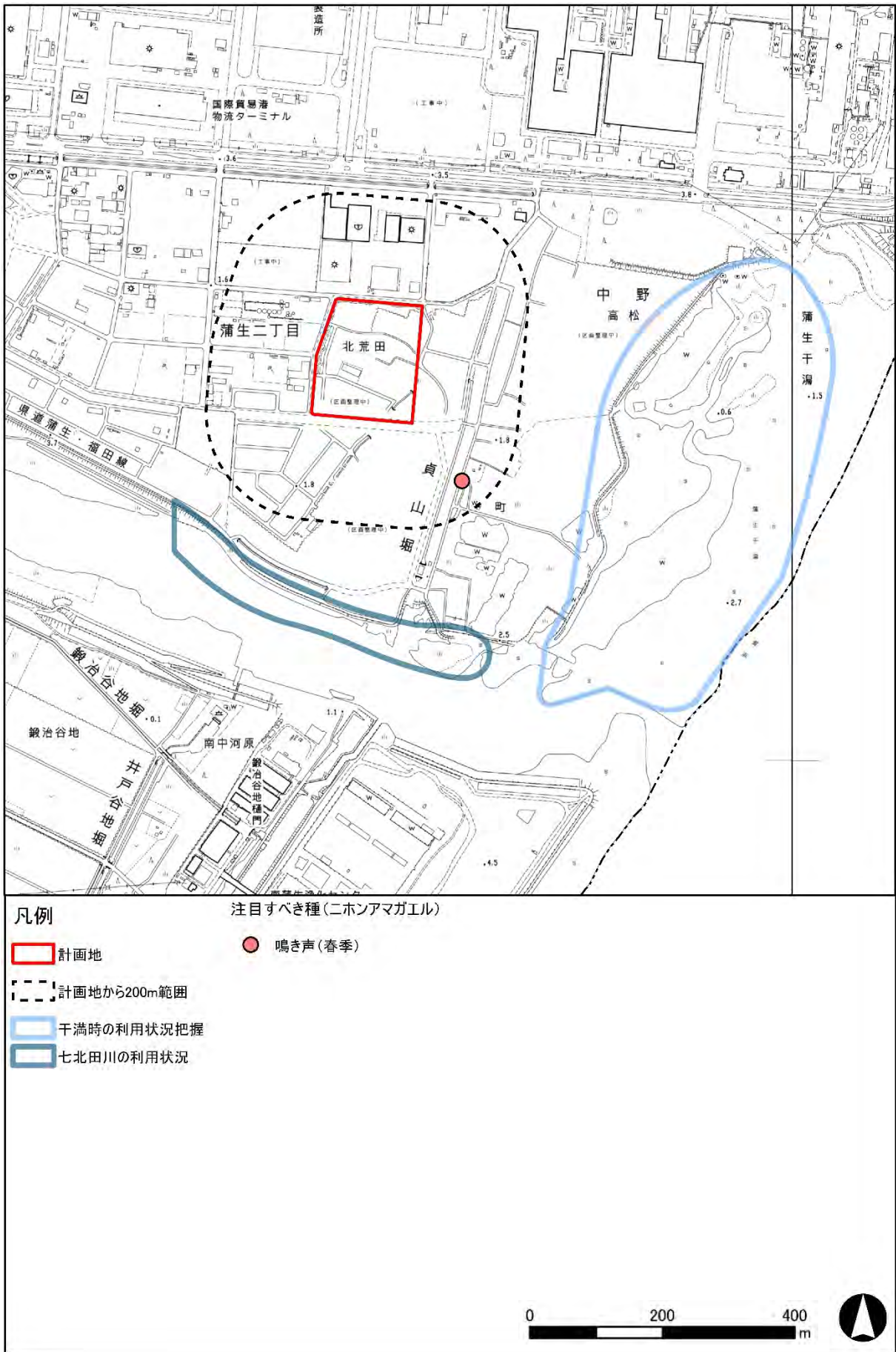


図 8.4-4 両生類の注目すべき種の確認位置 (全調査 (夏季・秋季・春季・夏季補足))

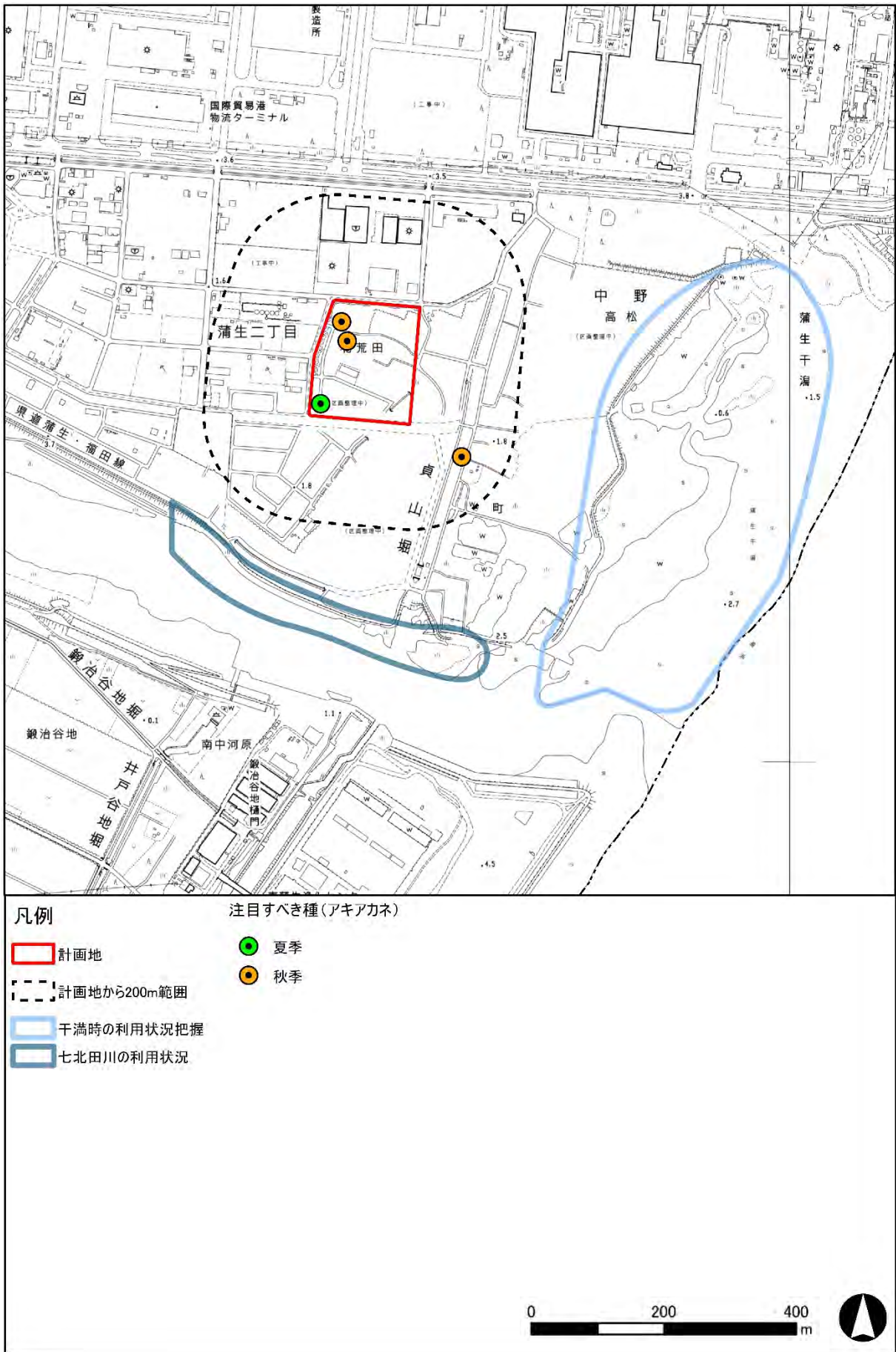


図 8.4-5 昆虫類の注目すべき種の確認位置 (全調査 (夏季・秋季・春季))

(7) 注目すべき種の生態的特徴等

現地調査で確認された注目すべき種について、一般的な生態的特徴等を表 8.4-20（哺乳類）、表 8.4-21（鳥類）、表 8.4-22（両生類）、表 8.4-23（昆虫類）に整理した。

表 8.4-20 注目すべき種の一般生態及び確認状況（哺乳類：タヌキ）

分布状況	<p>【全国】北海道、本州、四国、九州、佐渡などほぼ全国に分布。</p> <p>【仙台市内】泉区朴沢、泉パークタウン、青葉区蕃山、太白区秋保町境野、太白区茂庭御所周辺、太白山、宮城野区鶴ヶ谷、宮城野区蒲生、七北田川周辺、若林区種次、若林区藤塚、若林区荒井など。</p>					
一般生態	<p>郊外の住宅地周辺から山地まで広く生息するが、亜高山帯以上に生息することは少ない。鳥類、ノネズミなどの小型動物、昆虫、野生果実類などを採食する。排泄物を特定の場所に集中するタメ糞を行う。</p>					
確認状況※1	<p>秋季から夏季（補足）にかけて計画地内、計画地周辺、蒲生干潟、七北田川で糞が確認され、秋季には計画地内に設置したセンサーカメラにて活動個体が撮影された。</p>					
	場所	①	②	③	④	⑤
	季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2
	夏季	—	—	—	—	—
	秋季	○	○	—	○	—
	冬季	○	○	○	○	—
	春季	—	—	○	○	—
夏季(補足)	—	—	○	○	○	

出典：「令和3年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市、令和4年）

「日本の哺乳類 [改訂版]」（阿部永他、平成17年）

※1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

※2 「②計画地周辺」は、計画地周辺200mの範囲内。「③蒲生干潟」と「④七北田川」は調査地点図（図 8.4-1）で示した範囲に対応。「⑤左記以外」は、①～④のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 8.4-21(1) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：コクガン）

分布状況	<p>【全国】主に北海道南部、東北地方北部の沿岸に冬鳥として渡来する。稀に東海地方まで南下することもある。</p> <p>【仙台市内】東部海岸、七北田川河口、宮城野区蒲生、若林区井土など。</p>					
一般生態	沿岸から沖合までの海水域に生息し、アマモやマコモなどの海草、岩礁にあるアオサ、イワノリなどの海藻を好んで採食する。小群でいることが多い。					
確認状況※1	冬季に七北田川河口部で確認された。					
	場所	①	②	③	④	⑤
	季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2
	夏季	—	—	—	—	—
	秋季	—	—	—	—	—
	冬季	—	—	—	○	—
	春季	—	—	—	—	—
夏季(補足)	—	—	—	—	—	

出典：「令和3年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市、令和4年）

「日本の野鳥590」（真木広造・大西敏一、平成18年）

「フィールド図鑑 日本の野鳥 第2版」（水谷高英・叶内拓哉、令和2年）

※1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

※2 「②計画地周辺」は、計画地周辺200mの範囲内。「③蒲生干潟」は調査地点図（図8.4-1）で示した範囲に対応。「④七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「⑤左記以外」は、①～④のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である。本種の場合は七北田川の河口で確認された。

表 8.4-21 (2) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：カイツブリ）

分布状況	<p>【全国】本州中部以南で留鳥。北海道と本州北部には夏鳥として渡来する。</p> <p>【仙台市内】朴沢、丸田沢、旗立、井戸浦、大沼、蒲生、若林区荒浜、若林区井土、若林区藤塚、青葉区花壇、あすと長町、広瀬川下流、青葉山、七北田公園、水の森公園、七北田川、名取川など。</p>					
一般生態	主に平野部の池、湖沼、河川などに生息し、繁殖期にはつがい縄張りをもつ。アシの茎などに水に浮いているような巣をつくる。巧みに潜水して主に小魚などを捕食する。					
確認状況※1	秋季から春季にかけて蒲生干潟等で確認された。					
	場所	①	②	③	④	⑤
	季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2
	夏季	—	—	—	—	—
	秋季	—	—	○	—	—
	冬季	—	—	○	○	—
	春季	—	—	○	—	—
夏季(補足)	—	—	—	—	—	

出典：表 8.4-21(1)に同じ。

※1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

※2 「②計画地周辺」は、計画地周辺200mの範囲内。「③蒲生干潟」は調査地点図（図8.4-1）で示した範囲に対応。「④七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「⑤左記以外」は、①～④のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 8.4-21 (3) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：チュウサギ）

分布状況	<p>【全国】本州以南に夏鳥として渡来し、西南日本では一部が越冬する。 【仙台市内】広瀬川、名取川、天神沢、大沼、赤沼、蒲生二木、蒲生海岸、宮城野区岩切、若林区荒浜、若林区井土、若林区藤塚、泉パークタウン、三神峯公園、太白区茂庭御所など。</p>					
一般生態	<p>草地、水田、湿地、湖沼、河川などに生息するが、水辺よりも草地を好む傾向にある。主に昆虫や両生類、魚類を捕食する。繁殖期にはコサギやダイサギ、アマサギなどの群れとともに集団繁殖を行う。</p>					
確認状況※1	夏季に蒲生干潟で確認された。					
	場所	①	②	③	④	⑤
	季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2
	夏季	—	—	○	—	—
	秋季	—	—	—	—	—
	冬季	—	—	—	—	—
春季	—	—	—	—	—	
夏季(補足)	—	—	○	—	—	

出典：表 8.4-21(1)に同じ。

※1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

※2 「②計画地周辺」は、計画地周辺 200m の範囲内。「③蒲生干潟」は調査地点図（図 8.4-1）で示した範囲に対応。「④七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「⑤左記以外」は、①～④のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 8.4-21 (4) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：コサギ）

分布状況	<p>【全国】本州以南で留鳥。南西諸島では冬鳥。一部の個体は東南アジアで越冬する。 【仙台市内】広瀬川、名取川、天神沢、大沼、赤沼、蒲生二木、蒲生海岸、宮城野区岩切、宮城野区苦竹、若林区荒浜、若林区藤塚、若林区井土、七北田川、太白区根岸町、あすと長町周辺など。</p>					
一般生態	<p>水田、河川、湖沼、湿地、干潟など水辺に広く生息し、主として魚類を捕食する。繁殖期には他のサギ類が集まるコロニーに混じって集団繁殖を行う。非繁殖期には群れで行動することが多い。</p>					
確認状況※1	夏季から冬季にかけて蒲生干潟等で確認された。					
	場所	①	②	③	④	⑤
	季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2
	夏季	—	—	○	—	—
	秋季	—	—	○	○	—
	冬季	—	—	○	○	—
春季	—	—	—	—	—	
夏季(補足)	—	—	—	—	—	

出典：表 8.4-21(1)に同じ。

※1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

※2 「②計画地周辺」は、計画地周辺 200m の範囲内。「③蒲生干潟」は調査地点図（図 8.4-1）で示した範囲に対応。「④七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「⑤左記以外」は、①～④のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 8.4-21 (5) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：カラシラサギ）

分布状況	<p>【全国】旅鳥、またはまれな冬鳥として渡来する。各地で記録があるが、日本海側の島嶼や九州以南での記録が多い。</p> <p>【仙台市内】広瀬川、名取川、蒲生など。</p>					
一般生態	<p>海岸、河口、干潟、河川、水田、湿地などに生息する。本種は頸から上を斜めに傾けて伸ばし、小走りで小魚などを捕食することが多い。1羽で行動し、海岸や河口、干潟などでは、潮の干満に合わせて活動する。</p>					
確認状況※1	夏季に蒲生干潟で確認された。					
	場所	①	②	③	④	⑤
	季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2
	夏季	—	—	○	—	—
	秋季	—	—	—	—	—
	冬季	—	—	—	—	—
	春季	—	—	—	—	—
夏季(補足)	—	—	—	—	—	

出典：表 8.4-21(1)と同じ。

※1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

※2 「②計画地周辺」は、計画地周辺200mの範囲内。「③蒲生干潟」は調査地点図（図 8.4-1）で示した範囲に対応。「④七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「⑤左記以外」は、①～④のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 8.4-21 (6) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：イカルチドリ）

分布状況	<p>【全国】本州～九州で留鳥。北海道では夏鳥。南西諸島では少数が越冬する。</p> <p>【仙台市内】宮城野区岡田、若林区荒井、若林区大沼、若林区井土など。</p>					
一般生態	<p>砂礫地のある河川、池、湖沼、水田などに生息する。繁殖期以外は小群で生活し、水際を歩いて水生の昆虫類やミミズ類などの小動物を捕食するが、他のチドリ類ほどは歩き回らない。</p>					
確認状況※1	春季と夏季に蒲生干潟で確認された。					
	場所	①	②	③	④	⑤
	季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2
	夏季	—	—	—	—	—
	秋季	—	—	—	—	—
	冬季	—	—	—	—	—
	春季	—	—	○	—	—
夏季(補足)	—	—	○	○	—	

出典：表 8.4-21(1)と同じ。

※1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

※2 「②計画地周辺」は、計画地周辺200mの範囲内。「③蒲生干潟」は調査地点図（図 8.4-1）で示した範囲に対応。「④七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「⑤左記以外」は、①～④のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 8.4-21 (7) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：シロチドリ）

分布状況	<p>【全国】 ほぼ全国で留鳥または漂鳥。北海道など北方の個体群は冬に暖地へ移動する。</p> <p>【仙台市内】 名取川、井土浦、荒浜、蒲生など。</p>																																														
一般生態	<p>河口、海岸の砂浜、干潟、河川、埋立地などに生息する。地表面を忙しく動き回り、主に小型の昆虫類やゴカイなどの底生動物を捕食する。</p>																																														
確認状況※1	<p>春季と夏季に蒲生干潟で確認された。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> <th>④</th> <th>⑤</th> </tr> <tr> <th>季節</th> <th>計画地内</th> <th>計画地周辺※2</th> <th>蒲生干潟※2</th> <th>七北田川※2</th> <th>左記以外※2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夏季</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>秋季</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>春季</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>夏季(補足)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>					場所	①	②	③	④	⑤	季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	—	—	—	—	冬季	—	—	—	—	—	春季	—	—	—	—	—	夏季(補足)	—	—	○	○	—
	場所	①	②	③	④	⑤																																									
	季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2																																									
	夏季	—	—	—	—	—																																									
	秋季	—	—	—	—	—																																									
	冬季	—	—	—	—	—																																									
	春季	—	—	—	—	—																																									
夏季(補足)	—	—	○	○	—																																										

出典：表 8.4-21(1)と同じ。

※1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

※2 「②計画地周辺」は、計画地周辺 200m の範囲内。「③蒲生干潟」は調査地点図（図 8.4-1）で示した範囲に対応。「④七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「⑤左記以外」は、①～④のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 8.4-21 (8) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：ツルシギ）

分布状況	<p>【全国】 全国に旅鳥として渡来する。秋の渡り期よりも春の渡り期に多く渡来する傾向がある。近年はハス田などの減少に伴い、渡来数が減っている。</p> <p>【仙台市内】 宮城野区岡田、若林区荒井、若林区大沼、若林区井土など。</p>																																														
一般生態	<p>水田、湿地、ハス田、河川、湖沼、池等に生息し、干潟などの海水域に入ることは稀である。水場を歩き回り、水生の昆虫類や貝類、ミミズ類などの小動物や微生物を捕食する。腹部に水面が触れるほどの水深の場所でも採餌を行う。</p>																																														
確認状況※1	<p>秋季に蒲生干潟で確認された。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> <th>④</th> <th>⑤</th> </tr> <tr> <th>季節</th> <th>計画地内</th> <th>計画地周辺※2</th> <th>蒲生干潟※2</th> <th>七北田川※2</th> <th>左記以外※2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夏季</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>秋季</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>春季</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>夏季(補足)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>					場所	①	②	③	④	⑤	季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	—	○	—	—	冬季	—	—	—	—	—	春季	—	—	—	—	—	夏季(補足)	—	—	—	—	—
	場所	①	②	③	④	⑤																																									
	季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2																																									
	夏季	—	—	—	—	—																																									
	秋季	—	—	○	—	—																																									
	冬季	—	—	—	—	—																																									
	春季	—	—	—	—	—																																									
夏季(補足)	—	—	—	—	—																																										

出典：表 8.4-21(1)と同じ。

※1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

※2 「②計画地周辺」は、計画地周辺 200m の範囲内。「③蒲生干潟」は調査地点図（図 8.4-1）で示した範囲に対応。「④七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「⑤左記以外」は、①～④のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 8.4-21 (9) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：オオセグロカモメ）

分布状況	<p>【全国】留鳥または漂鳥であり、青森県以北と岩手県で繁殖する。冬に南下する個体もいるため、ほぼ全国で見られるが、西南日本では少ない。</p> <p>【仙台市内】宮城野区蒲生、若林区荒浜、若林区井土、若林区藤塚、七北田川、広瀬川、青葉区花壇、青葉山、太白区袋原、太白区大野田、あすと長町、名取川など。</p>					
一般生態	<p>沖合、沿岸、港、河口などに生息する。群れで生活し、断崖や砂浜の海岸線などを岸に沿って飛んでいることが多い。動物質のものなら何でも捕食し、繁殖期には他の鳥の卵や雛も食べる。</p>					
確認状況※1	夏季、冬季、春季に蒲生干潟や七北田川等で確認された。					
	場所	①	②	③	④	⑤
	季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2
	夏季	—	—	○	—	—
	秋季	—	—	—	—	—
	冬季	—	—	○	—	—
	春季	—	—	○	○	○
夏季(補足)	○	○	○	○	○	

出典：表 8.4-21(1)に同じ。

※1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

※2 「②計画地周辺」は、計画地周辺 200m の範囲内。「③蒲生干潟」は調査地点図（図 8.4-1）で示した範囲に対応。「④七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「⑤左記以外」は、①～④のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である。本種の場合は七北田川の河口で確認された。

表 8.4-21 (10) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：コアジサシ）

分布状況	<p>【全国】夏鳥として本州以南に渡来する。繁殖適地の減少に伴い個体数は減少している。</p> <p>【仙台市内】名取川、広瀬川、井土浦、大沼、蒲生など。</p>					
一般生態	<p>海岸、港、河口、河川、湖沼、沼地などに生息する。繁殖は埋立地の空き地や砂浜、河川の中州などで行われる。頻繁に水面にダイビングし、主に魚類を捕食する。</p>					
確認状況※1	夏季（補足）に蒲生干潟や七北田川で確認された。					
	場所	①	②	③	④	⑤
	季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2
	夏季	—	—	—	—	—
	秋季	—	—	—	—	—
	冬季	—	—	—	—	—
	春季	—	—	—	—	—
夏季(補足)	—	—	○	○	—	

出典：表 8.4-21(1)に同じ。

※1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

※2 「②計画地周辺」は、計画地周辺 200m の範囲内。「③蒲生干潟」は調査地点図（図 8.4-1）で示した範囲に対応。「④七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「⑤左記以外」は、①～④のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 8.4-21 (11) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：ミサゴ）

分布状況	<p>【全国】ほぼ全国で留鳥であるが、冬に海が氷結する地域の個体は暖地へ移動する。</p> <p>【仙台市内】宮城野区蒲生、若林区荒浜、若林区井土、若林区藤塚、七北田川、広瀬川、青葉山、青葉区川内、泉パークタウン、七北田公園、水の森公園、泉区朴沢、三神峯公園、竜の口橋梁周辺など。</p>					
一般生態	<p>海岸付近や内陸の河川、湖沼に生息する。水面上空でホバリングを行い、水面に飛び込み魚類を捕食する。多くは1～2羽で生活する。</p>					
確認状況※1	四季を通して計画地周辺や蒲生干潟等で確認された。					
	場所	①	②	③	④	⑤
	季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2
	夏季	○	○	○	—	—
	秋季	○	○	○	○	—
	冬季	○	○	○	○	—
	春季	—	○	○	○	○
夏季(補足)	○	○	—	—	—	

出典：表 8.4-21(1)と同じ。

※1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

※2 「②計画地周辺」は、計画地周辺200mの範囲内。「③蒲生干潟」は調査地点図(図 8.4-1)で示した範囲に対応。「④七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲(河口、河川敷含む)。「⑤左記以外」は、①～④のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である。本種は春季に計画地周辺の南西側(200m範囲外)を七北田川上流方向へ向かって飛翔する様子などが確認された。

表 8.4-21 (12) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：ハイタカ）

分布状況	<p>【全国】四国以北では留鳥。一部の個体が冬に九州以南へ渡り越冬する。また、10月頃に日本列島へ越冬のために渡来する大陸型の個体群も存在する。</p> <p>【仙台市内】榴ヶ岡公園、宮城野区蒲生、若林区井土、若林区荒浜、若林区藤塚、ネッタ峠(作並一秋保)、青葉山、泉パークタウン、泉区朴沢、七北田公園、三神峯公園、太白区茂庭御所など。</p>					
一般生態	<p>平地から山地の森林などに生息し、林内、林縁の耕作地や草地で小鳥類やネズミ類を捕食する。秋と冬は海岸近くまで飛来することもある。</p>					
確認状況※1	秋季と冬季に七北田川等で確認された。					
	場所	①	②	③	④	⑤
	季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2
	夏季	—	—	—	—	—
	秋季	—	—	—	—	○
	冬季	—	—	—	○	—
	春季	—	—	—	—	—
夏季(補足)	—	—	—	—	—	

出典：表 8.4-21(1)と同じ。

※1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

※2 「②計画地周辺」は、計画地周辺200mの範囲内。「③蒲生干潟」は調査地点図(図 8.4-1)で示した範囲に対応。「④七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲(河口、河川敷含む)。「⑤左記以外」は、①～④のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である。本種の場合は、蒲生干潟の西側堤防付近等で確認された。

表 8.4-21 (13) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：オオタカ）

分布状況	<p>【全国】九州北部以北で留鳥。一部の個体は冬に南西諸島で越冬する。 【仙台市内】榴ヶ岡公園、宮城野区蒲生、若林区井土、若林区荒浜、若林区藤塚、広瀬川、ネッタ峠（作並－秋保）、青葉山、台原森林公園、東北大学植物園、泉パークタウン、泉区朴沢、七北田公園、水の森公園、三神峯公園、太白区八木山、太白区茂庭御所など。</p>																																														
一般生態	<p>平地から山地の林、河川、農耕地、湖沼、公園などに生息し、林縁部周辺で主にハトなどの中型鳥類やネズミ類、ウサギなどを捕食する。繁殖期以外は1羽で生活しているものが多い。</p>																																														
確認状況※1	<p>夏季に蒲生干潟で確認された。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> <th>④</th> <th>⑤</th> </tr> <tr> <th>季節</th> <th>計画地内</th> <th>計画地周辺※2</th> <th>蒲生干潟※2</th> <th>七北田川※2</th> <th>左記以外※2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夏季</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>秋季</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>春季</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>夏季(補足)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>					場所	①	②	③	④	⑤	季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2	夏季	—	—	○	—	—	秋季	—	—	—	—	—	冬季	—	—	—	—	—	春季	—	—	—	—	—	夏季(補足)	—	—	—	—	—
場所	①	②	③	④	⑤																																										
季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2																																										
夏季	—	—	○	—	—																																										
秋季	—	—	—	—	—																																										
冬季	—	—	—	—	—																																										
春季	—	—	—	—	—																																										
夏季(補足)	—	—	—	—	—																																										

出典：表 8.4-21(1)と同じ。

※1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

※2 「②計画地周辺」は、計画地周辺200mの範囲内。「③蒲生干潟」は調査地点図（図 8.4-1）で示した範囲に対応。「④七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「⑤左記以外」は、①～④のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 8.4-21 (14) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：ノスリ）

分布状況	<p>【全国】北海道、本州中部以北、四国で留鳥。冬は大陸産の個体が越冬のために渡来する。 【仙台市内】榴ヶ岡公園、宮城野区蒲生、若林区井土、若林区荒浜、若林区藤塚、若林区国分寺跡、七北田川、広瀬川、ネッタ峠（作並－秋保）、青葉山、泉パークタウン、七北田公園、水の森公園、泉ヶ岳、八木山動物公園、あすと長町、名取川、竜の口橋梁など。</p>																																														
一般生態	<p>平地から亜高山の林に生息し、その付近の草原、農耕地、牧場、河原など開けた場所で、おもにネズミ類や両生類、爬虫類などの小動物を捕食する。</p>																																														
確認状況※1	<p>秋季から夏季にかけて計画地周辺や蒲生干潟等で確認された。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> <th>④</th> <th>⑤</th> </tr> <tr> <th>季節</th> <th>計画地内</th> <th>計画地周辺※2</th> <th>蒲生干潟※2</th> <th>七北田川※2</th> <th>左記以外※2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夏季</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>秋季</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>春季</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>夏季(補足)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>					場所	①	②	③	④	⑤	季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	—	○	○	○	冬季	○	○	○	○	○	春季	○	○	—	○	○	夏季(補足)	—	—	—	—	○
場所	①	②	③	④	⑤																																										
季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2																																										
夏季	—	—	—	—	—																																										
秋季	—	—	○	○	○																																										
冬季	○	○	○	○	○																																										
春季	○	○	—	○	○																																										
夏季(補足)	—	—	—	—	○																																										

出典：表 8.4-21(1)と同じ。

※1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

※2 「②計画地周辺」は、計画地周辺200mの範囲内。「③蒲生干潟」は調査地点図（図 8.4-1）で示した範囲に対応。「④七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「⑤左記以外」は、①～④のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である。本種の場合は、蒲生干潟西の堤防周辺、七北田川右岸等で確認された。

表 8.4-21 (15) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：カワセミ）

分布状況	<p>【全国】本州以南で留鳥または漂鳥。北海道では夏鳥。 【仙台市内】宮城野区蟹沢、宮城野区蒲生、若林区井土、若林区荒浜、若林区藤塚、七北田川、広瀬川、青葉区上愛子、青葉山、台原森林公園、泉パークタウン、七北田公園、水の森公園、あすと長町、名取川など。</p>																																														
一般生態	<p>平地から低山の河川、湖沼などに生息し、水辺の木の枝などにとまり、魚を見つけると直線的に飛び込み捕食する。河岸の土壁などに横穴を掘って営巣する。繁殖期はつがいで、それ以外は1羽でなわばりを作って生活する。</p>																																														
確認状況※1	<p>秋季と冬季に七北田川で確認された。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> <th>④</th> <th>⑤</th> </tr> <tr> <th>季節</th> <th>計画地内</th> <th>計画地周辺※2</th> <th>蒲生干潟※2</th> <th>七北田川※2</th> <th>左記以外※2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夏季</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>秋季</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>春季</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>夏季(補足)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>					場所	①	②	③	④	⑤	季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	—	—	○	—	冬季	—	—	—	○	—	春季	—	—	—	—	—	夏季(補足)	—	—	—	—	—
	場所	①	②	③	④	⑤																																									
	季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2																																									
	夏季	—	—	—	—	—																																									
	秋季	—	—	—	○	—																																									
	冬季	—	—	—	○	—																																									
春季	—	—	—	—	—																																										
夏季(補足)	—	—	—	—	—																																										

出典：表 8.4-21(1)と同じ。

※1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

※2 「②計画地周辺」は、計画地周辺200mの範囲内。「③蒲生干潟」は調査地点図(図 8.4-1)で示した範囲に対応。「④七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲(河口、河川敷含む)。「⑤左記以外」は、①～④のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である(本種は該当なし)。

表 8.4-21 (16) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：チョウゲンボウ）

分布状況	<p>【全国】本州中部以東で留鳥。本州中部以西では冬鳥。 【仙台市内】榴ヶ岡公園、宮城野区苦竹、宮城野区蒲生、若林区井土、若林区荒浜、若林区藤塚、七北田川、青葉山、泉パークタウン、泉区根白石、七北田公園、三神峯公園、太白区富沢など。</p>																																														
一般生態	<p>平地から高山帯までの農耕地、河川敷、草地、埋立地などに生息する。ホバリングをして昆虫類やネズミ類、小鳥などを捕食する。1羽またはつがいで生活する。</p>																																														
確認状況※1	<p>秋季から夏季にかけて計画地周辺や蒲生干潟等で確認された。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> <th>④</th> <th>⑤</th> </tr> <tr> <th>季節</th> <th>計画地内</th> <th>計画地周辺※2</th> <th>蒲生干潟※2</th> <th>七北田川※2</th> <th>左記以外※2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夏季</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>秋季</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>春季</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>夏季(補足)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>					場所	①	②	③	④	⑤	季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	○	—	—	—	冬季	—	○	—	○	○	春季	—	—	○	—	—	夏季(補足)	○	○	○	—	○
	場所	①	②	③	④	⑤																																									
	季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2																																									
	夏季	—	—	—	—	—																																									
	秋季	—	○	—	—	—																																									
	冬季	—	○	—	○	○																																									
春季	—	—	○	—	—																																										
夏季(補足)	○	○	○	—	○																																										

出典：表 8.4-21(1)と同じ。

※1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

※2 「②計画地周辺」は、計画地周辺200mの範囲内。「③蒲生干潟」は調査地点図(図 8.4-1)で示した範囲に対応。「④七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲(河口、河川敷含む)。「⑤左記以外」は、①～④のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である(本種は該当なし)。

表 8.4-21 (17) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：ハヤブサ）

分布状況	<p>【全国】九州以北で留鳥または漂鳥。南西諸島では冬鳥。 【仙台市内】榴ヶ岡公園、宮城野区蒲生、若林区井土、若林区荒浜、若林区藤塚、七北田川、東北大学植物園、広瀬川、青葉区花壇、青葉山、青葉区中央、泉区朴沢、水の森公園、三神峯公園、あすと長町、太白区柳生、竜の口橋梁など。</p>					
一般生態	<p>平地から山地の海岸、河口、河川、湖沼、農耕地などに生息し、海岸の断崖や岩壁の岩棚や横穴で繁殖する。おもに小型鳥類を空中で捕獲するほか、水面などにたたきつけて捕食する。繁殖期以外は1羽で行動する。</p>					
確認状況※1	<p>秋季に計画地内等、冬季に蒲生干潟で確認された。</p>					
	場所	①	②	③	④	⑤
	季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2
	夏季	—	—	—	—	—
	秋季	○	○	○	○	—
	冬季	—	—	○	—	—
	春季	—	—	—	—	—
夏季(補足)	—	—	—	—	—	

出典：表 8.4-21(1)に同じ。

※1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

※2 「②計画地周辺」は、計画地周辺200mの範囲内。「③蒲生干潟」は調査地点図(図 8.4-1)で示した範囲に対応。「④七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲(河口、河川敷含む)。「⑤左記以外」は、①～④のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である(本種は該当なし)。

表 8.4-21 (18) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：モズ）

分布状況	<p>【全国】ほぼ全国で留鳥または漂鳥。北日本では夏鳥で南西諸島では冬鳥。 【仙台市内】榴ヶ岡公園、宮城野区鶴ヶ谷、宮城野区蒲生、若林区井土、若林区荒浜、若林区藤塚、若林区国分寺跡、七北田川、広瀬川、ネッタ峠(作並-秋保)、青葉山、青葉区堤町、七北田公園、水の森公園、泉ヶ岳、三神峯公園、太白山、あすと長町、名取川など。</p>					
一般生態	<p>平地から山地の林縁や疎林、農耕地、河畔林、公園などに生息し、小型の両生類や爬虫類、昆虫類などを捕食する。繁殖期以外は1羽でなわばりを持って生活し、なわばり内の木の枝などに捕らえた獲物を突き刺す“はやにえ”をつくることが知られる。ほかの鳥のさえずりをまねることもある。</p>					
確認状況※1	<p>秋季から夏季にかけて蒲生干潟や七北田川等で確認された。</p>					
	場所	①	②	③	④	⑤
	季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2
	夏季	—	—	—	—	—
	秋季	—	—	—	○	—
	冬季	—	—	—	○	—
	春季	—	—	○	—	—
夏季(補足)	—	—	○	—	○	

出典：表 8.4-21(1)に同じ。

※1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

※2 「②計画地周辺」は、計画地周辺200mの範囲内。「③蒲生干潟」は調査地点図(図 8.4-1)で示した範囲に対応。「④七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲(河口、河川敷含む)。「⑤左記以外」は、①～④のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である。本種の場合は蒲生干潟西の堤防周辺で確認された。

表 8.4-21 (19) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：ヒバリ）

分布状況	<p>【全国】九州以北で留鳥。東北地方北部以北など積雪の多い地域では夏鳥。沖縄では少数が旅鳥または冬鳥として渡来する。</p> <p>【仙台市内】宮城野区蒲生、若林区井土、若林区荒浜、若林区藤塚、広瀬川、名取川、七北田川、あすと長町、太白区茂庭御所など。</p>																																														
一般生態	<p>平地から山地の草地、砂地、農耕地、荒地などに生息する。主に植物の種子を食べるが、昆虫類も捕食する。繁殖期にはホバリングをしながら複雑に長くさえずるが、地上でもさえずることがある。繁殖期以外は群れで生活する。</p>																																														
確認状況※1	<p>四季を通して計画地内等で確認された。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> <th>④</th> <th>⑤</th> </tr> <tr> <th>季節</th> <th>計画地内</th> <th>計画地周辺※2</th> <th>蒲生干潟※2</th> <th>七北田川※2</th> <th>左記以外※2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夏季</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>秋季</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>春季</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>夏季(補足)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>					場所	①	②	③	④	⑤	季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2	夏季	○	○	○	—	—	秋季	○	○	○	○	—	冬季	—	—	—	○	—	春季	○	○	○	○	○	夏季(補足)	○	○	○	○	○
場所	①	②	③	④	⑤																																										
季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2																																										
夏季	○	○	○	—	—																																										
秋季	○	○	○	○	—																																										
冬季	—	—	—	○	—																																										
春季	○	○	○	○	○																																										
夏季(補足)	○	○	○	○	○																																										

出典：表 8.4-21(1)と同じ。

※1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

※2 「②計画地周辺」は、計画地周辺 200m の範囲内。「③蒲生干潟」は調査地点図（図 8.4-1）で示した範囲に対応。「④七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「⑤左記以外」は、①～④のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である。本種の場合は、蒲生干潟の西の堤防周辺等で確認された。

表 8.4-21 (20) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：ツバメ）

分布状況	<p>【全国】種子島以北で夏鳥。南西諸島では旅鳥。本州中部以南で少数が越冬する。</p> <p>【仙台市内】榴ヶ岡公園、仙台医療センター、宮城野区蒲生、若林区井土、若林区荒浜、若林区藤塚、七北田川、若林区国分寺跡、若林区土樋、ネッタ峠（作並一秋保）、青葉山、台原森林公園、青葉区堤町、東北大学植物園、七北田公園、三神峯公園、太白山、あすと長町、名取川など。</p>																																														
一般生態	<p>市街地周辺や低山の農耕地、河川敷など開けた環境に生息し、飛び回りながら空中で昆虫類を食べる。建造物の軒下などに泥と枯草に唾液を混ぜて椀型の巣をつくる。つがいはまたは小群で生活するが、渡りの時期は大群になる。</p>																																														
確認状況※1	<p>夏季に計画地内等、春季に蒲生干潟等で確認された。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> <th>④</th> <th>⑤</th> </tr> <tr> <th>季節</th> <th>計画地内</th> <th>計画地周辺※2</th> <th>蒲生干潟※2</th> <th>七北田川※2</th> <th>左記以外※2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夏季</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>秋季</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>春季</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>夏季(補足)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>					場所	①	②	③	④	⑤	季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2	夏季	○	○	○	—	—	秋季	—	—	—	—	—	冬季	—	—	—	—	—	春季	—	—	○	—	○	夏季(補足)	○	○	○	○	○
場所	①	②	③	④	⑤																																										
季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2																																										
夏季	○	○	○	—	—																																										
秋季	—	—	—	—	—																																										
冬季	—	—	—	—	—																																										
春季	—	—	○	—	○																																										
夏季(補足)	○	○	○	○	○																																										

出典：表 8.4-21(1)と同じ。

※1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

※2 「②計画地周辺」は、計画地周辺 200m の範囲内。「③蒲生干潟」は調査地点図（図 8.4-1）で示した範囲に対応。「④七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「⑤左記以外」は、①～④のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である。本種の場合は、計画地周辺の東側付近、蒲生干潟の西側堤防周辺等で確認された。

表 8.4-21 (21) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：ウグイス）

分布状況	【全国】本州以南で留鳥または漂鳥。 【仙台市内】榴ヶ岡公園、宮城野区蒲生、若林区井土、若林区荒浜、若林区藤塚、広瀬川、ネッタ峠（作並－秋保）、青葉区上愛子、青葉山、台原森林公園、東北大学植物園、県民の森、七北田公園、水の森公園、泉ヶ岳、三神峯公園、太白山、八木山動物公園、名取川など。					
一般生態	平地から山地の林に生息する。特に林床にササ類のある環境を好み、藪の中などを渡り歩いて昆虫類やクモ類を捕食する。繁殖期以外は1羽で生活するが、春秋は小群で移動する。					
確認状況※1	秋季と冬季、夏季に蒲生干潟等で確認された。					
	場所	①	②	③	④	⑤
	季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2
	夏季	—	—	—	—	—
	秋季	—	—	○	—	—
	冬季	—	—	○	○	—
春季	—	—	—	—	—	
夏季(補足)	—	—	—	○	—	

出典：表 8.4-21(1)と同じ。

※1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

※2 「②計画地周辺」は、計画地周辺200mの範囲内。「③蒲生干潟」は調査地点図（図 8.4-1）で示した範囲に対応。「④七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「⑤左記以外」は、①～④のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 8.4-21 (22) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：オオヨシキリ）

分布状況	【全国】夏鳥として九州以北に渡来する。 【仙台市内】大倉ダム、川内、米ヶ袋、鶴ヶ谷、田子、将監、名取川、井土浦、霞目、南長沼、大沼、蒲生など。					
一般生態	河口、河川、湖沼のヨシ原などに生息し。主に昆虫類などを食べる。カッコウに托卵先として利用されることがある。					
確認状況※1	夏季（補足）に蒲生干潟等で確認された。					
	場所	①	②	③	④	⑤
	季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2
	夏季	—	—	—	—	—
	秋季	—	—	—	—	—
	冬季	—	—	—	—	—
春季	—	—	—	—	—	
夏季(補足)	—	○	○	○	—	

出典：表 8.4-21(1)と同じ。

※1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

※2 「②計画地周辺」は、計画地周辺200mの範囲内。「③蒲生干潟」は調査地点図（図 8.4-1）で示した範囲に対応。「④七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「⑤左記以外」は、①～④のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 8.4-21 (23) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：コヨシキリ）

分布状況	<p>【全国】夏鳥として本州中部以北に渡来するが、繁殖地は局地的である。また九州の高原で繁殖する個体群も知られている。</p> <p>【仙台市内】青葉山、野牛、福田町、井土浦、広瀬川、南長沼、蒲生など。</p>					
一般生態	<p>平地から山地の草原や湿原などに生息し。主に昆虫類などを食べる。草むらの中へ潜行することが多い。オオヨシキリと同様、カッコウに托卵先として利用されることがある。</p>					
確認状況※1	夏季（補足）に七北田川で確認された。					
	場所	①	②	③	④	⑤
	季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2
	夏季	—	—	—	—	—
	秋季	—	—	—	—	—
	冬季	—	—	—	—	—
	春季	—	—	—	—	—
夏季(補足)	—	—	—	○	—	

出典：表 8.4-21(1)と同じ。

※1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

※2 「②計画地周辺」は、計画地周辺 200m の範囲内。「③蒲生干潟」は調査地点図（図 8.4-1）で示した範囲に対応。「④七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「⑤左記以外」は、①～④のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である。本種の場合は七北田川右岸で確認された。

表 8.4-21 (24) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：セッカ）

分布状況	<p>【全国】本州以南で留鳥または漂鳥。とくに本州中南部に多く、北陸・東北地方や日本海側の積雪が多い地域では稀。北日本の個体群は冬には暖地へ移動する。</p> <p>【仙台市内】宮城野区蒲生、若林区井土、若林区荒浜、若林区藤塚、広瀬川、太白区大野田、名取川など。</p>					
一般生態	<p>平地の草原、農耕地、河原に生息する。特にチガヤが自生している場所を好み、昆虫類やクモ類などを捕食する。繁殖期はつがいか一夫多妻で生活する。</p>					
確認状況※1	秋季および夏季（補足）に蒲生干潟で確認された。					
	場所	①	②	③	④	⑤
	季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2
	夏季	—	—	—	—	—
	秋季	—	—	○	—	—
	冬季	—	—	—	—	—
	春季	—	—	—	—	—
夏季(補足)	—	—	○	—	—	

出典：表 8.4-21(1)と同じ。

※1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

※2 「②計画地周辺」は、計画地周辺 200m の範囲内。「③蒲生干潟」は調査地点図（図 8.4-1）で示した範囲に対応。「④七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「⑤左記以外」は、①～④のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 8.4-21 (25) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：セグロセキレイ）

分布状況	<p>【全国】九州以北で留鳥。少数が冬に対馬、伊豆諸島、奄美大島などへ飛来する。</p> <p>【仙台市内】榴ヶ岡公園、宮城野区蒲生、若林区井土、広瀬川、ネッタ峠（作並－秋保）、青葉山、水の森公園、台原森林公園、青葉区落合、七北田公園、三神峯公園、あすと長町、名取川など。</p>					
一般生態	<p>平地から山地の河川、湖沼、農耕地などに生息する。尾羽を上下に振りながら水辺を歩いたり、空中に飛び立ったりして、昆虫類やクモ類を捕食する。ほぼ1年を通してつがい生活する。</p>					
確認状況※1	<p>秋季に計画地周辺で、夏季（補足）に七北田川で確認された。</p>					
	場所	①	②	③	④	⑤
	季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2
	夏季	—	—	—	—	—
	秋季	—	○	—	—	—
	冬季	—	—	—	—	—
	春季	—	—	—	—	—
夏季(補足)	—	—	—	○	—	

出典：表 8.4-21(1)と同じ。

※1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

※2 「②計画地周辺」は、計画地周辺200mの範囲内。「③蒲生干潟」は調査地点図（図 8.4-1）で示した範囲に対応。「④七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「⑤左記以外」は、①～④のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 8.4-21 (26) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：ホオジロ）

分布状況	<p>【全国】種子島、屋久島以北で留鳥または漂鳥。北海道では夏鳥。</p> <p>【仙台市内】榴ヶ岡公園、宮城野区蒲生、若林区井土、若林区荒浜、若林区藤塚、七北田川、広瀬川、青葉区花壇、ネッタ峠（作並－秋保）、青葉山、台原森林公園、県民の森、七北田公園、水の森公園、泉ヶ岳、太白山、太白区茂庭御所、名取川など。</p>					
一般生態	<p>平地から山地の草原、農耕地、疎林、河原などに生息する。昆虫類や草の種子などを食べる。繁殖期以外は数羽で生活するものが多い。開けた場所を好み、林内に入ることはあっても暗い場所にはいかない。</p>					
確認状況※1	<p>四季を通して蒲生干潟等で確認された。</p>					
	場所	①	②	③	④	⑤
	季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2
	夏季	—	○	○	—	—
	秋季	—	—	○	—	—
	冬季	—	—	○	○	—
	春季	—	—	○	—	—
夏季(補足)	—	○	○	○	○	

出典：表 8.4-21(1)と同じ。

※1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

※2 「②計画地周辺」は、計画地周辺200mの範囲内。「③蒲生干潟」は調査地点図（図 8.4-1）で示した範囲に対応。「④七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「⑤左記以外」は、①～④のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である。本種の場合は七北田川右岸等で確認された。

表 8.4-21 (27) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：ホオアカ）

分布状況	<p>【全国】北海道、本州、四国、九州で留鳥または漂鳥。 【仙台市内】宮城野区蒲生、若林区井土、若林区荒浜、若林区藤塚、広瀬川、青葉山、泉区七北田、太白区富沢、あすと長町、名取川など。</p>																																														
一般生態	<p>平地から亜高山の草原などに生息し、特に背丈の低い草地を好む。主に昆虫類やクモ類、草の種子などを食べる。繁殖期以外は小群で、本州西南部以南の河川敷の草原、農耕地や干拓地に移動する。</p>																																														
確認状況※1	<p>秋季、冬季、春季に蒲生干潟等で確認された。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> <th>④</th> <th>⑤</th> </tr> <tr> <th>季節</th> <th>計画地内</th> <th>計画地周辺※2</th> <th>蒲生干潟※2</th> <th>七北田川※2</th> <th>左記以外※2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夏季</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>秋季</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>春季</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>夏季(補足)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>					場所	①	②	③	④	⑤	季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	—	—	○	—	冬季	—	—	—	—	○	春季	—	—	○	—	—	夏季(補足)	—	—	—	—	—
	場所	①	②	③	④	⑤																																									
	季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2																																									
	夏季	—	—	—	—	—																																									
	秋季	—	—	—	○	—																																									
	冬季	—	—	—	—	○																																									
	春季	—	—	○	—	—																																									
夏季(補足)	—	—	—	—	—																																										

出典：表 8.4-21(1)と同じ。

※1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

※2 「②計画地周辺」は、計画地周辺 200m の範囲内。「③蒲生干潟」は調査地点図（図 8.4-1）で示した範囲に対応。「④七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「⑤左記以外」は、①～④のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である。本種の場合は、蒲生干潟西側の堤防付近等で確認された。

表 8.4-21 (28) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：アオジ）

分布状況	<p>【全国】漂鳥。中部地方以北では夏鳥で、それより南では冬鳥。 【仙台市内】榴ヶ岡公園、宮城野区蒲生、若林区井土、若林区荒浜、若林区藤塚、七北田川、広瀬川、ネッタ峠（作並－秋保）、青葉山、青葉区大倉、青葉区堤町、県民の森、七北田公園、水の森公園、泉ヶ岳、三神峯公園、太白山、あすと長町、名取川など。</p>																																														
一般生態	<p>平地から山地の疎林や低木の林、草原などに生息する。薄暗い林道付近や竹藪、灌木の茂み、アシ原などの地上を跳ね歩きながら昆虫類やクモ類、草木の種子などを食べる。繁殖期以外は小群で行動する。</p>																																														
確認状況※1	<p>秋季から夏季（補足）にかけて蒲生干潟等で確認された。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> <th>④</th> <th>⑤</th> </tr> <tr> <th>季節</th> <th>計画地内</th> <th>計画地周辺※2</th> <th>蒲生干潟※2</th> <th>七北田川※2</th> <th>左記以外※2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夏季</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>秋季</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>春季</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>夏季(補足)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>					場所	①	②	③	④	⑤	季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	—	○	—	—	冬季	—	—	○	—	—	春季	—	○	○	○	—	夏季(補足)	—	—	○	○	—
	場所	①	②	③	④	⑤																																									
	季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2																																									
	夏季	—	—	—	—	—																																									
	秋季	—	—	○	—	—																																									
	冬季	—	—	○	—	—																																									
	春季	—	○	○	○	—																																									
夏季(補足)	—	—	○	○	—																																										

出典：表 8.4-21(1)と同じ。

※1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

※2 「②計画地周辺」は、計画地周辺 200m の範囲内。「③蒲生干潟」は調査地点図（図 8.4-1）で示した範囲に対応。「④七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「⑤左記以外」は、①～④のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 8.4-22 注目すべき種の一般生態及び確認状況（両生類：ニホンアマガエル）

分布状況	<p>【全国】北海道、本州、四国、九州、佐渡島、隠岐、老岐、対馬、大隅諸島。 【仙台市内】沿岸から内陸にかけての各地。</p>					
一般生態	<p>平地から山地までの水田、湿地、池、防火水槽、河川敷や道路の水たまりなどの浅い止水で繁殖し、その近辺の灌木や草の上で生活する。繁殖期は通常4～7月であるが、場所によっては9月まで及ぶこともある。また幼生から成体への変態期は7～10月である。周囲の状況に応じて素早く体色を変化させ、主に昆虫類やクモ類を捕食する。冬季は落葉の堆積の下や樹洞等、陸上で冬眠する。</p>					
確認状況※1	春季に計画地周辺（西側の貞山堀付近）で鳴き声が確認された。					
	場所	①	②	③	④	⑤
	季節	計画地内	計画地周辺※2	蒲生干潟※2	七北田川※2	左記以外※2
	夏季	—	—	—	—	—
	秋季	—	—	—	—	—
春季	—	○	—	—	—	
夏季(補足)	—	—	—	—	—	

出典：「平成28年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市、平成29年）

「改訂版日本カエル図鑑」（前田憲雄他、平成11年）

※1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

※2 「②計画地周辺」は、計画地周辺200mの範囲内。「③蒲生干潟」は調査地点図（図8.4-1）で示した範囲に対応。「④七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「⑤左記以外」は、①～④のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 8.4-23 注目すべき種の一般生態及び確認状況（昆虫類：アキアカネ）

分布状況	<p>【全国】北海道、本州、四国、九州に分布し、南千島の国後島、飛島、粟島、佐渡島、淡路島、瀬戸内の家島諸島、隠岐、対馬、五島列島、天草諸島などの離島にも産する。 【仙台市内】沿岸から内陸にかけての各地。</p>		
一般生態	<p>主に平地や丘陵地、低山地の挺水植物の繁茂する池沼や水田、湿地などに生息する。羽化は概ね夜間に茎や葉裏等に定位して行う。卵期間は半年程度、幼虫期間は3～6か月程度で、1年ごとに世代交代する。平地で羽化した個体は山地へ移動して夏季を過ごし、成熟後は秋季に平地へ戻るが、一部の個体は山地でそのまま繁殖する場合もある。</p>		
確認状況※1	夏季と秋季に計画地内と計画地周辺で確認された。		
	場所	①計画地内	②計画地周辺※2
	季節		
	夏季	○	—
秋季	○	○	
春季	—	—	

出典：「平成3年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市、令和4年）

「日本産トンボ幼虫・成虫 検索図説」（石田昇三他、平成5年）

「ネイチャーガイド 日本のトンボ」（尾園暁他、平成25年）

※1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

※2 「②計画地周辺」は、計画地周辺200mの範囲内。

(8) 太陽光パネルに関する調査

a) 太陽光パネルに関する事業者ヒアリング等

計画地の北西側に、屋上に太陽光パネルが設置されている建物が隣接している（図 8.4-1）。太陽光パネルによる影響を予測する上での参考情報収集のため、当該建物を所有する事業者へ、鳥類等の衝突事故等の有無についてヒアリングを行った。

ヒアリング結果を表 8.4-24 に示す。設置から約 10 年が経過しているが、当該太陽光パネルについて、鳥類の衝突、滞留を示唆するフン付着等は生じていない。

表 8.4-24 太陽光パネルに関する事業者ヒアリング結果

日時・場所	令和 4 年 1 月 20 日 10:30~10:50、Web 会議方式
対象	シンコール株式会社東北本社（建物所有者）
太陽光パネル等の諸元等	<ul style="list-style-type: none">・太陽光パネルは事業系ビルの屋上に設置されており、屋上には人が立ち入れない構造となっている。・太陽光パネルの設置時期は平成 25 年頃であり、取り換えは一度も行われていない（設置期間：約 10 年）。・太陽光パネルの大きさは、南北約 70m×東西約 50m^{※1}
ヒアリング結果概要	<p>○鳥類等の確認状況について</p> <ul style="list-style-type: none">・太陽光パネル設置への<u>鳥の衝突事故はこれまで生じておらず、太陽光パネルに鳥のフンが付着することもない。また、建物周囲に鳥のフンや死骸が見られるようなこともない。</u>・太陽光パネルが設置される前も、そのような状況（衝突やフン付着等）は生じてなかった。以前当地に存在した周囲の住宅地^{※2}でも、生活ごみを好むカラス等は別として、鳥が住宅地に近づくこともなかった。 <p>○昆虫類等の確認状況について</p> <ul style="list-style-type: none">・虫の死骸も特段見つかっていない。

※1 太陽光パネルのサイズは航空写真等より概数で計測。

※2 当地（蒲生地区）は元々住宅地であり、東日本大震災でほとんどの住宅が損壊した。本建物も被害を受けたが、当ビルは辛うじて残った経緯がある。

b) 太陽光パネルの影響に関する既往研究

近年、森林・草地・湿地等の自然環境を開発し、生態系保護の観点から問題視されるような事例が目立つようになってきている。これに関して、日本鳥学会は、「太陽光発電施設に関する環境影響評価等の法制度の整備を求める意見書」（令和元年6月）を提出しており、その中で、大規模太陽光発電施設と鳥類に関する問題点について関連する知見を総合的に整理した上で、鳥類をはじめとする生物の生息等に対して太陽光発電施設が及ぼす影響について調査・研究を進めることを国に対して要望している（表 8.4-25 の出典参照）。

鳥類をはじめとする動物への太陽光パネルによる影響については、この日本鳥類学会による概括的な整理（表 8.4-25）に示すように、様々な影響の可能性が指摘されている。これらの影響の種類や程度は、太陽光パネルが立地する周辺環境や発電システム諸元（規模、高さ等）より大きく左右され、また、改変等による直接的影響から間接的影響まで多様かつ相互に関係するものと考えられる。そのため、直接改変するような影響が明らかなケースは別として、個々の設置案件への適用可能性を判断する際には、より多くのデータが蓄積されていることが望ましい。

しかし、本研究領域については、現状十分なデータを伴った研究事例は少なく、日本鳥学会の要望にもあるように、今後の研究蓄積が待たれる段階にあると言える。

表 8.4-25 太陽光パネルの設置と鳥類との関係についての懸念事項

太陽光発電施設に関する環境影響評価等の法制度の整備を求める意見書 附属資料1：「大規模太陽光発電の課題と鳥類の生息環境に及ぼす影響」より抜粋
<ul style="list-style-type: none">・設置場所が鳥類にとって魅力的ではない場所（例：都市環境、集約的な耕作地、整備された工業用地など）では、それほど影響がないと考える。・一方、保護区やその近くなど太陽光パネルの設置場所がすでに野生生物にとって貴重な場所であれば、影響が起こる可能性が高い。それを避けるために、設置前に詳細な環境影響評価を行うことが必要である。・放棄耕作地や生産力の低い農地、長期間放置された工業用地などは、太陽光パネルの設置の標的となる。一方、これらの場所は希少な動植物種が生息するようになったなど、自然保護において重要な場所になっていることがあり、その場合は太陽光パネルの設置により影響が起こる可能性が高い。・水鳥が光を反射する太陽光パネルを水域と間違い、衝突する可能性がある。・カゲロウ、カワゲラのように水中に卵を産む昆虫は、光を反射する太陽光パネルを水域と間違い、これらの昆虫が太陽光パネルの表面に卵を産むことが確認されている。設置場所やその周辺が、そういった昆虫を重要な食物資源としている鳥類の生息地である場合、野鳥の繁殖成功率と食物入手の可能性を減らす可能性がある。・太陽光発電所を囲んでいる防護柵やフェンスは、いくつかの種の鳥類にとっては衝突の危険性を高める可能性がある。

出典：「太陽光発電施設に関する環境影響評価等の法制度の整備を求める意見書」の附属資料1「大規模太陽光発電の課題と鳥類の生息環境に及ぼす影響」

8.4.3 予測及び評価の結果

1) 工事による影響（資材等の運搬、重機の稼働、切土・盛土・発破・掘削等）

(1) 予測内容

予測内容及び予測方法を表 8.4-26 に示す。

表 8.4-26 予測内容及び予測方法

予測内容	予測方法	予測対象（注目種※）			
		哺乳類	鳥類	両生類	昆虫類
①動物相及び注目すべき種の消滅の有無や変化の程度	最新の工事計画（工事中の資材等の運搬、重機の稼働、掘削工事等）に基づき、工事中の環境変化を検討した上で、現地調査から得られた確認位置・行動等の情報、生態的特性に関する知見を踏まえ、動物相及び注目すべき種の消滅の有無や変化の程度を予測した。	○	○	○	○

※ 「注目種」は現地調査で確認された注目すべき重要種である。

(2) 予測地域等

動物への影響が想定される計画地、その他周辺約 200m の範囲及び蒲生干潟並びに七北田川河口上空を含んだ範囲とした。

(3) 予測対象時期

予測対象時期は、工事による影響が最大となる時期とする。動物の繁殖時期や分布地等を考慮し、施工位置、施工時期等を踏まえながら、適切な予測時期を設定した。

(4) 予測結果

注目すべき重要な種について、哺乳類（1種）の予測結果を表 8.4-27、鳥類（28種）の予測結果を表 8.4-29（1）～（28）、両生類（1種）の予測結果を表 8.4-30、昆虫類（1種）の予測結果を表 8.4-31 に示す。また、鳥類については、予測結果の一覧を表 8.4-28 に別途示す。

計画地は平坦な造成地で、現況の土地利用は草地・砂礫地となっている。一年生、多年生草本植物からなる植生が存在するが、樹木や水環境等は見られない。また、計画地の東～南側には、鳥類の重要な生息地となっている蒲生干潟や七北田川等、計画地内と類似或いはより質の高い水辺環境が分布し、鳥類をはじめとする動物に利用されている。現地調査では、計画地内において、注目種（タヌキ、ヒバリ等）を含む一部動物による利用が確認されているが、計画地内の動物相は周辺の水辺環境エリアと比べると豊かではない。

周辺の水辺環境エリアは、計画地と約 400m の離隔があること、約 7m^{*} の堤防（防潮堤）が介在することにより、直接改変や間接的影響（大気質、騒音振動等）の影響が及ばないと考えられることから、動物にとっての生息・利用環境は大きく変化しないものと予測される。計画地内は事業に伴い草地環境が縮小/消失する可能性があるものの、地域の動物相への影響は小さいものと考えられる。

計画地内で確認された注目すべき動物種は、哺乳類 1 種（タヌキ）、鳥類 7 種（オオセグロカモメ、ミサゴ、ノスリ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、ヒバリ、ツバメ）、昆虫類 1 種（アキアカネ）であった。これらのうち、タヌキ、ヒバリについては、草地環境を好む生態的特性や現地調査での確認状況から、計画地内の利用環境が失われることによる影響の度合いが、他の注目すべき種と比べて相対的に大きいと考えられるが、周辺の主たる生息環境（蒲生干潟、七北田川等）が存在することから、種としての影響は小さいと予測する。

※ 「二級河川七北田川水系河川整備計画」（平成 30 年 1 月、宮城県）によれば、高潮・津波への対応として必要な高さ T.P.+7.2m で整備されている。

表 8.4-27 予測結果（哺乳類：ホンドタヌキ）

項目	予測結果	
<p>予想される生息環境の変化等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は計画地内、蒲生干潟、七北田川河川敷等で確認されている。 ・蒲生干潟や七北田川と比べて計画地内での痕跡の確認頻度は少なく、巣穴やため糞等、重要な利用地域であることを示唆する情報も確認されていない。利用域の中心は蒲生干潟、七北田川等であり、計画地内の利用頻度は少ないと推測される。 ・工事に伴う土地改変により計画地内の利用環境（草地等）は一部消失する。蒲生干潟、七北田川は事業に伴う土地改変等が生じない。 	
<p>動物相及び注目すべき種の消滅の有無や変化の程度※1</p>	<p>△</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計画地内の利用環境が縮小するが、本種の主な利用域の中心である蒲生干潟、七北田川は、工事による直接改変を受けず、生息環境の大きな減少には至らない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、計画地の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB※2、振動レベルは最大で 70dB※2 であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は計画地近辺に限られ、蒲生干潟、七北田川等まで騒音及び振動の影響は及ばない。 ・本種は地上を歩行して移動する特性をもち、工事中も計画地内や近隣での一定程度の利用が残る可能性があるため、車両運行時の配慮（注意喚起、低速化等）を行うことで、計画地内におけるロードキル等、影響の低減に努める。 ・以上のことから、利用環境が一部消失/縮小※3するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さいと考えられる。

※1 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

※2 「工事による複合的な影響」の予測結果より、隣接する他事業との累積的影響を含む値である。

※3 「第1章 / 1.9 緑化及び景観計画」に基づき計画地周辺に緑地が設けられ、供用後も本種の一定の利用が見られる可能性があるが、その程度を定量的に示すことが難しいため、ここでは仮に利用が見られない場合であっても「種としての影響は小さい」と予測している。

表 8.4-28 予測結果一覧（鳥類）

No.	目名	科名	種名	予測結果※
1	カモ	カモ	コクガン	×
2	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	×
3	ペリカン	サギ	チュウサギ	×
4			コサギ	×
5			カラシラサギ	×
6	チドリ	チドリ	イカルチドリ	×
7			シロチドリ	×
8		シギ	ツルシギ	×
9		カモメ	オオセグロカモメ	×
10			コアジサシ	×
11		タカ	ミサゴ	ミサゴ
12	タカ		ハイタカ	×
13			オオタカ	×
14			ノスリ	×
15	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	×
16	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	×
17			ハヤブサ	×
18	スズメ	モズ	モズ	×
19		ヒバリ	ヒバリ	△
20		ツバメ	ツバメ	×
21		ウグイス	ウグイス	×
22		ヨシキリ	オオヨシキリ	×
23			コヨシキリ	×
24		セッカ	セッカ	×
25		セキレイ	セグロセキレイ	×
26		ホオジロ	ホオジロ	×
27			ホオアカ	×
28			アオジ	×
8 目		18 科	28 種	

※ 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

表 8.4-29 (1) 予測結果 (鳥類: コクガン)

項目	予測結果	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は越冬時に内湾や海岸、河口、干潟、沿岸部の湖沼等を好む種である。現地調査では、七北田川河口で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された七北田川では工事に伴う土地改変等は生じない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、計画地の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB^{※2}、振動レベルは最大で 70dB^{※2}であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は計画地近辺に限られ、蒲生干潟、七北田川等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 	
動物相及び注目すべき種の消滅の有無や変化の程度 ^{※1}	×	<ul style="list-style-type: none"> ・七北田川等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。

※1 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」: 主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」: 利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」: 主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

※2 「工事による複合的な影響」の予測結果より、隣接する他事業との累積的影響を含む値である。

表 8.4-29 (2) 予測結果 (鳥類: カイツブリ)

項目	予測結果	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は、河川、湖沼、内湾等の水辺を好む種である。現地調査では、蒲生干潟及び七北田川で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟、七北田川は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、計画地の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB^{※2}、振動レベルは最大で 70dB^{※2}であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は計画地近辺に限られ、蒲生干潟、七北田川等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 	
動物相及び注目すべき種の消滅の有無や変化の程度 ^{※1}	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟、七北田川等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。

※1 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」: 主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」: 利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」: 主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

※2 「工事による複合的な影響」の予測結果より、隣接する他事業との累積的影響を含む値である。

表 8.4-29 (3) 予測結果 (鳥類: チュウサギ)

項目	予測結果	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は河川、水田、湿地、湖沼等の水辺を好む種である。現地調査では、蒲生干潟で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、計画地の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB^{※2}、振動レベルは最大で 70dB^{※2}であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は計画地近辺に限られ、蒲生干潟、七北田川等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 	
動物相及び注目すべき種の消滅の有無や変化の程度 ^{※1}	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟、七北田川等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。

※1 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」: 主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」: 利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」: 主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

※2 「工事による複合的な影響」の予測結果より、隣接する他事業との累積的影響を含む値である。

表 8.4-29 (4) 予測結果 (鳥類: コサギ)

項目	予測結果	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は河川、水田、湿地、湖沼等の水辺を好む種である。現地調査では、蒲生干潟、七北田川で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟、七北田川は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、計画地の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB^{※2}、振動レベルは最大で 70dB^{※2}であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は計画地近辺に限られ、蒲生干潟、七北田川等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 	
動物相及び注目すべき種の消滅の有無や変化の程度 ^{※1}	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟、七北田川等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。

※1 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」: 主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」: 利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」: 主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

※2 「工事による複合的な影響」の予測結果より、隣接する他事業との累積的影響を含む値である。

表 8.4-29 (5) 予測結果 (鳥類：カラシラサギ)

項目	予測結果	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は海岸、河口、干潟、河川、水田、湿地等の水辺を好む種である。現地調査では、蒲生干潟で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、計画地の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB^{※2}、振動レベルは最大で 70dB^{※2}であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は計画地近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 	
動物相及び注目すべき種の消滅の有無や変化の程度 ^{※1}	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。

※1 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

※2 「工事による複合的な影響」の予測結果より、隣接する他事業との累積的影響を含む値である。

表 8.4-29 (6) 予測結果 (鳥類：イカルチドリ)

項目	予測結果	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は水田、湿地、河口、干潟、河川等の水辺を好む種である。現地調査では、蒲生干潟で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、計画地の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB^{※2}、振動レベルは最大で 70dB^{※2}であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は計画地近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 	
動物相及び注目すべき種の消滅の有無や変化の程度 ^{※1}	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。

※1 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

※2 「工事による複合的な影響」の予測結果より、隣接する他事業との累積的影響を含む値である。

表 8.4-29 (7) 予測結果 (鳥類：シロチドリ)

項目	予測結果	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は水田、湿地、河口、干潟、河川等の水辺を好む種である。現地調査では、蒲生干潟で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、計画地の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB^{※2}、振動レベルは最大で 70dB^{※2}であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は計画地近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 	
動物相及び注目すべき種の消滅の有無や変化の程度 ^{※1}	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。

※1 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

※2 「工事による複合的な影響」の予測結果より、隣接する他事業との累積的影響を含む値である。

表 8.4-29 (8) 予測結果 (鳥類：ツルシギ)

項目	予測結果	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は水田、湿地、河口、干潟、河川等の水辺を好む種である。現地調査では、蒲生干潟で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、計画地の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB^{※2}、振動レベルは最大で 70dB^{※2}であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は計画地近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 	
動物相及び注目すべき種の消滅の有無や変化の程度 ^{※1}	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。

※1 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

※2 「工事による複合的な影響」の予測結果より、隣接する他事業との累積的影響を含む値である。

表 8.4-29 (9) 予測結果 (鳥類: オオセグロカモメ)

項目	予測結果	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は沖合、沿岸、内湾、河口等の水辺を好む種である。現地調査では、蒲生干潟や七北田川で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、計画地の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB^{※2}、振動レベルは最大で 70dB^{※2} であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は計画地近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 	
動物相及び注目すべき種の消滅の有無や変化の程度 ^{※1}	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。

※1 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」: 主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」: 利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」: 主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

※2 「工事による複合的な影響」の予測結果より、隣接する他事業との累積的影響を含む値である。

表 8.4-29 (10) 予測結果 (鳥類: コアジサシ)

項目	予測結果	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は沖合、沿岸、内湾、河口等の水辺を好む種である。現地調査では、蒲生干潟や七北田川で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟や七北田川は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、計画地の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB^{※2}、振動レベルは最大で 70dB^{※2} であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は計画地近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 	
動物相及び注目すべき種の消滅の有無や変化の程度 ^{※1}	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。

※1 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」: 主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」: 利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」: 主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

※2 「工事による複合的な影響」の予測結果より、隣接する他事業との累積的影響を含む値である。

表 8.4-29 (11) 予測結果 (鳥類：ミサゴ)

項目	予測結果	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は海岸、河口、河川、湖沼等の水辺を好む種である。現地調査では、計画地内外や周辺の蒲生干潟等で確認されている。 ・計画地内は工事による改変を受けるが、計画地は魚類を餌資源とする本種にとって採餌場ではなく、蒲生干潟や七北川河口と他の水域への移動途中に上空を通過する区域であると考えられる。 ・本種の採餌場となり得る蒲生干潟や七北川は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、計画地の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で82dB^{※2}、振動レベルは最大で70dB^{※2}であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は計画地近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 	
動物相及び注目すべき種の消滅の有無や変化の程度 ^{※1}	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。

※1 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

※2 「工事による複合的な影響」の予測結果より、隣接する他事業との累積的影響を含む値である。

表 8.4-29 (12) 予測結果 (鳥類：ハイタカ)

項目	予測結果	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は樹林環境を好み、それらの周辺で鳥類を捕食する種である。現地調査では、蒲生干潟付近、七北田川で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・計画地内は工事による改変を受けるが、樹木もなく餌資源となる鳥類の滞留も少ないエリアであることから、採餌環境としての変化は小さいと考えられる。一方で、餌資源となる鳥類が多く存在し、採餌環境として適する蒲生干潟、七北田川等は、工事による改変を受けない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、計画地の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で82dB^{※2}、振動レベルは最大で70dB^{※2}であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は計画地近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 	
動物相及び注目すべき種の消滅の有無や変化の程度 ^{※1}	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟、七北田川等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。

※1 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

※2 「工事による複合的な影響」の予測結果より、隣接する他事業との累積的影響を含む値である。

表 8.4-29 (13) 予測結果 (鳥類：オオタカ)

項目	予測結果	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は樹林環境を好み、それらの周辺で鳥類を捕食する種である。現地調査では、蒲生干潟で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・計画地内は工事による改変を受けるが、樹木もなく餌資源となる鳥類の滞留も少ないエリアであることから、採餌環境としての変化は小さいと考えられる。一方で、餌資源となる鳥類が多く存在し、採餌環境として適する七北田川等は、工事による改変を受けない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、計画地の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で82dB^{※2}、振動レベルは最大で70dB^{※2}であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は計画地近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 	
動物相及び注目すべき種の消滅の有無や変化の程度 ^{※1}	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。

※1 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

※2 「工事による複合的な影響」の予測結果より、隣接する他事業との累積的影響を含む値である。

表 8.4-29 (14) 予測結果 (鳥類：ノスリ)

項目	予測結果	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は樹林環境を好み、それらの周辺にある草地や耕作地等で小型哺乳類や鳥類等を捕食する種である。現地調査では、蒲生干潟、七北田川等で確認されており、計画地内では上空の飛翔が確認されている。 ・計画地内は工事による改変を受けるが、樹木もなく餌資源となる鳥類の滞留が少なく、昆虫相も貧弱であるエリアであることから、採餌環境としての変化は小さいと考えられる。一方で、餌資源となる鳥類が多く存在し、採餌環境として適する蒲生干潟、七北田川等は、工事による改変を受けない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、計画地の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で82dB^{※2}、振動レベルは最大で70dB^{※2}であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は計画地近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 	
動物相及び注目すべき種の消滅の有無や変化の程度 ^{※1}	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。

※1 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

※2 「工事による複合的な影響」の予測結果より、隣接する他事業との累積的影響を含む値である。

表 8.4-29 (15) 予測結果 (鳥類：カワセミ)

項目	予測結果	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は河川、湖沼、池等の水辺を好む種である。現地調査では、七北田川で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された七北田川は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、計画地の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で82dB^{※2}、振動レベルは最大で70dB^{※2}であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は計画地近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 	
動物相及び注目すべき種の消滅の有無や変化の程度 ^{※1}	×	<ul style="list-style-type: none"> ・七北田川等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。

※1 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

※2 「工事による複合的な影響」の予測結果より、隣接する他事業との累積的影響を含む値である。

表 8.4-29 (16) 予測結果 (鳥類：チョウゲンボウ)

項目	予測結果	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は農耕地、河川敷、草地、埋立地等で見られ、小動物や昆虫を捕食する種である。現地調査では、蒲生干潟、七北田川等で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・計画地内は工事による改変を受けるが、餌資源となる昆虫類等が貧弱であることから、採餌環境としての変化は小さいと考えられる。一方で、餌資源となる小動物等が多く存在し、採餌環境として適する蒲生干潟、七北田川等は、工事による改変を受けない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、計画地の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で82dB^{※2}、振動レベルは最大で70dB^{※2}であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は計画地近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 	
動物相及び注目すべき種の消滅の有無や変化の程度 ^{※1}	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。

※1 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

※2 「工事による複合的な影響」の予測結果より、隣接する他事業との累積的影響を含む値である。

表 8.4-29 (17) 予測結果 (鳥類：ハヤブサ)

項目	予測結果	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は海岸、河口、河川、湖沼等の水辺や農耕地等で見られ、鳥類を捕食する種である。現地調査では、蒲生干潟、七北田川等で確認されており、計画地内では上空の飛翔が確認されている。 ・計画地内は工事による改変を受けるが、餌資源となる鳥類の滞留も少ないエリアであることから、採餌環境としての変化は小さいと考えられる。一方で、餌資源となる鳥類が多く存在し、採餌環境として適する蒲生干潟、七北田川等は、工事による改変を受けない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、計画地の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB^{※2}、振動レベルは最大で 70dB^{※2}であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は計画地近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 	
動物相及び注目すべき種の消滅の有無や変化の程度 ^{※1}	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟、七北田川等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。

※1 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

※2 「工事による複合的な影響」の予測結果より、隣接する他事業との累積的影響を含む値である。

表 8.4-29 (18) 予測結果 (鳥類：モズ)

項目	予測結果	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は林縁や疎林、農耕地、河畔林、公園等の開けた環境に見られ、昆虫類他小動物を捕食する種である。現地調査では、蒲生干潟、七北田川で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・計画地内は工事による改変を受けるが、餌資源となる昆虫類等が少ないことから、採餌環境としての変化は小さいと考えられる。一方で、餌資源となる小動物等が多く存在し、採餌環境として適する七北田川等は、工事による改変を受けない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、計画地の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB^{※2}、振動レベルは最大で 70dB^{※2}であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は計画地近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 	
動物相及び注目すべき種の消滅の有無や変化の程度 ^{※1}	×	<ul style="list-style-type: none"> ・七北田川等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。

※1 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

※2 「工事による複合的な影響」の予測結果より、隣接する他事業との累積的影響を含む値である。

表 8.4-29 (19) 予測結果 (鳥類:ヒバリ)

項目	予測結果	
<p>予想される生息環境の変化等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は、草地環境を好む種である。現地調査では、計画地内及び周辺、蒲生干潟、七北田川河川敷等で確認されており、計画地内では餌の運搬等繁殖に関わる行動も確認されている。 ・工事中においては、土地改変及び工作物の出現等により、計画地内に存在する草地環境は減少/消失すると考えられる。しかし、蒲生干潟、七北田川含め、類似環境が周辺に広がっていることから、周辺エリアを含めて分析すると採餌環境の変化は小さいと考えられる。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、計画地の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB^{※2}、振動レベルは最大で 70dB^{※2}であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は計画地近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 	
<p>動物相及び注目すべき種の消滅の有無や変化の程度^{※1}</p>	<p>△</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計画地内で生息が確認されており、供用後は、計画地内の利用頻度が減少すると予想される。蒲生干潟や七北田川等、周辺に類似の利用環境が広がっていることから、本種の消滅や著しい減少に至るほどの変化は生じないと考えられる。 ・また、工事中に計画地内に残る草地等が利用される可能性があるが、車両運行時の配慮（注意喚起、低速化等）を行うことで、計画地内におけるロードキル等、影響の低減に努める。 ・以上のことから、利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さいと考えられる。

※1 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

※2 「工事による複合的な影響」の予測結果より、隣接する他事業との累積的影響を含む値である。

表 8.4-29 (20) 予測結果 (鳥類：ツバメ)

項目	予測結果	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は市街地周辺の農耕地や河川敷など開けた環境に生息に見られ、昆虫類等を捕食する種である。現地調査では、計画地及びその周辺、蒲生干潟等で確認されている。 ・計画地内は工事による改変を受けるが、餌資源となる昆虫類等が貧弱であることから、採餌環境としての変化は小さいと考えられる。一方で、餌資源となる小動物等が多く存在し、採餌環境として適する蒲生干潟、七北田川等は、工事による改変を受けない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、計画地の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB^{※2}、振動レベルは最大で 70dB^{※2}であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は計画地近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 	
動物相及び注目すべき種の消滅の有無や変化の程度 ^{※1}	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。

※1 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

※2 「工事による複合的な影響」の予測結果より、隣接する他事業との累積的影響を含む値である。

表 8.4-29 (21) 予測結果 (鳥類：ウグイス)

項目	予測結果	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は樹林環境に生息し、林床にササ類や灌木の多い環境や藪のある緑地等を好む種である。現地調査では、蒲生干潟、七北田川で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、計画地の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB^{※2}、振動レベルは最大で 70dB^{※2}であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は計画地近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 	
動物相及び注目すべき種の消滅の有無や変化の程度 ^{※1}	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟、七北田川等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。

※1 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

※2 「工事による複合的な影響」の予測結果より、隣接する他事業との累積的影響を含む値である。

表 8.4-29 (22) 予測結果 (鳥類：オオヨシキリ)

項目	予測結果	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種はヨシ原に生息する種である。現地調査では、蒲生干潟、七北田川等で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、計画地の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB^{※2}、振動レベルは最大で 70dB^{※2}であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は計画地近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 	
動物相及び注目すべき種の消滅の有無や変化の程度 ^{※1}	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟、七北田川等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。

※1 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

※2 「工事による複合的な影響」の予測結果より、隣接する他事業との累積的影響を含む値である。

表 8.4-29 (23) 予測結果 (鳥類：コヨシキリ)

項目	予測結果	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は草原や湿原などに生息する種である。現地調査では、七北田川で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された七北田川は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、計画地の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB^{※2}、振動レベルは最大で 70dB^{※2}であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は計画地近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 	
動物相及び注目すべき種の消滅の有無や変化の程度 ^{※1}	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟、七北田川等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。

※1 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

※2 「工事による複合的な影響」の予測結果より、隣接する他事業との累積的影響を含む値である。

表 8.4-29 (24) 予測結果 (鳥類:セッカ)

項目	予測結果	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は草原、農耕地、河原に生息する種である。現地調査では、蒲生干潟で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、計画地の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB^{※2}、振動レベルは最大で 70dB^{※2}であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は計画地近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 	
動物相及び注目すべき種の消滅の有無や変化の程度 ^{※1}	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。

※1 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」: 主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」: 利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」: 主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

※2 「工事による複合的な影響」の予測結果より、隣接する他事業との累積的影響を含む値である。

表 8.4-29 (25) 予測結果 (鳥類:セグロセキレイ)

項目	予測結果	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は河川、湖沼、農耕地等に生息する種である。現地調査では、計画地周辺（計画地東側約 100m の貞山堀付近）で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された計画地周辺エリア（貞山堀等）及び本種が好む水辺環境が存在する蒲生干潟は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、計画地の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB^{※2}、振動レベルは最大で 70dB^{※2}であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は計画地近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 	
動物相及び注目すべき種の消滅の有無や変化の程度 ^{※1}	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。

※1 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」: 主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」: 利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」: 主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

※2 「工事による複合的な影響」の予測結果より、隣接する他事業との累積的影響を含む値である。

表 8.4-29 (26) 予測結果 (鳥類：ホオジロ)

項目	予測結果	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は草原、農耕地、疎林、河原等に生息する種である。現地調査では、蒲生干潟、七北田川で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟、七北田川は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、計画地の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB^{※2}、振動レベルは最大で 70dB^{※2}であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は計画地近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 	
動物相及び注目すべき種の消滅の有無や変化の程度 ^{※1}	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。

※1 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

※2 「工事による複合的な影響」の予測結果より、隣接する他事業との累積的影響を含む値である。

表 8.4-29 (27) 予測結果 (鳥類：ホオアカ)

項目	予測結果	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は草原、農耕地、干拓地等の草地環境に生息する種である。現地調査では、蒲生干潟、七北田川等で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟、七北田川は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、計画地の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB^{※2}、振動レベルは最大で 70dB^{※2}であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は計画地近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 	
動物相及び注目すべき種の消滅の有無や変化の程度 ^{※1}	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟、七北田川等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。

※1 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

※2 「工事による複合的な影響」の予測結果より、隣接する他事業との累積的影響を含む値である。

表 8.4-29 (28) 予測結果 (鳥類: アオジ)

項目	予測結果	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は草原、農耕地、疎林、河原等に生息する種である。現地調査では、蒲生干潟、七北田川で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、計画地の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB^{※2}、振動レベルは最大で 70dB^{※2}であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は計画地近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 	
動物相及び注目すべき種の消滅の有無や変化の程度 ^{※1}	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。

※1 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」: 主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」: 利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」: 主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

※2 「工事による複合的な影響」の予測結果より、隣接する他事業との累積的影響を含む値である。

表 8.4-30 予測結果（両生類：ニホンアマガエル）

項目	予測結果	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は水田、池沼、溝等の浅い止水環境で繁殖する種である。現地調査では、計画地周辺の貞山堀付近で成体の鳴き声が確認されている。 ・計画地周辺で繁殖環境となる可能性がある場所として貞山堀の三面張の水路等が存在するが、当該場所は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、計画地の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB^{※2}、振動レベルは最大で 70dB^{※2}であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は計画地近辺に限られる。 	
動物相及び注目すべき種の消滅の有無や変化の程度 ^{※1}	×	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主たる利用・生息環境である貞山堀等は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。

※1 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

※2 「工事による複合的な影響」の予測結果より、隣接する他事業との累積的影響を含む値である。

表 8.4-31 予測結果（昆虫類：アキアカネ）

項目	予測結果	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は挺水植物の繁茂する池沼や水田、溝等で繁殖する種である。現地調査では、計画地及び計画地周辺の貞山堀付近で成虫が確認されている。 ・計画地周辺で繁殖環境となる可能性がある場所として貞山堀の三面張の水路等が存在するが、当該場所は工事により改変されない。なお、計画地内に繁殖環境は存在せず、計画地内での確認は成虫の飛来による機会的利用であると考えられる。 	
動物相及び注目すべき種の消滅の有無や変化の程度 [※]	×	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主たる利用・生息環境である貞山堀等は、工事による直接改変を受けないことから、本種の影響は生じないものと考えられる。

※ 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

(5) 環境の保全及び創造のための措置

環境の保全及び創造のための措置を以下に示す。なお、これらの一部には、事業計画検討の段階における環境への配慮事項であり、予測条件として考慮したものも含まれる。

- ・ 計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械が稼働する時間帯や場所の平準化に努める。また、夜間作業を行わない。
- ・ 鳥類をはじめとする動物の重要な生息地である蒲生干潟への影響を低減するため、資材運搬等の車両の走行経路を蒲生干潟に近接しないよう設定する等の配慮を行う。
- ・ 道路が蒲生干潟等の動物の重要な生息地に近いことから、車両走行時は、道路上を移動する動物の存在に注意し、ロードキル（轢死）を防止するための措置（速度低下等の啓発）をとる。
- ・ 降雨等により計画地内で発生した濁水が、計画地外や動物の重要な生息地である七北田川等に流出しないよう、一時的な貯留等により敷地外への濁水流出を防止する。
- ・ 敷地内では、動物を誘引するようなもの（餌となりうる生ごみ等）を屋外放置しないよう、周知徹底を図る。
- ・ ロードキルが発生した場合は、可能な範囲での位置及び対象動物の報告、行政所管課への通報、事業者内での記録・共有を行う。

(6) 評価

a) 回避・低減に係る評価

(a) 評価方法

予測結果を踏まえ、工事に伴う動物への影響について、工事手法、保全対策等により実行可能な範囲で回避・低減が図られているか否かを判断した。

(b) 評価結果

工事にあたっては、動物の重要な生息地である蒲生干潟への影響低減のため、「(5) 環境の保全及び創造のための措置」(p8.4-67 参照) に示す措置を講じることとしている。

注目すべき種を対象とする予測の結果、計画地内及びその近辺において工事に伴う環境の変化(土地改変、騒音・振動の増加)が生じるものの、計画地周辺に存在する蒲生干潟～七北田川の水辺環境エリアを主たる利用・生息地とする種がほとんどであり、地域の動物相への影響は小さいと予測された。動物1種(タヌキ)、鳥類1種(ヒバリ)については、他の種と比べて計画地内の利用が多い。工事中において計画地内の利用環境(草地)が縮小/消失するが、蒲生干潟や七北田川等に類似環境が多く存在し、これらが代替的に利用されると考えられることから、種としての影響は小さいと予測された。

なお、計画地周辺は未利用地が多く、現時点で想定する将来の環境変化に一定の不確実性があることから、事後調査において予測結果の確認及び必要に応じた対策の検討を行うものとする。

以上のことから、工事中的影響は、実行可能な範囲内で低減が図られているものと評価する。

b) 目標や基準等との整合性に係る評価

(a) 評価方法

予測結果が、表 8.4-32 に示す基準等との整合が図られているかを評価した。

表 8.4-32 整合を図る基準等(動物)

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・環境省レッドリスト 2020・「宮城県の希少な野生動植物-宮城県レッドリスト 2021 年版-」・「令和3年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書 保全上重要な種(哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、魚類、昆虫類)」(令和4年2月、仙台市)・「令和元年度 東北地方太平洋沿岸地域重点地区調査業務調査報告書」(環境省自然環境局生物多様性センター、令和2年3月) |
|--|

(b) 評価結果

注目すべき種に対する予測の結果、全ての種について影響が小さいと予測された。

以上のことから、目標や基準等との整合が図られているものと評価する。

2) 存在・供用による影響（工作物の出現、施設の稼働、資材・製品・人等の運搬・輸送）

(1) 予測内容及び予測手法

予測内容及び予測手法を表 8.4-33 に示す。

表 8.4-33 予測内容及び手法

予測内容	予測方法	予測対象（注目種 ^{※1} ）			
		哺乳類	鳥類	両生類	昆虫類
①動物相及び注目すべき種の消滅の有無や変化の程度	最新の事業計画（計画建築物の規模・外観、事業施設の稼働状況、製品等の運搬等に係る車両等）に基づき、存在・供用時の環境変化を検討した上で、現地調査から得られた確認位置・行動等の情報、生態的特性に関する知見を踏まえ、動物相及び注目すべき種の消滅の有無や変化の程度を予測した。	○	○	○	○
②施設の稼働等に伴う騒音による動物への影響	計画建築物で想定される騒音源の種類や位置等から、計画地周辺への騒音等の本事業に起因する発生可能性を検討し、施設の稼働等による影響を予測した。	○	○	○	○
③太陽光パネルの反射光による鳥類等への影響	計画建築物に設置される太陽光パネルの位置・規模、近隣に太陽光パネルを設置する事業者へのヒアリング結果等から、計画建築物の上空及び周辺の鳥類等の利用状況の変化を予測した。	— ^{※2}	○	— ^{※2}	○

※1 「注目種」は現地調査で確認された注目すべき重要種である。

※2 地上性の哺乳類であるタヌキ、両生類のニホンアマガエルについては、計画建築物屋上に配置される太陽光パネルによる影響が生じないと考えられることから予測の対象外とした。

(2) 予測地域等

動物への影響が想定される計画地、その他周辺約 200m の範囲及び蒲生干潟、七北田川河口周辺を対象とした。

(3) 予測対象時期

予測対象時期は、本事業の工事が完了し、事業施設の操業が定常化し、かつ動物の生息環境が安定した時期とした。

(4) 予測結果

注目すべき重要な種について、哺乳類（1種）の予測結果を表 8.4-34、鳥類（28種）の予測結果を表 8.4-36（1）～（28）、両生類（1種）の予測結果を表 8.4-37、昆虫類（1種）の予測結果を表 8.4-38 に示す。また、鳥類については、予測結果の一覧を 表 8.4-35 に別途示す。

計画地は平坦な造成地で、現況の土地利用は草地・砂礫地となっている。一年生、多年生草本植物からなる植生が存在するが、樹木や水環境等は見られない。また、計画地の東～南側には、鳥類の重要な生息地となっている蒲生干潟や七北田川等、計画地内と類似或いはより質の高い水辺環境が分布し、鳥類をはじめとする動物に利用されている。現地調査では、計画地内において、注目種（タヌキ、ヒバリ等）を含む一部動物による利用が確認されているが、計画地内の動物相は周辺の水辺環境エリアと比べると豊かではない。

周辺の水辺環境エリアは、計画地と約 400m の離隔があること、約 7m^{*} の堤防（防潮堤）が介在することにより、直接改変や間接的影響（大気質、騒音振動等）の影響が及ばないと考えられることから、動物にとっての生息・利用環境は大きく変化しないものと予測される。計画地内は事業に伴い草地環境が縮小/消失する可能性があるものの、地域の動物相への影響は小さいものと考えられる。

計画地内で確認された注目すべき動物種は、哺乳類 1 種（タヌキ）、鳥類 7 種（オオセグロカモメ、ミサゴ、ノスリ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、ヒバリ、ツバメ）、昆虫類 1 種（アキアカネ）であった。これらのうち、タヌキ、ヒバリについては、草地環境を好む生態的特性や現地調査での確認状況から、計画地内の利用環境が失われることによる影響の度合いが、他の注目すべき種と比べて相対的に大きいと考えられるが、周辺の主たる生息環境（蒲生干潟、七北田川等）が存在することから、種としての影響は小さいと予測する。

また、供用時には、計画地内に地上 4 階建（約 30m）の倉庫棟が出現し、屋上に太陽光パネルが設置される。倉庫棟内では著しく大きな騒音・振動源となるような設備設置・作業等は想定しておらず、倉庫棟外部へ動物に影響を及ぼすような騒音・振動が伝わることはないと考えられる。

太陽光パネルによる影響については、近隣に太陽光パネル（約 3,500m²）を設置している事業者へのヒアリング調査結果では、過去 10 年程度で鳥類・昆虫類による利用・衝突等の形跡がなく、本事業においても同様な状況であると類推される。また、計画地周辺に蒲生干潟等の広大な自然水面・水環境が既に分布していることも考慮すると、建物屋上の太陽光パネルへ選択的に誘引される可能性は小さく、影響が生じる可能性は小さいと考えられる。

※ 「二級河川七北田川水系河川整備計画」（平成 30 年 1 月、宮城県）によれば、高潮・津波への対応として必要な高さ T.P.+7.2m で整備されている。

表 8.4-34 予測結果（哺乳類：タヌキ）

項目	内容	
<p>予想される生息環境の変化等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は計画地内、蒲生干潟、七北田川河川敷等で確認されている。 ・蒲生干潟や七北田川と比べて計画地内での痕跡の確認頻度は少なく、巣穴やため糞等、重要な利用地域であることを示唆する情報も確認されていない。利用域の中心は蒲生干潟、七北田川等であり、計画地内の利用頻度は少ないと推測される。 ・事業に伴う計画建築物等の出現、土地改変等により計画地内の利用環境（草地等）は一部消失する。蒲生干潟、七北田川は事業に伴う土地改変等が生じない。 	
<p>①注目すべき種の消滅の有無や変化の程度※1</p>	<p>△</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計画地内の利用環境が縮小するが、本種の主な利用域の中心である蒲生干潟、七北田川は、事業による直接改変や間接影響（騒音等）を受けず、生息環境の大きな減少には至らない。 ・本種は地上を歩行して移動する特性をもち、供用後も計画地内や近隣での一定程度の利用が残る可能性があるため、事車両運行時の配慮（注意喚起、低速化等）を行うことで、計画地内におけるロードキル等、影響の低減に努める。 ・以上のことから、利用環境が一部消失/縮小※2するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さいと考えられる。
<p>②施設の稼働等に伴う騒音による動物への影響※1</p>	<p>×</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の稼働時に、計画建築物内で流通加工作業が行われるが、計画建築物外部へ大きな騒音が伝播することはない。 ・以上より、施設の稼働等に伴う騒音影響は生じないものと考えられる。

※1 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

※2 「第1章 / 1.9 緑化及び景観計画」に基づき計画地周辺に緑地が設けられ、供用後も本種の一定の利用が見られる可能性があるが、その程度を定量的に示すことが難しいため、ここでは仮に利用が見られない場合であっても「種としての影響は小さい」と予測している。

表 8.4-35 予測結果一覧（鳥類）

No.	目名	科名	種名	予測結果の概要		
				①注目すべき種の消滅の有無や変化の程度※1	②施設の稼働等に伴う騒音による動物への影響※2	③太陽光パネルの反射光による鳥類等への影響※2
1	カモ	カモ	コクガン	×	×	×
2	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	×	×	×
3	ペリカン	サギ	チュウサギ	×	×	×
4			コサギ	×	×	×
5			カラシラサギ	×	×	×
6	チドリ	チドリ	イカルチドリ	×	×	×
7			シロチドリ	×	×	×
8		シギ	ツルシギ	×	×	×
9		カモメ	オオセグロカモメ	×	×	×
10			コアジサシ	×	×	×
11		タカ	ミサゴ	ミサゴ	×	×
12	タカ		ハイタカ	×	×	×
13			オオタカ	×	×	×
14			ノスリ	×	×	×
15	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	×	×	×
16	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	×	×	×
17			ハヤブサ	×	×	×
18	スズメ	モズ	モズ	×	×	×
19		ヒバリ	ヒバリ	△	×	×
20		ツバメ	ツバメ	×	×	×
21		ウグイス	ウグイス	×	×	×
22		ヨシキリ	オオヨシキリ	×	×	×
23			コヨシキリ	×	×	×
24		セッカ	セッカ	×	×	×
25		セキレイ	セグロセキレイ	×	×	×
26		ホオジロ	ホオジロ	×	×	×
27			ホオアカ	×	×	×
28			アオジ	×	×	×
	8目	18科	28種			

※1 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

※2 ②及び③は、概念上①に含まれる（騒音や太陽光パネル影響も含めた「消滅の有無や変化の程度」であるため）が、現況と比べた時の大きな環境変化要因であることから、別途項目立てしたものである。①の予測は②③も踏まえたものである。

表 8.4-36 (1) 予測結果 (鳥類: コクガン)

項目	内容	
<p>予想される生息環境の変化等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は越冬時に内湾や海岸、河口、干潟、沿岸部の湖沼等を好む種である。現地調査では、七北田川河口で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された七北田川は事業に伴う土地改変等が生じない。 	
<p>①注目すべき種の消滅の有無や変化の程度^{※1}</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・七北田川等、本種の主たる利用・生息環境は、事業による直接改変を受けず、影響を及ぼしうる環境等の変化もないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。
<p>②施設の稼働等に伴う騒音による動物への影響^{※1}</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の稼働時に、計画建築物内で流通加工作業が行われるが、計画建築物外部へ大きな騒音が伝播することはない。 ・以上より、施設の稼働等に伴う騒音影響は生じないものと考えられる。
<p>③太陽光パネルの反射光による鳥類等への影響^{※1}</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光パネルが出現する計画地付近で本種の飛翔は確認されておらず、供用後も、利用の中心は蒲生干潟～七北田川等にかけてのエリアであると考えられる。蒲生干潟へは沖側から飛来することが知られている^{※2}。 ・事業地近傍の太陽光パネル使用事業者へのヒアリングでは鳥類のパネル衝突等の影響は確認されていない。 ・本種は水面に直接降下する種であるものの、周辺に広大な自然水面が存在する中で、太陽光パネルに選択的に誘引される可能性は小さい。 ・以上より、太陽光パネルの反射光の忌避や水面と誤認識することでの誘引・衝突の可能性は小さく、太陽光パネルに起因する影響が生じる可能性は小さいものと考えられる。

※1 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」: 主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」: 利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」: 主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

※2 「平成 27 年度国指定仙台海浜鳥獣保護区におけるコクガン生息状況調査業務調査報告書」によると「コクガンは早朝に蒲生海岸沖から飛来することが知られている」とある。

表 8.4-36 (2) 予測結果 (鳥類: カイツブリ)

項目	内容	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は河川、湖沼、内湾等の水辺を好む種である。現地調査では、蒲生干潟及び七北田川で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟及び七北田川は事業に伴う土地改変等が生じない。 	
①注目すべき種の消滅の有無や変化の程度※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟、七北田川等、本種の主たる利用・生息環境は、事業による直接改変を受けず、影響を及ぼしうる環境等の変化もないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。
②施設の稼働等に伴う騒音による動物への影響※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の稼働時に、計画建築物内で流通加工作業が行われるが、計画建築物外部へ大きな騒音が伝播することはない。 ・以上より、施設の稼働等に伴う騒音影響は生じないものと考えられる。
③太陽光パネルの反射光による鳥類等への影響※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光パネルが出現する計画地付近で本種の飛翔は確認されていない。供用後も、利用の中心は蒲生干潟～七北田川等にかけてのエリアであると考えられる。 ・事業地近傍の太陽光パネル使用事業者へのヒアリングでは鳥類のパネル衝突等の影響は確認されていない。 ・本種は水面に直接降下する種であるものの、周辺に広大な自然水面が存在する中で、太陽光パネルに選択的に誘引される可能性は小さい。 ・以上より、太陽光パネルの反射光の忌避や水面と誤認識することでの誘引・衝突の可能性は小さく、太陽光パネルに起因する影響が生じる可能性は小さいものと考えられる。

※ 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」: 主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」: 利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」: 主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

表 8.4-36 (3) 予測結果 (鳥類: チュウサギ)

項目	内容	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は河川、水田、湿地、湖沼等の水辺を好む種である。現地調査では、蒲生干潟で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟は事業に伴う土地改変等が生じない。 	
①注目すべき種の消滅の有無や変化の程度※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、事業による直接改変を受けず、影響を及ぼしうる環境等の変化もないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。
②施設の稼働等に伴う騒音による動物への影響※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の稼働時に、計画建築物内で流通加工作業が行われるが、計画建築物外部へ大きな騒音が伝播することはない。 ・以上より、施設の稼働等に伴う騒音影響は生じないものと考えられる。
③太陽光パネルの反射光による鳥類等への影響※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光パネルが出現する計画地付近で本種の飛翔は確認されていない。供用後も、利用の中心は蒲生干潟～七北田川等にかけてのエリアであると考えられる。 ・事業地近傍の太陽光パネル使用事業者へのヒアリングでは鳥類のパネル衝突等の影響は確認されていない。 ・本種は干潟や沼など足のつく水辺を好む種であり、足がつくか判断できない水面に勢いよく降りる可能性は小さいため、衝突や忌避といった事態が生じる可能性は小さい。 ・以上より、太陽光パネルの反射光の忌避や水面と誤認識することでの誘引・衝突の可能性は小さく、太陽光パネルに起因する影響が生じる可能性は小さいものと考えられる。

※ 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」: 主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」: 利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」: 主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

表 8.4-36 (4) 予測結果 (鳥類: コサギ)

項目	内容	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は河川、水田、湿地、湖沼等の水辺を好む種である。現地調査では、蒲生干潟及び七北田川で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟は事業に伴う土地改変等が生じない。 	
①注目すべき種の消滅の有無や変化の程度※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟、七北田川等、本種の主たる利用・生息環境は、事業による直接改変を受けず、影響を及ぼしうる環境等の変化もないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。
②施設の稼働等に伴う騒音による動物への影響※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の稼働時に、計画建築物内で流通加工作業が行われるが、計画建築物外部へ大きな騒音が伝播することはない。 ・以上より、施設の稼働等に伴う騒音影響は生じないものと考えられる。
③太陽光パネルの反射光による鳥類等への影響※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光パネルが出現する計画地付近で本種の飛翔は確認されていない。供用後も、利用の中心は蒲生干潟～七北田川等にかけてのエリアであると考えられる。 ・事業地近傍の太陽光パネル使用事業者へのヒアリングでは鳥類のパネル衝突等の影響は確認されていない。 ・本種は干潟や沼など足のつく水辺を好む種であり、足がつくか判断できない水面に勢いよく降りる可能性は小さいため、衝突や忌避といった事態が生じる可能性は小さい。 ・以上より、太陽光パネルの反射光の忌避や水面と誤認識することでの誘引・衝突の可能性は小さく、太陽光パネルに起因する影響が生じる可能性は小さいものと考えられる。

※ 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

表 8.4-36 (5) 予測結果 (鳥類:カラシラサギ)

項目	内容	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は海岸、河口、干潟、河川、水田、湿地等の水辺を好む種である。現地調査では、蒲生干潟で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟は事業に伴う土地改変等が生じない。 	
①注目すべき種の消滅の有無や変化の程度※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、事業による直接改変を受けず、影響を及ぼしうる環境等の変化もないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。
②施設の稼働等に伴う騒音による動物への影響※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の稼働時に、計画建築物内で流通加工作業が行われるが、計画建築物外部へ大きな騒音が伝播することはない。 ・以上より、施設の稼働等に伴う騒音影響は生じないものと考えられる。
③太陽光パネルの反射光による鳥類等への影響※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光パネルが出現する計画地付近で本種の飛翔は確認されていない。供用後も、利用の中心は蒲生干潟～七北田川等にかけてのエリアであると考えられる。 ・事業地近傍の太陽光パネル使用事業者へのヒアリングでは鳥類のパネル衝突等の影響は確認されていない。 ・本種は干潟や沼など足がつく水辺を好む種であり、足がつくか判断できない水面に勢いよく降りる可能性は小さいため、衝突や忌避といった事態が生じる可能性は小さい。 ・以上より、太陽光パネルの反射光の忌避や水面と誤認識することでの誘引・衝突の可能性は小さく、太陽光パネルに起因する影響が生じる可能性は小さいものと考えられる。

※ 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」: 主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」: 利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」: 主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

表 8.4-36 (6) 予測結果 (鳥類: イカルチドリ)

項目	内容	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は水田、湿地、河口、干潟、河川等の水辺を好む種である。現地調査では、蒲生干潟で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟は事業に伴う土地改変等が生じない。 	
①注目すべき種の消滅の有無や変化の程度※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、事業による直接改変を受けず、影響を及ぼしうる環境等の変化もないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。
②施設の稼働等に伴う騒音による動物への影響※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の稼働時に、計画建築物内で流通加工作業が行われるが、計画建築物外部へ大きな騒音が伝播することはない。 ・以上より、施設の稼働等に伴う騒音影響は生じないものと考えられる。
③太陽光パネルの反射光による鳥類等への影響※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光パネルが出現する計画地付近で本種の飛翔は確認されていない。供用後も、利用の中心は蒲生干潟～七北田川等にかけてのエリアであると考えられる。 ・事業地近傍の太陽光パネル使用事業者へのヒアリングでは鳥類のパネル衝突等の影響は確認されていない。 ・本種は干潟や沼など足のつく水辺を好む種であり、足がつくか判断できない水面に勢いよく降りる可能性は小さいため、衝突や忌避といった事態が生じる可能性は小さい。 ・以上より、太陽光パネルの反射光の忌避や水面と誤認識することでの誘引・衝突の可能性は小さく、太陽光パネルに起因する影響が生じる可能性は小さいものと考えられる。

※ 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」: 主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」: 利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」: 主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

表 8.4-36 (7) 予測結果 (鳥類: シロチドリ)

項目	内容	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は水田、湿地、河口、干潟、河川等の水辺を好む種である。現地調査では、蒲生干潟で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟は事業に伴う土地改変等が生じない。 	
①注目すべき種の消滅の有無や変化の程度※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、事業による直接改変を受けず、影響を及ぼしうる環境等の変化もないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。
②施設の稼働等に伴う騒音による動物への影響※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の稼働時に、計画建築物内で流通加工作業が行われるが、計画建築物外部へ大きな騒音が伝播することはない。 ・以上より、施設の稼働等に伴う騒音影響は生じないものと考えられる。
③太陽光パネルの反射光による鳥類等への影響※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光パネルが出現する計画地付近で本種の飛翔は確認されていない。供用後も、利用の中心は蒲生干潟～七北田川等にかけてのエリアであると考えられる。 ・事業地近傍の太陽光パネル使用事業者へのヒアリングでは鳥類のパネル衝突等の影響は確認されていない。 ・本種は干潟や沼など足がつく水辺を好む種であり、足がつくか判断できない水面に勢いよく降りる可能性は小さいため、衝突や忌避といった事態が生じる可能性は小さい。 ・以上より、太陽光パネルの反射光の忌避や水面と誤認識することでの誘引・衝突の可能性は小さく、太陽光パネルに起因する影響が生じる可能性は小さいものと考えられる。

※ 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」: 主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」: 利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」: 主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

表 8.4-36 (8) 予測結果 (鳥類: ツルシギ)

項目	内容	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は水田、湿地、河口、干潟、河川等の水辺を好む種である。現地調査では、蒲生干潟で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟は事業に伴う土地改変等が生じない。 	
①注目すべき種の消滅の有無や変化の程度※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、事業による直接改変を受けず、影響を及ぼしうる環境等の変化もないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。
②施設の稼働等に伴う騒音による動物への影響※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の稼働時に、計画建築物内で流通加工作業が行われるが、計画建築物外部へ大きな騒音が伝播することはない。 ・以上より、施設の稼働等に伴う騒音影響は生じないものと考えられる。
③太陽光パネルの反射光による鳥類等への影響※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光パネルが出現する計画地付近で本種の飛翔は確認されていない。供用後も、利用の中心は蒲生干潟～七北田川等にかけてのエリアであると考えられる。 ・事業地近傍の太陽光パネル使用事業者へのヒアリングでは鳥類のパネル衝突等の影響は確認されていない。 ・本種は干潟や沼など足のつく水辺を好む種であり、足がつくか判断できない水面に勢いよく降りる可能性は小さいため、衝突や忌避といった事態が生じる可能性は小さい。 ・以上より、太陽光パネルの反射光の忌避や水面と誤認識することでの誘引・衝突の可能性は小さく、太陽光パネルに起因する影響が生じる可能性は小さいものと考えられる。

※ 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」: 主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」: 利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」: 主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

表 8.4-36 (9) 予測結果 (鳥類: オオセグロカモメ)

項目	内容	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は沖合、沿岸、内湾、河口等の水辺を好む種である。現地調査では、蒲生干潟や七北田川で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟は事業に伴う土地改変等が生じない。 	
①注目すべき種の消滅の有無や変化の程度※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、事業による直接改変を受けず、影響を及ぼしうる環境等の変化もないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。
②施設の稼働等に伴う騒音による動物への影響※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の稼働時に、計画建築物内で流通加工作業が行われるが、計画建築物外部へ大きな騒音が伝播することはない。 ・以上より、施設の稼働等に伴う騒音影響は生じないものと考えられる。
③太陽光パネルの反射光による鳥類等への影響※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光パネルが出現する計画地付近で本種の飛翔は確認されていない。供用後も、利用の中心は蒲生干潟～七北田川等にかけてのエリアであると考えられる。 ・事業地近傍の太陽光パネル使用事業者へのヒアリングでは鳥類のパネル衝突等の影響は確認されていない。 ・本種は水面に直接降下する種であるものの、周辺に広大な自然水面が存在する中で、太陽光パネルに選択的に誘引される可能性は小さい。 ・以上より、太陽光パネルの反射光の忌避や水面と誤認識することでの誘引・衝突の可能性は小さく、太陽光パネルに起因する影響が生じる可能性は小さいものと考えられる。

※ 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」: 主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」: 利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」: 主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

表 8.4-36 (10) 予測結果 (鳥類: コアジサシ)

項目	内容	
<p>予想される生息環境の変化等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は沖合、沿岸、内湾、河口等の水辺を好む種である。現地調査では、蒲生干潟や七北田川で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟は事業に伴う土地改変等が生じない。 	
<p>①注目すべき種の消滅の有無や変化の程度※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、事業による直接改変を受けず、影響を及ぼしうる環境等の変化もないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。
<p>②施設の稼働等に伴う騒音による動物への影響※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の稼働時に、計画建築物内で流通加工作業が行われるが、計画建築物外部へ大きな騒音が伝播することはない。 ・以上より、施設の稼働等に伴う騒音影響は生じないものと考えられる。
<p>③太陽光パネルの反射光による鳥類等への影響※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光パネルが出現する計画地付近で本種の飛翔は確認されていない。供用後も、利用の中心は蒲生干潟～七北田川等にかけてのエリアであると考えられる。 ・本種は水面に直接降下する種であるものの、餌となる魚影が視認できない太陽光パネルに急降下する可能性は小さい。 ・事業地近傍の太陽光パネル使用事業者へのヒアリングでは鳥類のパネル衝突等の影響は確認されていない。 ・以上より、太陽光パネルの反射光の忌避や水面と誤認識することでの誘引・衝突の可能性は小さく、太陽光パネルに起因する影響が生じる可能性は小さいものと考えられる。

※ 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」: 主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」: 利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」: 主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

表 8.4-36 (11) 予測結果 (鳥類：ミサゴ)

項目	内容	
<p>予想される生息環境の変化等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は海岸、河口、河川、湖沼等の水辺を好む種である。現地調査では、蒲生干潟、七北田川、計画地及びその周辺で確認されている。 ・計画地内は魚類を餌資源とする本種にとって採餌場ではなく、蒲生干潟や七北田川河口と他の水域への移動途中の上空通過が主である。計画地には約 30m の計画建築物等が出現するが、上空及び周辺通過することで通過利用に支障は生じないと考えられる。 ・本種の餌場となり得る蒲生干潟、七北田川は事業に伴う土地改変等が生じない。 	
<p>①注目すべき種の消滅の有無や変化の程度※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、事業による直接改変を受けず、計画建築物の出現についても上空の通過利用に支障が生じるほどの変化ではないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。
<p>②施設の稼働等に伴う騒音による動物への影響※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の稼働時に、計画建築物内で流通加工作業が行われるが、計画建築物外部へ大きな騒音が伝播することはない。 ・以上より、施設の稼働等に伴う騒音影響は生じないものと考えられる。
<p>③太陽光パネルの反射光による鳥類等への影響※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・計画地～七北田川～蒲生干潟上空を含むエリアを飛翔しているが、事業地近傍に存在する太陽光パネルへの誘引や回避の形跡はみられない。 ・本種は水面に直接降下する種であるものの、餌となる魚影が視認できない太陽光パネルに急降下する可能性は小さい。 ・事業地近傍の太陽光パネル使用事業者へのヒアリングでは鳥類のパネル衝突等の影響は確認されていない。 ・以上より、太陽光パネルの反射光の忌避や水面と誤認識することでの誘引・衝突の可能性は小さく、太陽光パネルに起因する影響が生じる可能性は小さいものと考えられる。

※ 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

表 8.4-36 (12) 予測結果 (鳥類:ハイタカ)

項目	内容	
<p>予想される生息環境の変化等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は樹林環境を好み、それらの周辺で鳥類を捕食する種である。現地調査では、蒲生干潟付近、七北田川で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・計画地内の土地利用が変化するが、計画地は蒲生干潟等と比べて本種の餌資源となる鳥類の滞留が相対的に少ないエリアであることから、採餌環境としての変化は小さいと考えられる。また、計画地には約30mの計画建築物等が出現するが、上空通過或いは迂回することで通過利用に支障は生じないと考えられる。 ・本種の餌場となり得る蒲生干潟、七北田川は事業に伴う土地改変等が生じない。 	
<p>①注目すべき種の消滅の有無や変化の程度*</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、事業による直接改変を受けず、計画建築物の出現についても上空の通過利用に支障が生じるほどの変化ではないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。
<p>②施設の稼働等に伴う騒音による動物への影響*</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の稼働時に、計画建築物内で流通加工作業が行われるが、計画建築物外部へ大きな騒音が伝播することはない。 ・以上より、施設の稼働等に伴う騒音影響は生じないものと考えられる。
<p>③太陽光パネルの反射光による鳥類等への影響*</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・七北田川～蒲生干潟上空を含むエリアを飛翔しているが、事業地近傍に存在する太陽光パネルへの誘引や回避の形跡はみられない。 ・事業地近傍の太陽光パネル使用事業者へのヒアリングでは鳥類のパネル衝突等の影響は確認されていない。 ・以上より、太陽光パネルの反射光の忌避や水面と誤認識することでの誘引・衝突の可能性は小さく、太陽光パネルに起因する影響が生じる可能性は小さいものと考えられる。

※ 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」: 主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」: 利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」: 主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

表 8.4-36 (13) 予測結果 (鳥類: オオタカ)

項目	内容	
<p>予想される生息環境の変化等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は樹林環境を好み、それらの周辺で鳥類を捕食する種である。現地調査では、蒲生干潟で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・計画地内の土地利用が変化するが、計画地は蒲生干潟等と比べて本種の餌資源となる鳥類の滞留が相対的に少ないエリアであることから、採餌環境としての変化は小さいと考えられる。また、計画地には約30mの計画建築物等が出現するが、上空通過或いは迂回することで通過利用に支障は生じないと考えられる。 ・本種の餌場となり得る蒲生干潟、七北田川は事業に伴う土地改変等が生じない。 	
<p>①注目すべき種の消滅の有無や変化の程度※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、事業による直接改変を受けず、計画建築物の出現についても上空の通過利用に支障が生じるほどの変化ではないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。
<p>②施設の稼働等に伴う騒音による動物への影響※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の稼働時に、計画建築物内で流通加工作業が行われるが、計画建築物外部へ大きな騒音が伝播することはない。 ・以上より、施設の稼働等に伴う騒音影響は生じないものと考えられる。
<p>③太陽光パネルの反射光による鳥類等への影響※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・七北田川～蒲生干潟上空を含むエリアを飛翔しているが、事業地近傍に存在する太陽光パネルへの誘引や回避の形跡はみられない。 ・事業地近傍の太陽光パネル使用事業者へのヒアリングでは鳥類のパネル衝突等の影響は確認されていない。 ・以上より、太陽光パネルの反射光の忌避や水面と誤認識することでの誘引・衝突の可能性は小さく、太陽光パネルに起因する影響が生じる可能性は小さいものと考えられる。

※ 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」: 主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」: 利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」: 主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

表 8.4-36 (14) 予測結果 (鳥類：ノスリ)

項目	内容	
<p>予想される生息環境の変化等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は樹林環境を好み、それらに近い草地や耕作地等で小動物（小型哺乳類・鳥類、昆虫類）を捕食する種である。現地調査では、蒲生干潟、七北田川等で確認されており、計画地内でも確認されている。 ・計画地内の土地利用が変化するが、計画地は蒲生干潟等と比べて本種の餌資源となる小動物の滞留が相対的に少ないエリアであることから、採餌環境としての変化は小さいと考えられる。また、計画地には約 30m の計画建築物等が出現するが、上空通過或いは迂回することで通過利用に支障は生じないと考えられる。 ・本種の餌場となり得る蒲生干潟、七北田川は事業に伴う土地改変等が生じない。 	
<p>①注目すべき種の消滅の有無や変化の程度※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、事業による直接改変を受けず、計画建築物の出現についても上空の通過利用に支障が生じるほどの変化ではないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。
<p>②施設の稼働等に伴う騒音による動物への影響※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の稼働時に、計画建築物内で流通加工作業が行われるが、計画建築物外部へ大きな騒音が伝播することはない。 ・以上より、施設の稼働等に伴う騒音影響は生じないものと考えられる。
<p>③太陽光パネルの反射光による鳥類等への影響※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・七北田川～蒲生干潟上空を含むエリアを飛翔しているが、事業地近傍に存在する太陽光パネルへの誘引や回避の形跡はみられない。 ・事業地近傍の太陽光パネル使用事業者へのヒアリングでは鳥類のパネル衝突等の影響は確認されていない。 ・以上より、太陽光パネルの反射光の忌避や水面と誤認識することでの誘引・衝突の可能性は小さく、太陽光パネルに起因する影響が生じる可能性は小さいものと考えられる。

※ 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

表 8.4-36 (15) 予測結果 (鳥類: カワセミ)

項目	内容	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は河川、湖沼、池等水辺を好む種である。現地調査では、七北田川で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された七北田川は事業に伴う土地改変等が生じない。 	
①注目すべき種の消滅の有無や変化の程度※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・七北田川等、本種の主たる利用・生息環境は、事業による直接改変を受けず、影響を及ぼしうる環境等の変化もないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。
②施設の稼働等に伴う騒音による動物への影響※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の稼働時に、計画建築物内で流通加工作業が行われるが、計画建築物外部へ大きな騒音が伝播することはない。 ・以上より、施設の稼働等に伴う騒音影響は生じないものと考えられる。
③太陽光パネルの反射光による鳥類等への影響※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光パネルが出現する計画地付近で本種の飛翔は確認されていない。供用後も、利用の中心は蒲生干潟～七北田川等にかけてのエリアであると考えられる。 ・事業地近傍の太陽光パネル使用事業者へのヒアリングでは鳥類のパネル衝突等の影響は確認されていない。 ・本種は水面に直接降下する種であるものの、餌となる魚影が視認できない太陽光パネルに急降下する可能性は小さい。 ・以上より、太陽光パネルの反射光の忌避や水面と誤認識することでの誘引・衝突の可能性は小さく、太陽光パネルに起因する影響が生じる可能性は小さいものと考えられる。

※ 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」: 主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」: 利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」: 主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

表 8.4-36 (16) 予測結果 (鳥類: チョウゲンボウ)

項目	内容	
<p>予想される生息環境の変化等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は農耕地、河川敷、草地、埋立地等で見られ、小動物（小型の哺乳類、鳥類、昆虫類）を捕食する種である。現地調査では、蒲生干潟、七北田川等で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・計画地内の土地利用が変化するが、計画地は蒲生干潟等と比べて本種の餌資源となる小動物の滞留が相対的に少ないエリアであることから、採餌環境としての変化は小さいと考えられる。また、計画地には約 30m の計画建築物等が出現するが、上空通過或いは迂回することで通過利用に支障は生じないと考えられる。 ・本種の餌場となり得る蒲生干潟、七北田川は事業に伴う土地改変等が生じない。 	
<p>①注目すべき種の消滅の有無や変化の程度※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、事業による直接改変を受けず、計画建築物の出現についても上空の通過利用に支障が生じるほどの変化ではないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。
<p>②施設の稼働等に伴う騒音による動物への影響※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の稼働時に、計画建築物内で流通加工作業が行われるが、計画建築物外部へ大きな騒音が伝播することはない。 ・以上より、施設の稼働等に伴う騒音影響は生じないものと考えられる。
<p>③太陽光パネルの反射光による鳥類等への影響※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・七北田川～蒲生干潟上空を含むエリアを飛翔しているが、事業地近傍に存在する太陽光パネルへの誘引や回避の形跡はみられない。 ・事業地近傍の太陽光パネル使用事業者へのヒアリングでは鳥類のパネル衝突等の影響は確認されていない。 ・以上より、太陽光パネルの反射光の忌避や水面と誤認識することでの誘引・衝突の可能性は小さく、太陽光パネルに起因する影響が生じる可能性は小さいものと考えられる。

※ 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

表 8.4-36 (17) 予測結果 (鳥類：ハヤブサ)

項目	内容	
<p>予想される生息環境の変化等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は海岸、河口、河川、湖沼等の水辺や農耕地等で見られ、鳥類を捕食する種である。現地調査では、蒲生干潟、七北田川、計画地及びその周辺で確認されている。 ・計画地内の土地利用が変化するが、計画地は蒲生干潟等と比べて本種の餌資源となる鳥類の滞留が相対的に少ないエリアであることから、採餌環境としての変化は小さいと考えられる。また、計画地には約30mの計画建築物等が出現するが、上空通過或いは迂回することで通過利用に支障は生じないと考えられる。 ・本種の餌場となり得る蒲生干潟、七北田川は事業に伴う土地改変等が生じない。 	
<p>①注目すべき種の消滅の有無や変化の程度※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、事業による直接改変を受けず、計画建築物の出現についても上空の通過利用に支障が生じるほどの変化ではないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。
<p>②施設の稼働等に伴う騒音による動物への影響※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の稼働時に、計画建築物内で流通加工作業が行われるが、計画建築物外部へ大きな騒音が伝播することはない。 ・以上より、施設の稼働等に伴う騒音影響は生じないものと考えられる。
<p>③太陽光パネルの反射光による鳥類等への影響※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・七北田川～蒲生干潟～計画地周辺上空を含むエリアを飛翔しているが、事業地近傍に存在する太陽光パネルへの誘引や回避の形跡はみられない。 ・事業地近傍の太陽光パネル使用事業者へのヒアリングでは鳥類のパネル衝突等の影響は確認されていない。 ・以上より、太陽光パネルの反射光の忌避や水面と誤認識することでの誘引・衝突の可能性は小さく、太陽光パネルに起因する影響が生じる可能性は小さいものと考えられる。

※ 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

表 8.4-36 (18) 予測結果 (鳥類:モズ)

項目	内容	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は林縁や疎林、農耕地、河畔林、公園等の開けた環境に見られ、小動物（昆虫類他）を捕食する種である。現地調査では、七北田川、蒲生干潟で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された七北田川は事業に伴う土地改変等が生じない。 	
①注目すべき種の消滅の有無や変化の程度※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・七北田川、蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、事業による直接改変を受けず、計画建築物の出現についても上空の通過利用に支障が生じるほどの変化ではないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。
②施設の稼働等に伴う騒音による動物への影響※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の稼働時に、計画建築物内で流通加工作業が行われるが、計画建築物外部へ大きな騒音が伝播することはない。 ・以上より、施設の稼働等に伴う騒音影響は生じないものと考えられる。
③太陽光パネルの反射光による鳥類等への影響※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光パネルが出現する計画地付近で本種の飛翔は確認されていない。供用後も、利用の中心は蒲生干潟～七北田川等にかけてのエリアであると考えられる。 ・事業地近傍の太陽光パネル使用事業者へのヒアリングでは鳥類のパネル衝突等の影響は確認されていない。 ・以上より、太陽光パネルの反射光の忌避や水面と誤認識することでの誘引・衝突の可能性は小さく、太陽光パネルに起因する影響が生じる可能性は小さいものと考えられる。

※ 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

表 8.4-36 (19) 予測結果 (鳥類:ヒバリ)

項目	内容	
<p>予想される生息環境の変化等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は、草地環境を好む種である。現地調査では、計画地内及び周辺、蒲生干潟、七北田川河川敷等で確認されており、計画地内では餌の運搬等繁殖に関わる行動も確認されている。 ・供用時には、土地改変及び工作物の出現等により、計画地内に存在する草地環境は減少/消失すると考えられる。しかし、蒲生干潟、七北田川含め、類似環境が周辺に広がっていることから、周辺エリアを含めて分析すると採餌環境の変化は小さいと考えられる。 	
<p>①注目すべき種の消滅の有無や変化の程度※1</p>	△	<ul style="list-style-type: none"> ・計画地内で生息が確認されており、供用後は、計画地内の利用頻度が減少すると予想される。蒲生干潟や七北田川等、周辺に類似の利用環境が広がっていることから、本種の消滅や著しい減少に至るほどの変化は生じないと考えられる。 ・また、緑化した緑地帯等で一定の利用が残る可能性があるが、車両運行時の配慮（注意喚起、低速化等）を行うことで、計画地内におけるロードキル等、影響の低減に努める。 ・以上のことから、利用環境が一部消失/縮小※2するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さいと考えられる。
<p>②施設の稼働等に伴う騒音による動物への影響※1</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の稼働時に、計画建築物内で流通加工作業が行われるが、計画建築物外部へ大きな騒音が伝播することはない。 ・以上より、施設の稼働等に伴う騒音影響は生じないものと考えられる。
<p>③太陽光パネルの反射光による鳥類等への影響※1</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・七北田川～蒲生干潟～計画地周辺上空を含むエリアを飛翔しているが、事業地近傍に存在する太陽光パネルへの誘引や回避の形跡はみられない。なお、本種は水鳥ではなく、水面に勢いよく降下する可能性は小さい。 ・事業地近傍の太陽光パネル使用事業者へのヒアリングでは鳥類のパネル衝突等の影響は確認されていない。 ・以上より、太陽光パネルの反射光の忌避や水面と誤認識することでの誘引・衝突の可能性は小さく、太陽光パネルに起因する影響が生じる可能性は小さいものと考えられる。

※1 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

※2 「第1章 / 1.9 緑化及び景観計画」に基づき計画地周辺に緑地が設けられ、供用後も本種の一定の利用が見られる可能性があるが、その程度を定量的に示すことが難しいため、ここでは仮に利用が見られない場合であっても「種としての影響は小さい」と予測している。

表 8.4-36 (20) 予測結果 (鳥類：ツバメ)

項目	内容	
<p>予想される生息環境の変化等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は市街地周辺の農耕地や河川敷など開けた環境に生息に見られ、昆虫類等を捕食する種である。現地調査では、蒲生干潟、計画地及びその周辺で確認されている。 ・計画地内の土地利用が変化するが、計画地は蒲生干潟等と比べて本種の餌資源となる昆虫類が相対的に少ないエリアであることから、採餌環境としての変化は小さいと考えられる。また、計画地には約 30m の計画建築物等が出現するが、上空通過或いは迂回することで通過利用に支障は生じないと考えられる。 ・本種の餌資源である昆虫類が多く分布すると考えられる蒲生干潟、七北田川は事業に伴う土地改変等が生じない。 	
<p>①注目すべき種の消滅の有無や変化の程度※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、事業による直接改変を受けず、計画建築物の出現についても上空の通過利用に支障が生じるほどの変化ではないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。
<p>②施設の稼働等に伴う騒音による動物への影響※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の稼働時に、計画建築物内で流通加工作業が行われるが、計画建築物外部へ大きな騒音が伝播することはない。 ・以上より、施設の稼働等に伴う騒音影響は生じないものと考えられる。
<p>③太陽光パネルの反射光による鳥類等への影響※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・七北田川～蒲生干潟～計画地周辺上空を含むエリアを飛翔しているが、事業地近傍に存在する太陽光パネルへの誘引や回避の形跡はみられない。 ・事業地近傍の太陽光パネル使用事業者へのヒアリングでは鳥類のパネル衝突等の影響は確認されていない。 ・以上より、太陽光パネルの反射光の忌避や水面と誤認識することでの誘引・衝突の可能性は小さく、太陽光パネルに起因する影響が生じる可能性は小さいものと考えられる。

※ 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

表 8.4-36 (21) 予測結果 (鳥類:ウグイス)

項目	内容	
<p>予想される生息環境の変化等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は林に生息し、林床にササ類や灌木の多い環境や藪のある緑地等を好む種である。現地調査では、蒲生干潟、七北田川で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟、七北田川は事業に伴う土地改変等が生じない。 	
<p>①注目すべき種の消滅の有無や変化の程度※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟、七北田川等、本種の主たる利用・生息環境は、事業による直接改変を受けず、影響を及ぼしうる環境等の変化もないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。
<p>②施設の稼働等に伴う騒音による動物への影響※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の稼働時に、計画建築物内で流通加工作業が行われるが、計画建築物外部へ大きな騒音が伝播することはない。 ・以上より、施設の稼働等に伴う騒音影響は生じないものと考えられる。
<p>③太陽光パネルの反射光による鳥類等への影響※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光パネルが出現する計画地付近で本種の飛翔は確認されていない。供用後も、利用の中心は蒲生干潟～七北田川等にかけてのエリアであると考えられる。なお、本種は水鳥ではなく、水面に勢いよく降下する可能性は小さい。 ・事業地近傍の太陽光パネル使用事業者へのヒアリングでは鳥類のパネル衝突等の影響は確認されていない。 ・以上より、太陽光パネルの反射光の忌避や水面と誤認識することでの誘引・衝突の可能性は小さく、太陽光パネルに起因する影響が生じる可能性は小さいものと考えられる。

※ 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

表 8.4-36 (22) 予測結果 (鳥類: オオヨシキリ)

項目	内容	
<p>予想される生息環境の変化等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本種はヨシ原に生息する種である。現地調査では、蒲生干潟、七北田川、貞山運河で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟、七北田川等は事業に伴う土地改変等が生じない。 	
<p>①注目すべき種の消滅の有無や変化の程度※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟、七北田川等、本種の主たる利用・生息環境は、事業による直接改変を受けず、影響を及ぼしうる環境等の変化もないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。
<p>②施設の稼働等に伴う騒音による動物への影響※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の稼働時に、計画建築物内で流通加工作業が行われるが、計画建築物外部へ大きな騒音が伝播することはない。 ・以上より、施設の稼働等に伴う騒音影響は生じないものと考えられる。
<p>③太陽光パネルの反射光による鳥類等への影響※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光パネルが出現する計画地付近で本種の飛翔は確認されていない。供用後も、利用の中心は蒲生干潟～七北田川等にかけてのエリアであると考えられる。なお、本種は水鳥ではなく、水面に勢いよく降下する可能性は小さい。 ・事業地近傍の太陽光パネル使用事業者へのヒアリングでは鳥類のパネル衝突等の影響は確認されていない。 ・以上より、太陽光パネルの反射光の忌避や水面と誤認識することでの誘引・衝突の可能性は小さく、太陽光パネルに起因する影響が生じる可能性は小さいものと考えられる。

※ 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」: 主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」: 利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」: 主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

表 8.4-36 (23) 予測結果 (鳥類: コヨシキリ)

項目	内容	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は草原や湿原などに生息する種である。現地調査では、蒲生干潟、七北田川で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟、七北田川は事業に伴う土地改変等が生じない。 	
①注目すべき種の消滅の有無や変化の程度※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟、七北田川等、本種の主たる利用・生息環境は、事業による直接改変を受けず、影響を及ぼしうる環境等の変化もないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。
②施設の稼働等に伴う騒音による動物への影響※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の稼働時に、計画建築物内で流通加工作業が行われるが、計画建築物外部へ大きな騒音が伝播することはない。 ・以上より、施設の稼働等に伴う騒音影響は生じないものと考えられる。
③太陽光パネルの反射光による鳥類等への影響※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光パネルが出現する計画地付近で本種の飛翔は確認されていない。供用後も、利用の中心は蒲生干潟～七北田川等にかけてのエリアであると考えられる。なお、本種は水鳥ではなく、水面に勢いよく降下する可能性は小さい。 ・事業地近傍の太陽光パネル使用事業者へのヒアリングでは鳥類のパネル衝突等の影響は確認されていない。 ・以上より、太陽光パネルの反射光の忌避や水面と誤認識することでの誘引・衝突の可能性は小さく、太陽光パネルに起因する影響が生じる可能性は小さいものと考えられる。

※ 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」: 主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」: 利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」: 主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

表 8.4-36 (24) 予測結果 (鳥類:セッカ)

項目	内容	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は草原、農耕地、河原に生息する種である。現地調査では、蒲生干潟で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟は事業に伴う土地改変等が生じない。 	
①注目すべき種の消滅の有無や変化の程度※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、事業による直接改変を受けず、影響を及ぼしうる環境等の変化もないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。
②施設の稼働等に伴う騒音による動物への影響※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の稼働時に、計画建築物内で流通加工作業が行われるが、計画建築物外部へ大きな騒音が伝播することはない。 ・以上より、施設の稼働等に伴う騒音影響は生じないものと考えられる。
③太陽光パネルの反射光による鳥類等への影響※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光パネルが出現する計画地付近で本種の飛翔は確認されていない。供用後も、利用の中心は蒲生干潟～七北田川等にかけてのエリアであると考えられる。なお、本種は水鳥ではなく、水面に勢いよく降下する可能性は小さい。 ・事業地近傍の太陽光パネル使用事業者へのヒアリングでは鳥類のパネル衝突等の影響は確認されていない。 ・以上より、太陽光パネルの反射光の忌避や水面と誤認識することでの誘引・衝突の可能性は小さく、太陽光パネルに起因する影響が生じる可能性は小さいものと考えられる。

※ 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

表 8.4-36 (25) 予測結果 (鳥類:セグロセキレイ)

項目	内容	
<p>予想される生息環境の変化等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は河川、湖沼、農耕地などに生息する種である。現地調査では、計画地周辺(計画地東側約100m)で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された計画地周辺エリア及び本種が好む水辺環境が存在する蒲生干潟等は、事業に伴う土地改変等が生じない。 	
<p>①注目すべき種の消滅の有無や変化の程度※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、事業による直接改変を受けず、影響を及ぼしうる環境等の変化もないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。
<p>②施設の稼働等に伴う騒音による動物への影響※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の稼働時に、計画建築物内で流通加工作業が行われるが、計画建築物外部へ大きな騒音が伝播することはない。 ・以上より、施設の稼働等に伴う騒音影響は生じないものと考えられる。
<p>③太陽光パネルの反射光による鳥類等への影響※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光パネルが出現する計画地付近で本種の飛翔は確認されていない。供用後も、利用の中心は蒲生干潟～七北田川等にかけてのエリアであると考えられる。なお、本種は水鳥ではなく、水面に勢いよく降下する可能性は小さい。 ・事業地近傍の太陽光パネル使用事業者へのヒアリングでは鳥類のパネル衝突等の影響は確認されていない。 ・以上より、太陽光パネルの反射光の忌避や水面と誤認識することでの誘引・衝突の可能性は小さく、太陽光パネルに起因する影響が生じる可能性は小さいものと考えられる。

※ 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」: 主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」: 利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」: 主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

表 8.4-36 (26) 予測結果 (鳥類: ホオジロ)

項目	内容	
<p>予想される生息環境の変化等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は草原、農耕地、疎林、河原等に生息する種である。現地調査では、蒲生干潟、七北田川で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟、七北田川は事業に伴う土地改変等が生じない。 	
<p>①注目すべき種の消滅の有無や変化の程度※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、事業による直接改変を受けず、影響を及ぼしうる環境等の変化もないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。
<p>②施設の稼働等に伴う騒音による動物への影響※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の稼働時に、計画建築物内で流通加工作業が行われるが、計画建築物外部へ大きな騒音が伝播することはない。 ・以上より、施設の稼働等に伴う騒音影響は生じないものと考えられる。
<p>③太陽光パネルの反射光による鳥類等への影響※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光パネルが出現する計画地付近で本種の飛翔は確認されていない。供用後も、利用の中心は蒲生干潟～七北田川等にかけてのエリアであると考えられる。なお、本種は水鳥ではなく、水面に勢いよく降下する可能性は小さい。 ・事業地近傍の太陽光パネル使用事業者へのヒアリングでは鳥類のパネル衝突等の影響は確認されていない。 ・以上より、太陽光パネルの反射光の忌避や水面と誤認識することでの誘引・衝突の可能性は小さく、太陽光パネルに起因する影響が生じる可能性は小さいものと考えられる。

※ 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」: 主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」: 利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」: 主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

表 8.4-36 (27) 予測結果 (鳥類: ホオアカ)

項目	内容	
<p>予想される生息環境の変化等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は草原、農耕地干拓地等草地環境に生息する種である。現地調査では、蒲生干潟、七北田川等で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟、七北田川は事業に伴う土地改変等が生じない。 	
<p>①注目すべき種の消滅の有無や変化の程度※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、事業による直接改変を受けず、影響を及ぼしうる環境等の変化もないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。
<p>②施設の稼働等に伴う騒音による動物への影響※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の稼働時に、計画建築物内で流通加工作業が行われるが、計画建築物外部へ大きな騒音が伝播することはない。 ・以上より、施設の稼働等に伴う騒音影響は生じないものと考えられる。
<p>③太陽光パネルの反射光による鳥類等への影響※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光パネルが出現する計画地付近で本種の飛翔は確認されていない。供用後も、利用の中心は蒲生干潟～七北田川等にかけてのエリアであると考えられる。なお、本種は水鳥ではなく、水面に勢いよく降下する可能性は小さい。 ・事業地近傍の太陽光パネル使用事業者へのヒアリングでは鳥類のパネル衝突等の影響は確認されていない。 ・以上より、太陽光パネルの反射光の忌避や水面と誤認識することでの誘引・衝突の可能性は小さく、太陽光パネルに起因する影響が生じる可能性は小さいものと考えられる。

※ 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」: 主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」: 利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」: 主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

表 8.4-36 (28) 予測結果 (鳥類：アオジ)

項目	内容	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は草原、農耕地、疎林、河原等に生息する種である。現地調査では、蒲生干潟で確認されており、計画地内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟は事業に伴う土地改変等が生じない。 	
①注目すべき種の消滅の有無や変化の程度※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、事業による直接改変を受けず、影響を及ぼしうる環境等の変化もないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。
②施設の稼働等に伴う騒音による動物への影響※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の稼働時に、計画建築物内で流通加工作業が行われるが、計画建築物外部へ大きな騒音が伝播することはない。 ・以上より、施設の稼働等に伴う騒音影響は生じないものと考えられる。
③太陽光パネルの反射光による鳥類等への影響※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光パネルが出現する計画地付近で本種の飛翔は確認されていない。供用後も、利用の中心は蒲生干潟～七北田川等にかけてのエリアであると考えられる。なお、本種は水鳥ではなく、水面に勢いよく降下する可能性は小さい。 ・事業地近傍の太陽光パネル使用事業者へのヒアリングでは鳥類のパネル衝突等の影響は確認されていない。 ・以上より、太陽光パネルの反射光の忌避や水面と誤認識することでの誘引・衝突の可能性は小さく、太陽光パネルに起因する影響が生じる可能性は小さいものと考えられる。

※ 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

表 8.4-37 予測結果（両生類：ニホンアマガエル）

項目	内容	
予想される生息環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は草水田や池沼、溝等の浅い止水で繁殖する種である。現地調査では、計画地周辺の貞山堀付近で成体の鳴き声が確認されている。 ・計画地周辺で繁殖環境となる可能性がある場所として貞山堀の三面張の水路等が存在するが、当該場所は事業に伴う土地改変等が生じない。 	
①注目すべき種の消滅の有無や変化の程度※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、事業による直接改変を受けず、影響を及ぼしうる環境等の変化もないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。
②施設の稼働等に伴う騒音による動物への影響※	×	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の稼働時に、計画建築物内で流通加工作業が行われるが、計画建築物外部へ大きな騒音が伝播することはない。 ・以上より、施設の稼働等に伴う騒音影響は生じないものと考えられる。

※ 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

表 8.4-38 予測結果（昆虫類：アキアカネ）

項目	内容	
<p>予想される生息環境の変化等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は挺水植物の繁茂する池沼や水田、溝等で繁殖する種である。現地調査では、計画地及び計画地周辺の貞山堀付近で成虫が確認されている。 ・計画地周辺で繁殖環境となる可能性がある場所として貞山堀の三面張の水路等が存在するが、当該場所は事業に伴う土地改変等が生じない。なお、計画地内に繁殖環境は存在せず、計画地内での確認は成虫の飛来に伴う利用であると考えられる。 ・本種が確認された蒲生干潟は事業に伴う土地改変等が生じない。 	
<p>①注目すべき種の消滅の有無や変化の程度※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、事業による直接改変を受けず、影響を及ぼしうる環境等の変化もないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。
<p>②施設の稼働等に伴う騒音による動物への影響※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の稼働時に、計画建築物内で流通加工作業が行われるが、計画建築物外部へ大きな騒音が伝播することはない。 ・以上より、施設の稼働等に伴う騒音影響は生じないものと考えられる。
<p>③太陽光パネルの反射光による鳥類等への影響※</p>	×	<ul style="list-style-type: none"> ・繁殖環境である計画地周辺の貞山堀は計画建築物と 100m 以上の離隔がある。また、蒲生干潟等、繁殖に適した水辺が多数存在する。 ・事業地近傍の太陽光パネル使用事業者へのヒアリングでは、太陽光パネル周辺に昆虫類の飛来や死骸等も確認されていない。 ・以上より、太陽光パネルの反射光の忌避や水面と誤認識することでの誘引・衝突の可能性は小さく、太陽光パネルに起因する影響が生じる可能性は小さいものと考えられる。

※ 予測結果の記号は以下のとおり。

「○」：主たる利用環境が縮小/消失し、種として影響が生じる。

「△」：利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さい。

「×」：主たる利用環境の縮小/消失はほとんどなく、種としての影響は小さい。

(5) 環境の保全及び創造のための措置

環境の保全及び創造のための措置を以下に示す。なお、これらの一部には、事業計画検討の段階における環境への配慮事項であり、予測条件として考慮したものも含まれる。

- ・鳥類をはじめとする動物の重要な生息地である蒲生干潟への影響を低減するため、事業関係車両の走行経路を蒲生干潟に近接しないよう設定する等の配慮を行う。
- ・道路が蒲生干潟等の動物の重要な生息地に近いことから、車両走行時は、道路上を移動する動物の存在に注意し、ロードキル（轢死）を防止するための措置（速度低下等の啓発）をとる。
- ・敷地内では、動物を誘引するようなもの（餌となりうる生ごみ等）を屋外放置しないよう、周知徹底を図る。
- ・ロードキルが発生した場合は、可能な範囲での位置及び対象動物の報告、行政所管課への通報、事業者内での記録・共有を行う。
- ・建物外部の夜間照明について、昆虫類やこれらを餌とする鳥類等が過度に誘引されるリスクを低減するため、運用上、必要最低限の規模とする。

(6) 評価

a) 回避・低減に係る評価

(a) 評価方法

予測結果を踏まえ、供用時における事業実施に伴う動物への影響について、保全対策等により実行可能な範囲で回避・低減が図られているか否かを判断した。

(b) 評価結果

供用時においては、動物の重要な生息地である蒲生干潟への影響低減のため、「(5) 環境の保全及び創造のための措置」(p8.4-103 参照) に示す措置を講じることとしている。

注目すべき種を対象とする予測の結果、計画地内及びその近辺において事業に伴う環境の変化(土地利用変更、計画建築物の出現、事業関係車両の運行等)が生じるものの、計画地周辺に存在する蒲生干潟～七北田川の水辺環境エリアを主たる利用・生息地とする種がほとんどであり、地域の動物相への影響は小さいと予測された。動物1種(タヌキ)、鳥類1種(ヒバリ)については、他の種と比べて計画地内の利用が多い。供用時において計画地内の利用環境(草地)が縮小/消失するが、蒲生干潟や七北田川等に類似環境が多く存在し、これらが代替的に利用されると考えられることから、種としての影響は小さいと予測された。

太陽光パネルの影響についても、近隣での設置事例の情報や現地調査での確認状況から、誘引や衝突等の影響が生じる可能性は総じて小さいものと予測された。

なお、計画地周辺は未利用地が多く、現時点で想定する将来の環境変化に一定の不確実性があることから、事後調査において予測結果の確認及び必要に応じた対策の検討を行うものとする。

以上のことから、供用時における事業実施による影響は、実行可能な範囲内で低減が図られているものと評価する。

b) 目標や基準等との整合性に係る評価

(a) 評価方法

予測結果が、表 8.4-39 に示す基準等との整合が図られているかを評価した。

表 8.4-39 整合を図る基準等(動物)

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・環境省レッドリスト 2020・「宮城県の希少な野生動植物-宮城県レッドリスト 2021 年版-」・「令和3年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書 保全上重要な種(哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、魚類、昆虫類)」(令和4年2月、仙台市)・「令和元年度 東北地方太平洋沿岸地域重点地区調査業務調査報告書」(環境省自然環境局生物多様性センター、令和2年3月) |
|--|

(b) 評価結果

注目すべき種に対する予測の結果、全ての種について影響が小さいと予測された。

以上のことから、目標や基準等との整合が図られているものと評価する。